

第 21 回 尾瀬国立公園協議会（2022(令和 4)年度)

令和 5 年 1 月 3 0 日（月）

1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

（ウェブ開催）

次 第

議事

- （１）「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について
- （２）「新・尾瀬ビジョン」の実現に向けた取組事例
 - ・ニホンジカ対策について（環境省）
 - ・ゼロカーボンパーク尾瀬かたしなエリアについて（片品村）
 - ・尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画について（片品村）
 - ・ふくしま尾瀬の取組について（福島県）
 - ・４観光協会連携の登山口交換 P R について（片品村観光協会）
 - ・尾瀬ネイチャーガイド養成講座について（魚沼市観光協会）
 - ・登山系 YouTuber との連携について（尾瀬保護財団）
- （３）尾瀬国立公園利用アクションプランの検討状況について
- （４）その他
 - ・携帯電話の通信環境の整備について
 - ・尾瀬国立公園協議会設置要綱の改正について

【配布資料】

- | | |
|--------|------------------------------|
| 資料 1－1 | 「新・尾瀬ビジョン」整理表 2022（概要版） |
| 1－2 | 「新・尾瀬ビジョン」整理表 2022 |
| 資料 2－1 | 尾瀬国立公園ニホンジカ対策について |
| 2－2 | 尾瀬かたしなエリアゼロカーボンパークについて |
| 2－3 | 尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画について |
| 2－4 | ふくしま尾瀬の取組について |
| 2－5 | ４観光協会連携の登山口交換 P R について |
| 2－6 | 尾瀬ネイチャーガイド養成講座 |
| 2－7 | 登山系 YouTuber との連携について |
| 資料 3－1 | 尾瀬国立公園利用アクションプラン策定に向けたスケジュール |
| 3－2 | 尾瀬国立公園利用アクションプラン（中間報告案） |
| 3－3 | 尾瀬国立公園利用状況調査の結果について |
| 資料 4－1 | 携帯電話の通信環境の整備について |
| 4－2 | 尾瀬国立公園協議会設置要綱改正案 |
| 参考資料 1 | 2022 年尾瀬国立公園の入山者数について |
| 参考資料 2 | 尾瀬国立公園協議会設置要綱（H30. 3） |

第21回尾瀬国立公園協議会 出欠表

※敬称略、順不同

	所 属	氏 名		出欠	随行者
1	環境省関東地方環境事務所	所長	大森 恵子	出席	
2	林野庁関東森林管理局計画保全部	部長	諏訪 実	出席	関東森林管理局 計画課長 杉崎 浩史 自然再生指導官 黒沢 幸一 会津森林管理署南会津支署 署長 橋本 俊夫 総括森林整備官 櫻井 勝
3	福島県生活環境部	自然保護課長	橋本 晃一	出席	
4	栃木県環境森林部			欠席	
5	群馬県環境森林部	自然環境課 企画推進係長	西嶋 弘満	出席	主事 川上 史歩
6	新潟県環境局	自然共生室長	星野 航	出席	環境対策課 副参事 皆川 寛樹
7	檜枝岐村	村長	星 明彦	出席	
8	南会津町	町長	渡部 正義	出席	
9	日光市			欠席	
10	片品村	村長	梅澤 志洋	出席	むらづくり観光課長 狩野 久良
11	魚沼市	生活環境課 主事	桜井 凜	出席	
12	公益財団法人尾瀬保護財団	事務局長	石井 年香	出席	
13	三井物産株式会社サステナリティ経営推進部 グローバル環境室	三井物産フォレスト株式会社 本州事業部長	泊 広信	出席	業務部 大森 丈士
14	東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部水利・尾瀬グループ	グループマネージャー	小島 俊	出席	チームリーダー 菊池 史朗
15	東京パワーテクノロジー株式会社	常務取締役	森尻 謙一	出席	尾瀬林業事業所 環境保全GM 高野 尚之
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	理事	星 俊秀	出席	
17	南会津町観光物産協会館岩支部			欠席	
18	一般社団法人日光市観光協会 湯西川・川俣・奥鬼怒支部	事務所長	小松 正史	出席	
19	一般社団法人片品村観光協会	専務理事	倉田 剛	出席	
20	一般社団法人魚沼市観光協会	事務局長	樺澤 正人	出席	
21	尾瀬山小屋組合 組合長		平石 忠一	欠席	
22	尾瀬山小屋組合 副組合長		星 公一	欠席	
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会			欠席	
24	公益財団法人日本野鳥の会 栃木県支部	副支部長	遠藤 孝一	出席	
25	片品山岳ガイド協会	会長	館山 美和	出席	
26	新潟県自然観察指導員の会	顧問	加瀬 由紀子	出席	
27	公益財団法人日本自然保護協会	参与	横山 隆一	出席	部長 大野 正人
28	一般財団法人自然公園財団			欠席	
29	尾瀬ガイド協会	事務局	桂田 直樹	出席	
30	福島大学	教授	長橋 良隆	出席	
31	横浜国立大学大学院	教授	加藤 峰夫	出席	

関係者

1	東京大学大学院農学生命科学研究科	准教授	山本 清龍	出席	
---	------------------	-----	-------	----	--

事務局

	所属	氏名	
1	関東地方環境事務所国立公園課	課長	植竹 朋子
2		課長補佐	青柳 信太
3		自然保護官	黒田 浩太郎
4	関東地方環境事務所檜枝岐自然保護官事務所	国立公園管理官	山崎 大輔
5	関東地方環境事務所片品自然保護官事務所	自然保護官	服部 優樹
6	公益財団法人日本交通公社	地域戦略室長・上席主任研究員	守屋 邦彦
7		主任研究員	後藤 健太郎
8	公益財団法人尾瀬保護財団	企画課長	白石 光伸
9		主事	宇野 翔太郎

「新・尾瀬ビジョン」に基づく取組状況について
～「新・尾瀬ビジョン」整理表 2022（概要版）～

※「★」は議事（2）「新・尾瀬ビジョン」の実現に向けた取組事例で報告

みんなの尾瀬

～尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう。～

視点① 愛される尾瀬づくり

■ 尾瀬のファンづくり

- ・ 福島県：オンラインフォトコンテストを主軸に自然体験と写真教室を行うツアー等を実施（★）

■ 尾瀬で学ぶ機会の拡大

- ・ 東京電力 RP 株式会社：尾瀬戸倉の森のブナ間伐作業を企業と連携して実施
- ・ 群馬県：尾瀬を舞台にハイクオリティな STEAM 教育を実施（R3 モニター事業→R4 モデル事業）

視点② モデルとなる尾瀬づくり

■ 先進的な取り組みの推進

- ・ 片品村：全国 7 番目のゼロカーボンパークに登録（令和 4 年 4 月 21 日）（★）
- ・ 片品村・東京電力・戸倉区、片品村観光協会、東京パワーテクノロジー、尾瀬山小屋組合など
：尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会を設立し、エリア一帯の脱炭素化を推進（★）

視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり

■ 担い手の育成

- ・ 新潟県・魚沼市・魚沼市観光協会：ガイドの後継者確保を目的に養成講座を実施（★）

■ 資金的サポートの充実

- ・ 片品村：尾瀬ヶ原や笠ヶ岳でのシカ柵設置・管理にかかる支援金を募集

視点④ 情報の効果的・効率的な発信

■ 認知度の向上／情報の提供

- ・ 檜枝岐村：会津沼田街道のプロモーション動画を制作・公開

みんなで守る

～かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう。～

視点① 自然豊かな尾瀬づくり

■ 外来植物対策

- ・ 南会津町：町広報誌を活用したオオハンゴンソウ等の外来植物駆除の強化

視点③ 野生動物との軋轢の解消

■ ニホンジカによる被害の低減

- ・ 福島県：新たに田代山でのニホンジカ捕獲事業を開始
- ・ 群馬県：研究見本園のシカ柵設置・撤去をボランティア・民間企業のサポートを得ながら実施

みんなで楽しむ

～自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたい尾瀬にしましょう。～

視点③ 楽しむための土台づくり

■ 地域における利用の役割分担

- ・ 東京パワーテクノロジー株式会社：鳩待山荘・鳩待峠休憩所のリニューアル計画を推進

■ 施設の整備

- ・ 尾瀬ガイド協会：環境省事業を活用して笠ヶ岳登山道を整備、継続した登山道との関わりを検討

まとめ

- 尾瀬国立公園利用アクションプランでは、「尾瀬ファンベース戦略」として、尾瀬を楽しみながら守る活動への参加も促し、尾瀬利用者を尾瀬の守り手（＝ファン）に巻き込もうとしている。
- 特に、尾瀬の自然資源を保全するうえで一番の脅威であるニホンジカへの対策では、ボランティアや民間企業のサポートを得ながら対策が推進されている。
- 「新・尾瀬ビジョン」に掲げる「みんなに愛され続ける尾瀬」の実現に向けて、構成員の努力に加え、幅広いサポートを得ながら取組が推進されている。
- このような取組を加速させながら着実に成果を出していきたい。

【みんな】

新・尾瀬ビジョン整理表2022

みんなで守る	国		県				市町村					財団	土地所有者			観光関係者					地元団体				NGO等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26			27																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
凡例	環境省関東地方環境事務所	林野庁関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	尾瀬保護財団	三井物産	東京電力R P	東京P T	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会館岩支部	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	福島県連絡協議会	尾瀬保護指導員	日本野鳥の会栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会	関連する計画等	関連する会議等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
達成度(自己評価) ◎...取組が特に進捗している ○...取組を実施している △...今後取組を予定している 黄色塗り潰し...前年度より評価が上がった 灰色塗り潰し...前年度より評価が下がった																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			

新・尾瀬ビジョン整理表2022

みんなで楽しむ	国		県				市町村					財団	土地所有者			観光関係者						地元団体				NGO等			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		
凡例 達成度(自己評価) ◎...取組が特に進捗している ○...取組を実施している △...今後取組を予定している 黄色塗り潰し...前年度より評価が上がった 灰色塗り潰し...前年度より評価が下がった	環境省関東地方環境事務所	林野庁関東森林管理局	福島県	栃木県	群馬県	新潟県	檜枝岐村	南会津町	日光市	片品村	魚沼市	尾瀬保護財団	三井物産	東京電力R P	東京P T	尾瀬檜枝岐温泉観光協会	南会津町観光物産協会館岩支部	日光市観光協会	片品村観光協会	魚沼市観光協会	尾瀬山小屋組合	尾瀬保護指導員 福島県連絡協議会	日本野鳥の会栃木県支部	片品山岳ガイド協会	新潟県自然観察指導員の会	日本自然保護協会	尾瀬ガイド協会	対応する計画等	対応する会議体
視点① 魅力あふれる尾瀬づくり																													
■尾瀬の魅力向上 ・地域の宝について学び再発見する機会の拡大 ・新たな視点による地域の宝の発掘	○		○		◎		○	○		○	○			△	◎					○	○	◎					○	・群馬県環境学習等推進行動計画・会津沼田街道魅力向上推進プラン	・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
視点② 幅広い楽しみ方の検討																													
■多様な利用方法の検討 ・新たな尾瀬の楽しみ方の検討や意見交換 ・地域特性に応じた残雪期や冬期利用のあり方の検討	○				○					○		○		○		○						○	○		○		○	国立公園利用拠点上質化事業整備事業(尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画)	・尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会
■エコツーリズムの推進 ・質の高い認定ガイドなどエコツーリズムに関わる事業者の育成 ・地域の宝を活かした尾瀬ならではの旅行商品や体験プログラムの作成 ・認定ガイド利用を促進する仕組みの構築 ・旅行エージェント等と連携したエコツーリズムの促進	◎		○		◎	○	○	△		○	○	○		◎	○				○	○	○	○		△			◎	・人材育成支援事業補助金やガイド支援事業補助金(檜枝岐村) ・第2次南会津町環境基本計画	
■地域における利用の役割分担 ・地域特性等に応じた、対象とする利用者層や利用スタイルの提案 ・利用者層や利用スタイルに応じた利用施設のあり方の検討	○				○						○	○			○							○				◎			
■滞在型・周遊型利用の促進 ・尾瀬を楽しむモデルコースの提案 ・朝夕や星空など泊まれないと体験できない魅力の発信 ・季節や場所ごとの魅力の発信による利用の分散化	◎		○		○		○			○	○	○	○	○	◎	○			○	○	○	◎		○			◎	・尾瀬国立公園協議会 ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
視点③ 楽しむための土台づくり																													
■安全対策 ・事故や遭難を防止するための危険箇所の整備や利用者への普及啓発 ・事故や遭難情報の収集と共有 ・救助体制の整備や今後のあり方の検討	○				○	○	○	○		○	○	○		◎	○	○				△	○	◎		○			○	・第2次南会津町環境基本計画	・檜枝岐遭難対策救助隊 ・片品村遭難対策救助隊
■施設の整備 ・荒れた登山道や標識類などの整備 ・長寿命化などトータルコスト低減の検討や実施 ・道の駅など既存施設の情報発信拠点としての有効活用	◎		○		○	○	○	○		○	○	○		◎	○	○				○	○	△					○	・尾瀬国立公園 標識ガイドライン	
■ルール・マナーの検討と普及啓発 ・携帯電話などの通信端末やドローン、冬期利用についてのルールの検討 ・尾瀬を楽しむ上でのルール・マナーの普及啓発 ・入山口やインターネットでを活用した入山前後における普及啓発	◎				○			○		○	○	○		◎	○	○				○	○	○					○	・尾瀬国立公園協議会	
■望ましい交通アクセスの検討 ・滞在型や周遊型利用の促進を意識したアクセスのあり方の検討 ・利用者が少ない地域へのアクセスの向上 ・尾瀬と他の地域を結ぶアクセスの連携強化 ・分かりやすくして利用しやすい案内や誘導	○				○	○	○	○		○	○	○		○	○					○	○	◎					○	・尾瀬国立公園協議会・適正利用の推進に関する小委員会 ・県道栗山館岩線整備推進規制同盟会・片品村尾瀬交通対策連絡協議会	

尾瀬国立公園二ホンジカ対策について

尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策方針（2020年1月）

	日光国立公園 シカの生息条件下で成立した生態系	尾瀬国立公園 シカによる影響を受けずに成立した生態系
最終目標	シカの生息密度が適切に保たれ、植生への影響が十分に小さく、健全な植生の維持・更新に支障がない状態を維持	尾瀬ヶ原・尾瀬沼や高山帯へのシカの影響を排除し、湿原及び高山植生への影響が見られない状態を維持
（5年）事業目標 （目途）	➢ 植生への影響を低減するため、<u>シカの生息密度を現状より低密度に</u> ➢ 保全対象となる湿原・高山・森林植生を維持・回復するため、関係機関が連携して、<u>防護柵を適切に設置・維持管理</u>	➢ 湿原植生への影響を低減するため、<u>尾瀬ヶ原等の湿原に出没するシカの個体数を概ね半減</u> ➢ 森林、湿原及び高山植生を保護するため、関係者が連携して、<u>優先防護エリアのA及びBランクに防護柵を設置</u>

実施方針	捕 獲	
	(1) 共通事項 ・効果的・効率的な捕獲、利用者等の安全対策、自然環境への配慮、捕獲個体の処理、捕獲の実施主体、関連法令等の遵守 (2) 奥日光・足尾周辺地域 ・定住型個体(通年)及び移動型個体(晩秋～冬)の捕獲 ・足尾地域高標高域での捕獲検討 ・捕獲適地や適期の検討のための情報収集	(3) 片品・檜枝岐地域(移動型個体の移動経路上) ・集中通過地域での効率的・効果的な捕獲 ・関係機関で連携した効率的・効果的な捕獲 ・定住型個体の通年捕獲（有害・管理捕獲） (4) 尾瀬ヶ原・尾瀬沼地域 ・春から晩秋にかけての移動型個体の捕獲 (5) 会津駒ヶ岳、田代山・帝釈山周辺地域 ・生息状況調査の結果に基づき捕獲 ・捕獲を効果的に実行するための体制整備
	植生保護	モニタリング
	(1) 日光国立公園 ・既存防護柵の維持管理、植生の回復、保全対象種の衰退防止 ・防護柵の効果検証 ・防護柵の設置検討(鬼怒沼、女峰山、太郎山) (2) 尾瀬国立公園 ・優先防護エリアのA及びBランク区域への5年以内の防護柵の設置 ・防護柵の効果検証	(1) モニタリング ・①生息状況の把握、②植生影響の把握、③対策の効果検証の3つの観点から実施 ・モニタリングの継続、事業目標の達成に向けた進捗の把握によりPDCAサイクルを回す ・データの収集・蓄積が効率的に行える手法、共通様式の導入 (2) 調査研究 ・移動型個体群を含むシカの動態や植生への影響等に関する調査研究の推進

尾瀬国立公園周辺の二ホンジカの捕獲状況

- 関係機関が連携して、尾瀬国立公園周辺でのシカ捕獲の強化を進めている。
- **捕獲数は増加傾向**にあるが、「湿原に出没するシカの概ね半減」の達成には、**更なる捕獲の強化が必要**。
- 今後は分布拡大域である田代山の捕獲も強化する。

実施主体	主な捕獲場所	2019年	2020年	2021年	2022年
環境省（指定管理事業）	核心地域：尾瀬ヶ原、尾瀬沼、大江湿原周辺	59	90	87	124 (過去最高)
群馬県（指定管理事業）	集中通過地域：国道401号・120号	237	206	258 (過去最高)	227 (12月時点)
福島県（指定管理事業）	生息拡大地域：南会津地方	136	108	168 (過去最高)	110 (11月末時点)
合計		432	390	513	461

尾瀬ヶ原のシカ確認個体数（ライトセンサス調査）



※捕獲頭数は尾瀬ヶ原のみでの比較

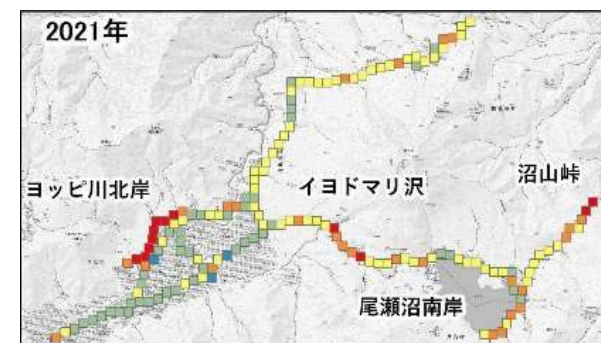
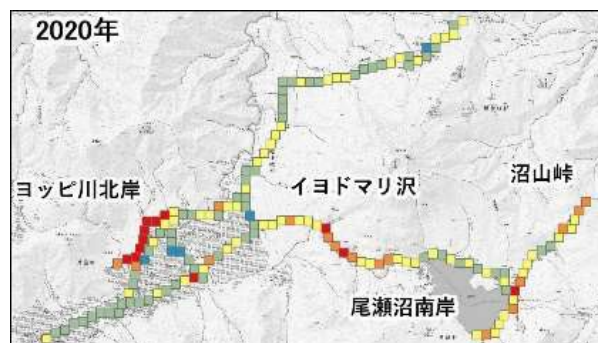
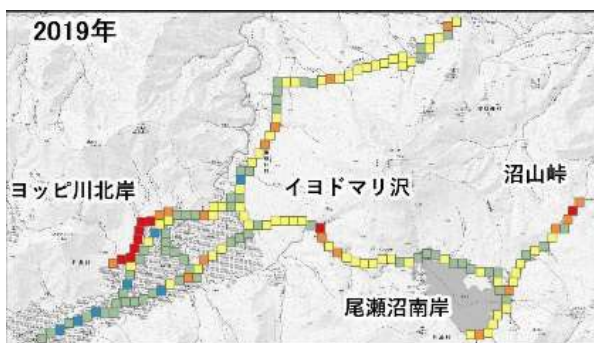
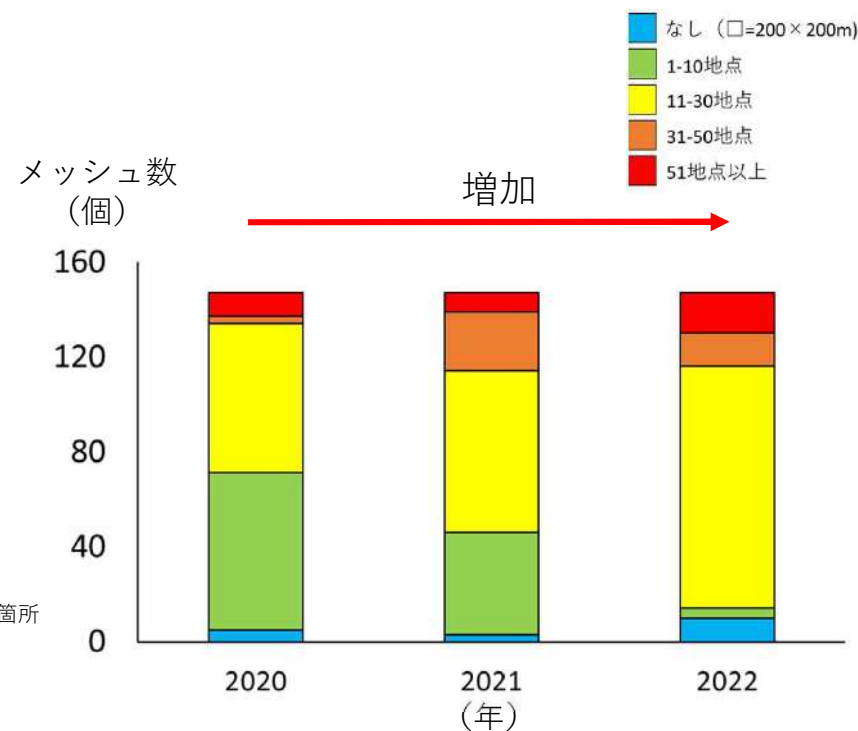
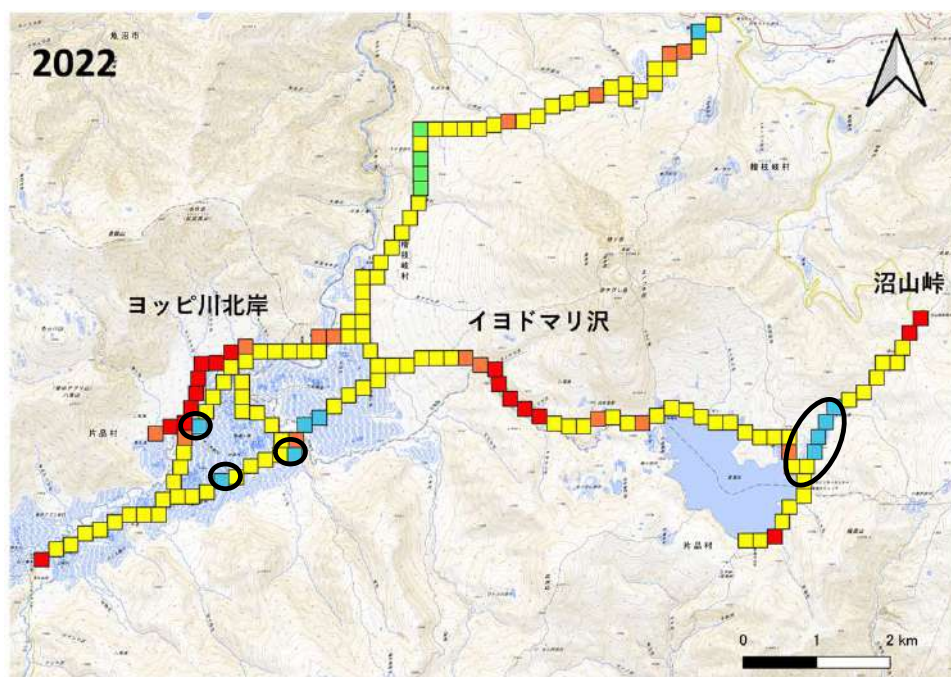
尾瀬国立公園の防護柵の設置状況

- 関係機関が連携して、優先防護エリアA・Bランクを中心に防護柵の設置を進めている。
- 2022年度中に、**優先防護エリアA・Bランク11か所のうち7か所に設置が完了。**
- 2025年（目標年）までに、A・Bランクの全てに植生保護柵の設置完了を目指す。



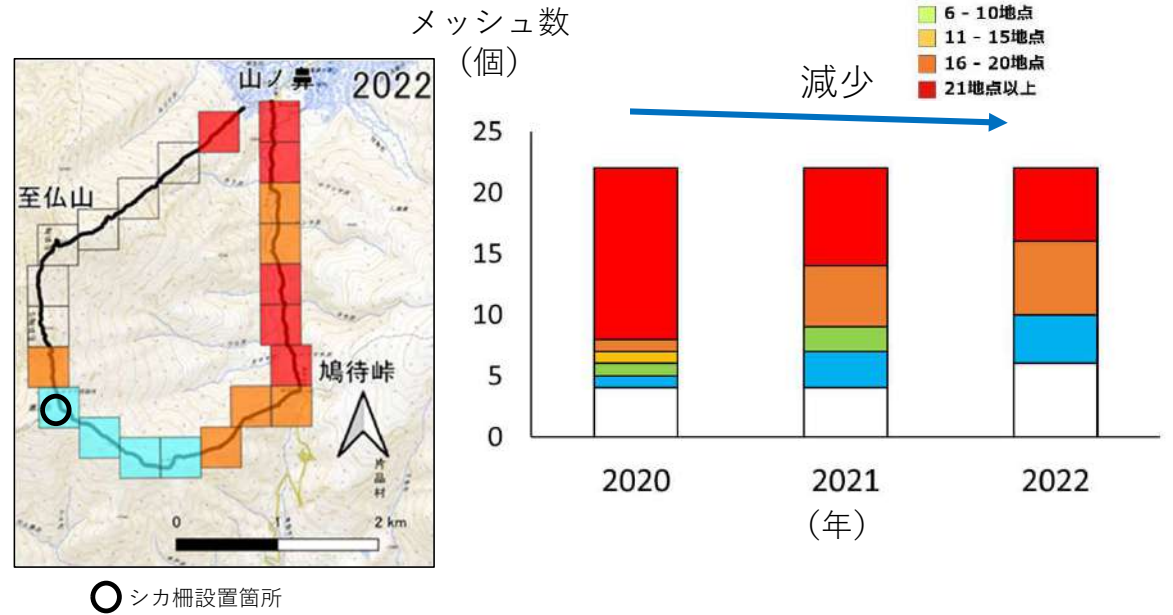
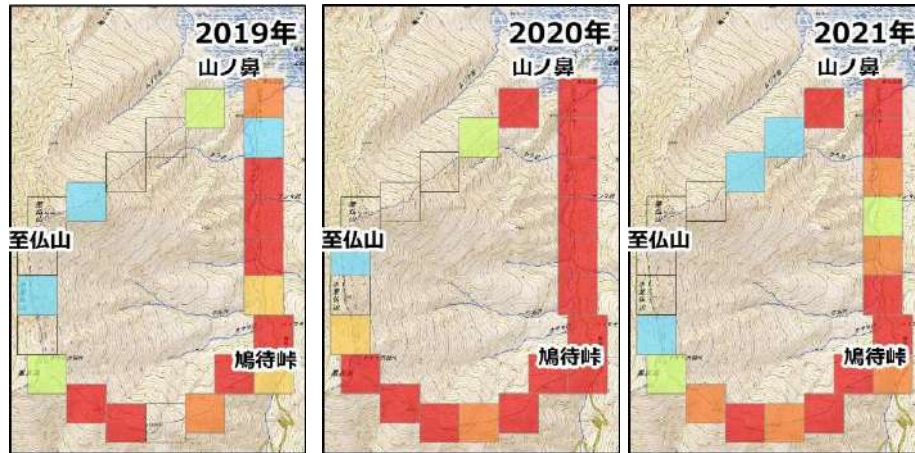
- ・ 採食確認地点数は全体的に増加傾向にある。(至仏山・笠ヶ岳・田代山は減少傾向)
- ・ 会津駒ヶ岳においては被害の増加と被害のエリアの拡大が確認され、今後イワイチヨウ群落の掘返しによる被害と景観の悪化が懸念される。
- ・ シカ柵を設置した箇所では、シカの採食が防止され、被害が減少した。
- ・ シカ柵設置箇所以外で採食地点が減少したところは、過去の採食により、採食される植物が減少したことが要因として考えられる。

■ 湿原における被害の変化

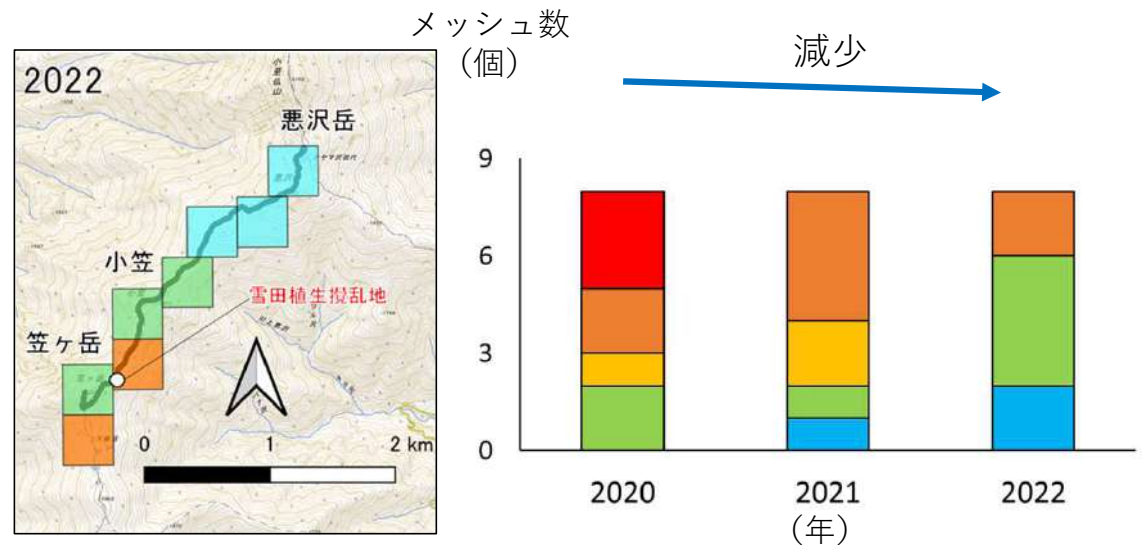
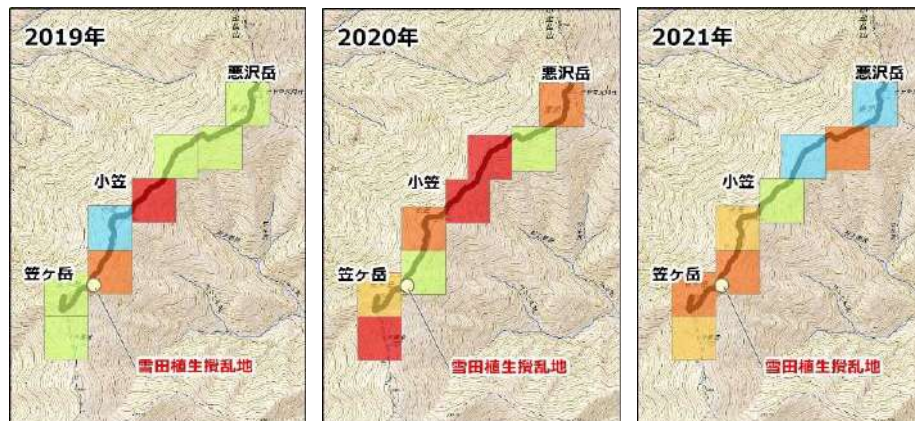


■高山・森林における被害の変化

○至仏山

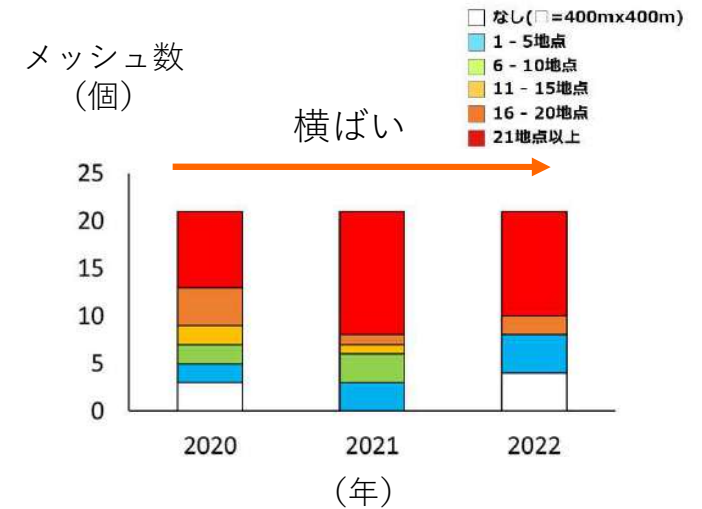
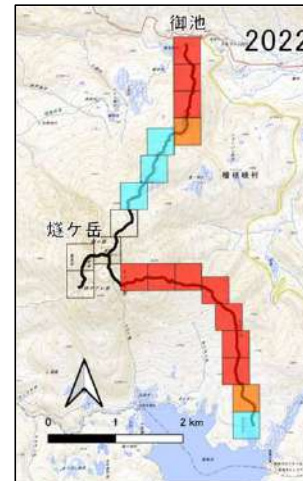


○笠ヶ岳

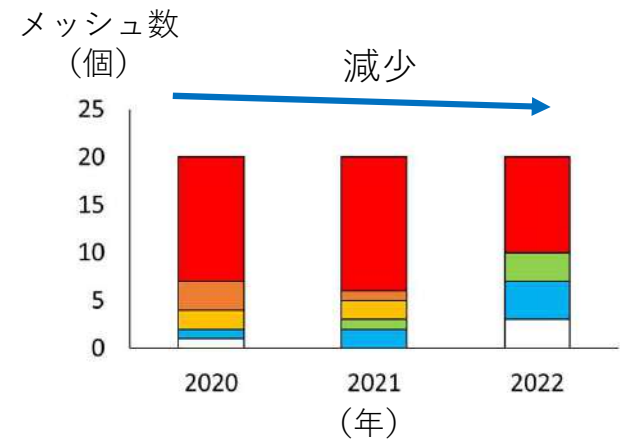
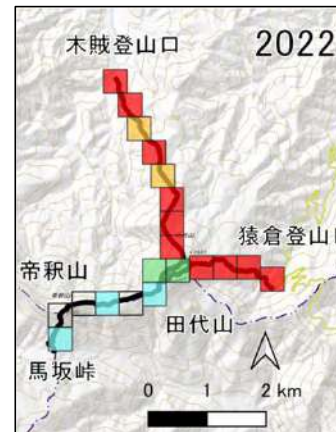


尾瀬国立公園の植生被害状況 (採食痕跡の調査結果)

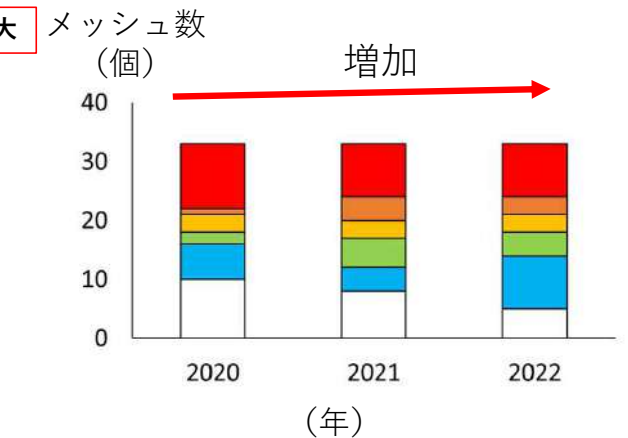
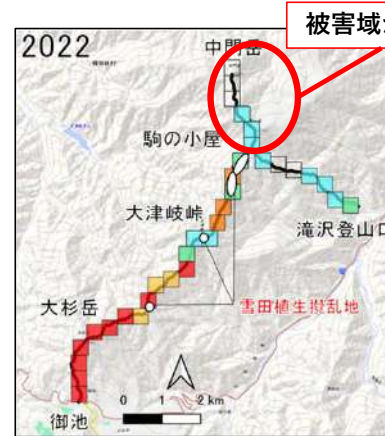
○燧ヶ岳



○田代山

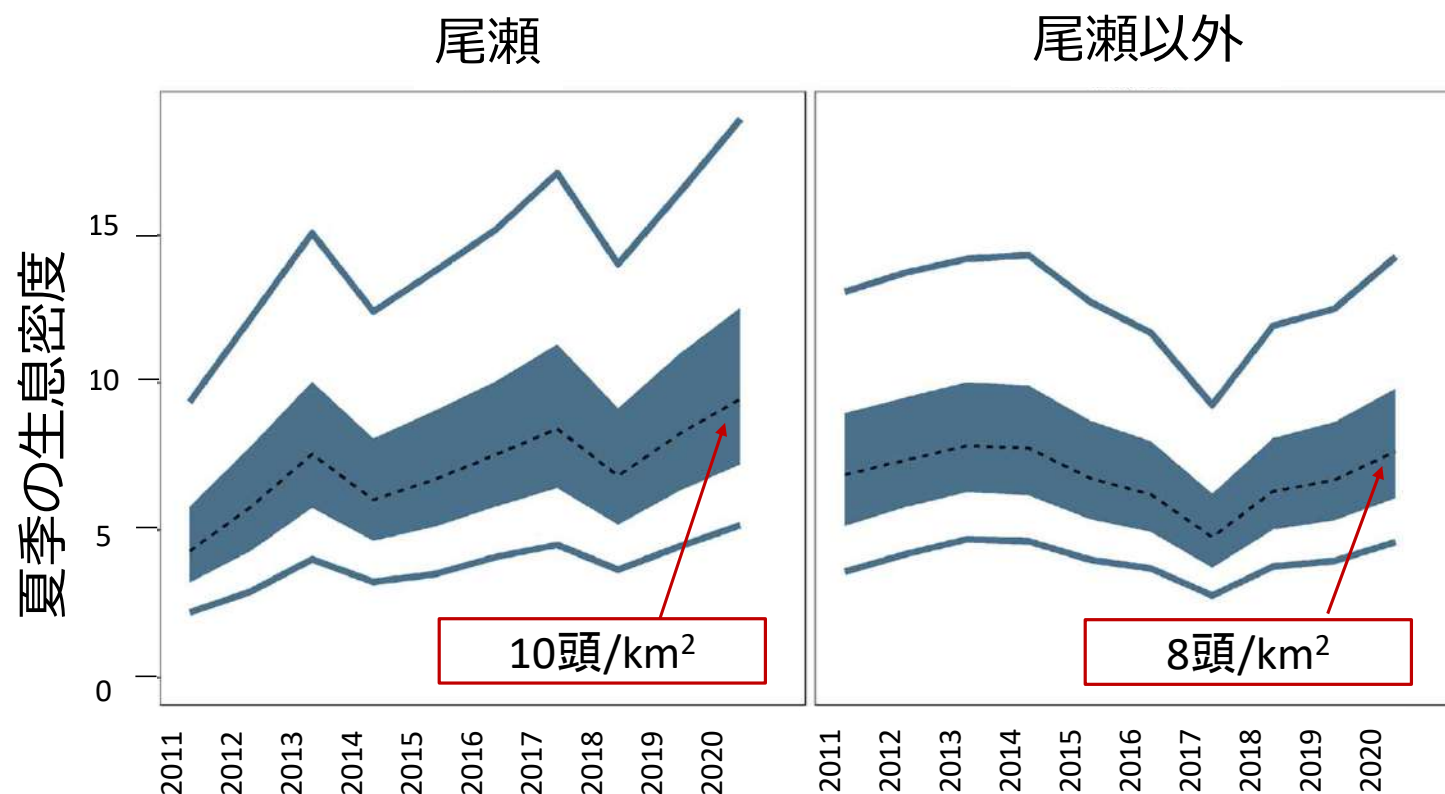
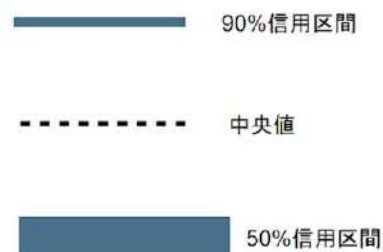
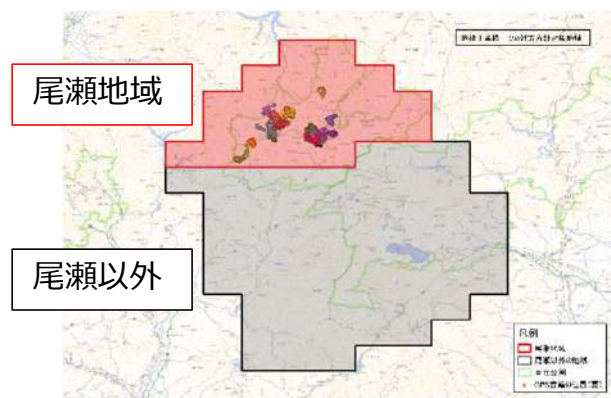


○会津駒ヶ岳



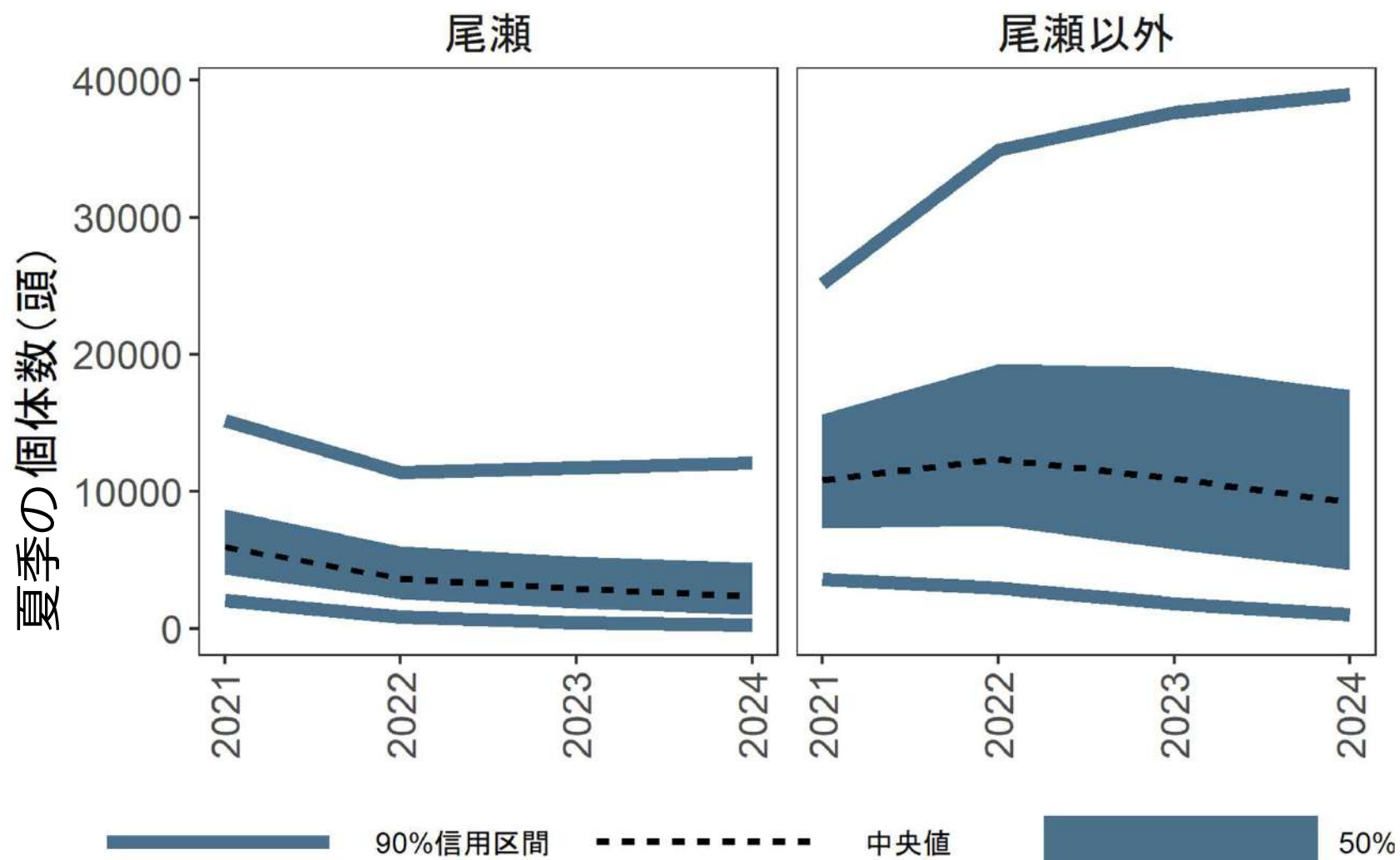
尾瀬国立公園の対策エリア全体における生息密度（個体数推定）

- ・ 尾瀬地域における生息密度は増加傾向。
- ・ 尾瀬以外の地域における生息密度は、2014～2017年に一度減少傾向になった後、近年は増加傾向。



尾瀬国立公園の対策エリア全体における将来予測（個体数推定）

- ・ 2023年から対策エリア全体の捕獲努力を2020年の1.4倍にすることで、2024年には尾瀬地域の個体数を2019年の半数にできることが予測された。



「片品村 5つのゼロ宣言2050」

近年、世界中で気候変動の影響による自然災害の激甚化が顕著になっています。

地球温暖化や気候変動は、異常気象や海面の上昇、生態系の変化をもたらし、私たちの身近な生活においても、河川の洪水や氾濫、集中豪雨、熱中症や感染リスクの増加、農作物の生産に影響を与えています。

2015年にCOP21(第21回国連気候変動枠組条約締約国会議)で合意されたパリ協定では、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より低く保つ目標が示されました。また、2018年に公表されたIPCC(国連気候変動に関する政府間パネル)の報告では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年に温室効果ガスの実質排出量をゼロにすることが必要である」とされ、2021年に開催されたCOP26では、「気温上昇を1.5℃に抑えること」を正式に世界の目標として明記されました。合わせて日本全体においても、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする、「カーボンニュートラル」や「脱炭素社会」の実現に向けた取り組みが示されました。

こうした中、自然豊かな片品村は、地球温暖化や気候変動を身近な問題として考え、地球と人が共存できる社会を次世代に引き継ぐため、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すことを宣言し、具体的な取り組みを推進していきます。

2022年2月22日 片品村長 梅澤 志洋

「片品村 5つのゼロ宣言2050」



宣言1 自然災害による死者「ゼロ」

片品村民の防災意識を高め、自然災害による死者をゼロにします。

- ・災害に備えたむらづくり ・避難所の総合機能強化
- ・ハザードマップ等による村民への的確な防災情報の提供

宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

片品村の豊富な水資源や森林資源を活かし、再生可能エネルギー利用を推進するとともに、温室効果ガスの排出量を2050年までに実質ゼロにします。

- ・適切な森林管理と自然環境保全
- ・再生可能エネルギーの地産地消促進
- ・EV(乗用車やバス)、E-bike等、電動化の積極的推進

宣言3 災害時の停電「ゼロ」

エネルギーの自立・分散化等を図り、災害時にも電力供給を継続できるようにして停電をゼロにします。

- ・電力をはじめとするエネルギー供給設備の維持管理促進
- ・新築住宅への太陽光発電、各家庭への蓄電池等の普及促進

宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」

日本で初めてごみの持ち帰り運動が始まった自然保護運動発祥の地「尾瀬国立公園」の精神を次世代に継承するため、プラスチックごみの排出量を削減します。

- ・プラスチックの使用削減、自然素材を活用した代替素材の利用促進
- ・片品村民および片品村来訪者へのプラスチックごみ排出削減のための普及啓発促進

宣言5 食品ロス「ゼロ」

「MOTTAINAI」(もったいない)の心で食品ロスをなくします。

- ・食品ロス削減「MOTTAINAI運動」の展開
- ・宿泊施設や飲食店での「残さず食べよう! 30.10運動」の促進

群馬/尾瀬かたしなエリア(片品村) ゼロカーボンパーク登録 全国第7号(村1号) The Road to Zero Carbon Park

1. サステナブルツーリズム×ゼロカーボン観光の推進

- ・民間事業者、尾瀬戸倉観光協会、尾瀬認定ガイド協働による「尾瀬サステナブルツーリズム」、地元NPOと民間事業者の連携によるE-bike周遊ツーリズムを展開
- ・「自然保護運動の原点」である尾瀬国立公園を次世代に継承するごみの持ち帰り運動、ありがとう尾瀬清掃活動を継続的に実施
- ・有料ごみ袋を削減するためのマイバック活用推進、アウトドアメーカーとのコラボによるマイボトル活用を予定



2. 脱炭素に向けた再エネの導入と省エネ推進

- ・入山拠点である鳩待山荘をリニューアルし、電化を促進
- ・山小屋(山ノ鼻地区)における高効率給湯器やLED照明など、省エネ省CO₂機器を導入
- ・IUターンの若者や子育て世代を対象にした移住定住促進住宅を推進。再生可能エネルギーと蓄電池の導入を予定



3. 適切な森林管理等、CO₂固定吸収量の確保

- ・民間事業者と連携し、尾瀬ヶ原湿原を保護する木道材に地元尾瀬戸倉山林(FSC認証)のカラマツ材を活用。森林吸収によるCO₂固定、地産地消による輸送コスト低減を推進
- ・尾瀬高校や地元民間企業が連携したCO₂固定に寄与する大清水湿原の回復作業「尾瀬の水芭蕉プロジェクト」を展開



4. 連携体制

- ・地域関係者と連携し、新・尾瀬ビジョンに掲げた「みんなに愛される尾瀬」をゼロカーボンで実現
- ・環境省片品自然保護官事務所が伴走支援し、省CO₂改修支援等により脱炭素化の取組みを後押し

※令和4年4月22日時点

みんなの尾瀬をみんなでももる

この印刷物は、尾瀬の木道をリサイクルしています。



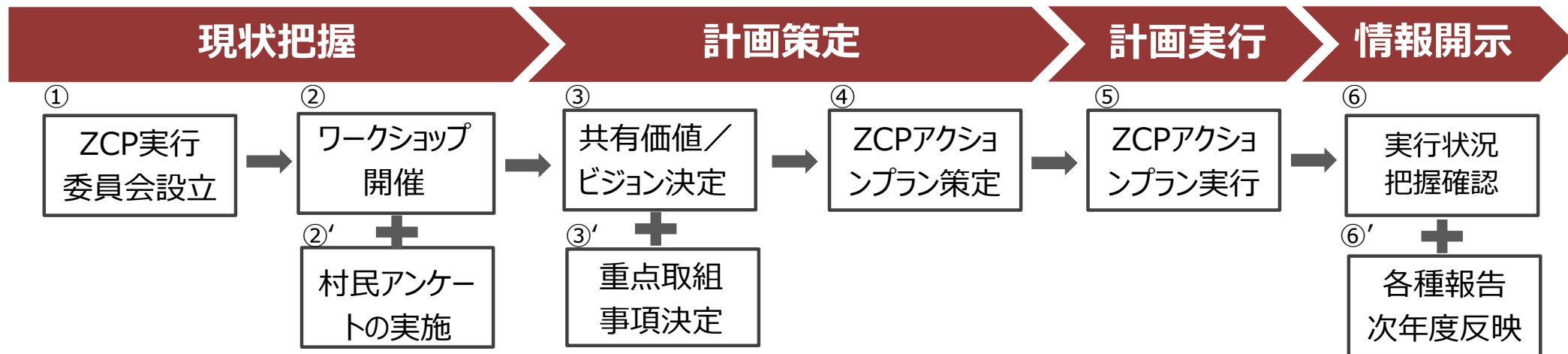
尾瀬国立公園ゼロカーボンパークの具現化に向けて

「尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会」の設立について

尾瀬かたしなエリアゼロカーボンパーク実行委員会

1 「ゼロカーボンパーク具現化」に向けた取り組みステップ

- 2022年4月21日に全国7番目の環境省登録となった「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」の実装に向けて、片品村地域が協働し、一体となって計画を策定
- 2030年までのめざすべき姿、実施体制、アクションプランを検討し、真のゼロカーボンパークの実現をめざしたい



<2022年度の実施事項>

現状把握

1. ZCP実行委員会設立

- 委員会メンバー選定
- 官庁行政計画との整合
- WS／アンケート実施

計画策定

2. 重点取り組み事項決定

- 登録内容／目標精査
- 温暖化防止数値計画
- 分科会／実施体制

計画実行

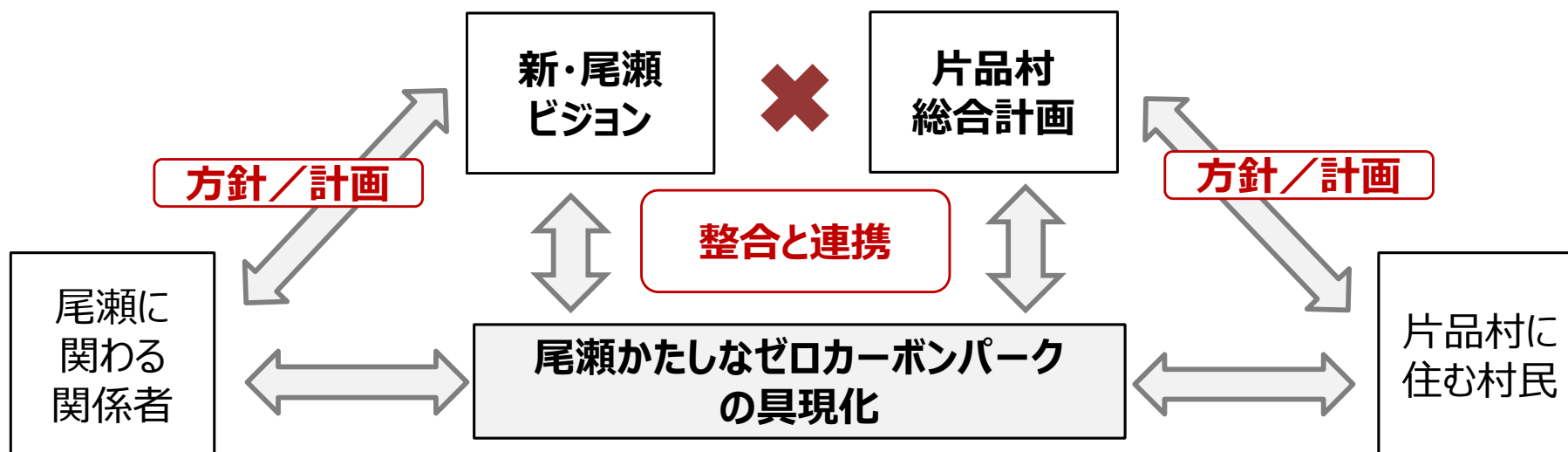
3. ZCPロードマップ策定

- 実行分科会主体による目標、アクションプラン
- PDCA展開

2 ゼロカーボンパークと各種方針／計画との関係

- 環境省、片品村によるビジョン／方針計画との整合連携を取り、課題別計画の一つとして実行する
- 国立公園内、村内周辺観光エリアをカバーした脱炭素化を図ることを目的とする
- 尾瀬に関わる関係者のみならず、片品村に住む村民を主役とした参加型のアクションプランを検討する

尾瀬国立公園行政、片品村自治体行政に関わる方針／計画



<尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク（尾瀬かたしなエリア）のミッション>

1. 尾瀬国立公園における脱炭素化を図ること
 - ・国立公園に立地する利用施設の再エネ利用／省エネ推進、地産地消
2. 周辺観光エリア、アクセスを含めた脱炭素化を図ること
 - ・EV電気バス二次交通の電化、再エネ利用推進など、片品村内の脱炭素化
 - ・共通事項として、脱プラスチックを含めたサステナブルな観光地づくりの実現

3 ゼロカーボンパーク実行委員会の設立

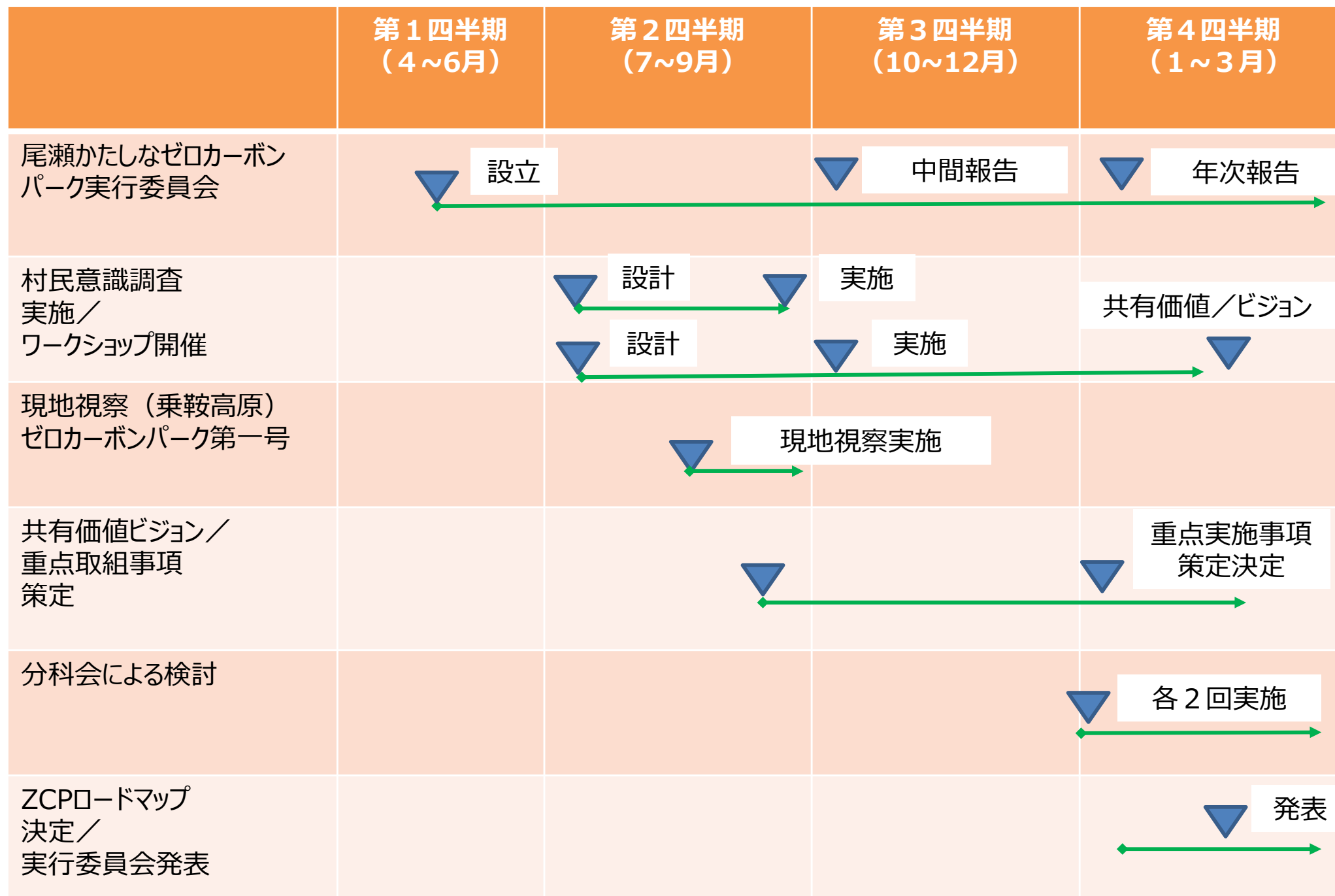
- 事務局は片品村、片品村観光協会、片品村戸倉区、東京電力HDを共同事務局とし、環境省をオブザーバーとする
- 委員会メンバーは、片品村の観光、環境、暮らしに関わる地域関係者（行政、団体、民間事業者）を中心に構成する

「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」実行委員会

共同事務局 4者	片品村	片品村 観光協会	片品村 戸倉区	東京電力 HD	環境省 ※オブザーバー
事務局 メンバー	片品村長、片品村観光協会事務局長、片品村戸倉区長、 東京電力HDESG推進室部長、※【オブザーバー】環境省片品自然保護官				
委員会 メンバー	（一社）尾瀬アウトドアスポーツ振興会、KATASHINA MOUNTAINS SERIES 大都開発、尾瀬岩鞍リゾート、P&C尾瀬、片品村民宿旅館組合連合会、尾瀬山 小屋組合、JTB、東京電力パワーグリッド、東京パワーテクノロジー、三条印刷、関 越交通、尾瀬片品乗合交通事業者連絡協議会				

- ゼロカーボンパーク実行委員会において、重点取組事項全体の大きな舵取りを行う
- 実行委員会委員長は片品村長、副会長に観光協会事務局長とする
- 構成員一同が会する総会は、年一回開催し、全体の進捗管理と方向性の確認を行う

4 「尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会」スケジュール



尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画

片品村

令和4年2月

目次

1. はじめに	1
2. 現状評価	2
2-1 現状の整理.....	2
2-2 関連計画等における位置づけの整理	6
2-3 地域住民・利用者の意向.....	9
3. 上質化事業メニュー	11
3-1 目指すべき方向性	11
3-2 上質化事業メニュー	12
3-3 上質化事業メニュー(全体).....	13
3-4 上質化事業メニュー(鳩待峠地区)	14
3-5 上質化事業メニュー(富士見峠地区).....	14
3-6 上質化事業メニュー(大清水地区)	15

【巻末資料】

- ・尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会 委員名簿
- ・利用拠点計画一覧表
- ・事業の実施位置図

1. はじめに

尾瀬国立公園は、平成19年に日光国立公園から尾瀬地域を分割し、会津駒ヶ岳・田代山・帝釈山などの周辺地域を編入して、尾瀬国立公園として指定された。また、特別天然記念物、ラムサール条約湿地でもある。

かつては、尾瀬ヶ原のダム開発や尾瀬沼を横断する道路建設の計画もあったが、尾瀬の自然を守ろうとする人たちにより計画は撤回された。また、昭和47年には全国で初めて「ごみ持ち帰り運動」が行われるなど、尾瀬を守る活動がその後の自然保護運動の先駆けとなったことから、“日本の自然保護運動の原点”とも呼ばれている。

片品村は、群馬県の北東に位置し、尾瀬の南側からの玄関口であり、四季を通して楽しめる観光地となっている。群馬県側3カ所の入山口である「鳩待峠」、「大清水」、「富士見峠」は、尾瀬国立公園の中心的な入山エリアとなっている。「鳩待峠」は尾瀬で最も利用者が多いエリア、「大清水」は尾瀬沼への入山エリア、「富士見峠」は“天空の楽園”と言われるアヤマ平の自然を堪能するエリアとなっている。

何度でも尾瀬を訪れたいような上質な滞在環境の創出と、インバウンドの受入体制を推進するために、「尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画」を策定する運びとなった。

本計画は、群馬県側3カ所の入山口である「鳩待峠」、「大清水」、「富士見峠」の再整備を図り、尾瀬ならではの魅力を発信できる利用拠点を目指すことを目的としている。今後、外国人観光客の増加が見込まれるため、登山指導や安心できる滞在環境を構築していくとともに、景観の悪化や危険性のある廃屋の撤去等を進める。

2. 現状評価

群馬県側3カ所の入山口である「鳩待峠」、「大清水」、「富士見峠」における現況や特徴等を整理した。

2-1 現状の整理

(1) 片品村の観光の現状

平成4年の387.2万人から観光客数は減少を続けており、特に平成20年のリーマンショック、平成23年の東日本大震災が大きく影響し、同年には173万人(平成20年から-24%)に減少した。令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、観光客数は178万人で、日帰り客が132.6万人、宿泊客が45.8万人であった。

(2) 国立公園の利用状況

自然探勝または登山を目的とする利用が中心である。

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼は自然探勝が利用の中心であり、身近にかつ手軽に豊かな自然とふれあえる場所として活用されている。アクセス及び施設の良さから、ツアーも含め、幅広い年代に利用され、近年では日帰り利用が主体となっている。利用は開山期である5月中旬～10月下旬までの三季型になっており、なかでも春のミズバショウ、夏のニッコウキスゲ、秋の草紅葉や紅葉時期の集中が著しい。近年では、環境学習の場としての利用も盛んに行われるようになり、行政による小中学校を対象とした環境学習の事業や、民間による自然学校の開催が見られる。また、山小屋や周辺の道路が閉鎖している閉山期(冬期)は、豪雪地帯であるため利用はほとんど見られない。

日光国立公園尾瀬地域の開山期の利用者数は、平成2～7年度まで50万人台前半で推移し、平成8年度には過去最多の64万人を記録したが、その後減少が続き、近年では30万人台前半で推移している。尾瀬国立公園の開山期の利用者は、令和元年度が約25万人、令和2年度が約11万人であった※。

尾瀬ヶ原及び尾瀬沼周辺への主な入山口は6カ所ある。このうち尾瀬ヶ原への入山口である「鳩待峠」からの入山者数が全入山者数の6割、尾瀬沼への入山口である「沼山峠」からの入山者数が3割弱、「大清水」からの入山者数が1割弱となっており、尾瀬ヶ原と尾瀬沼へのアクセスが容易な「鳩待峠」及び「沼山峠」からの日帰りによる利用が半分以上を占めている。各入山口からの利用者は、ビジターセンターが整備されている山ノ鼻及び尾瀬沼集団施設地区を休憩、トイレ利用、宿泊等の主な拠点として利用している。

※令和元年度までは、赤外線カウンターの数値を周辺施設の利用者数等を用いて一部補正した上で集計。令和2年度は、赤外線カウンターの数値を補正せずに集計。

(3) 鳩待峠地区の現状

「鳩待峠」は、尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであり、無料休憩所やトイレ、山小屋(鳩待山荘)など複数の建物が立地しているが、無料休憩所や鳩待山荘などは老朽化している。今後、コロナ禍後におけるインバウンドやアウトドアブームによる若年層の増加が見込まれているため、この地区にある鳩待山荘等を建替えることにより来訪者の増加が期待できる。

「鳩待峠」の入山口には広場があり、多くの観光客や団体客が滞在できる環境となっているが、以前は駐車場が整備されていた場所であることから砂利が敷かれており、国立公園の広場としては景観があまり良くない状況である。尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入山口である「鳩待峠」に、周囲の植生にあわせた植物を植栽することで、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらい、利用者の促進を図ることができる。

鳩待山荘の建て替えに伴い、至仏山が眺望できるウッドデッキ等を設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図ることができる。



無料休憩所



鳩待山荘



鳩待峠の広場の様子①



鳩待峠の広場の様子②

(4) 大清水地区の現状

「大清水」は尾瀬沼への入山エリアであるため、売店や駐車場が整備されているとともに、大清水～一ノ瀬間の低公害車両の運行も進んでいる。そのため団体客の利用も多く、尾瀬沼への案内サインなどの基本的なインフラを整備することで、利用者の増加が期待できる。



大清水のサイン

(5) 富士見峠地区の現状

「富士見峠」に建つ富士見小屋は現在、廃屋となり数年が経過しており、倒壊寸前の危険な状態となっている。さらに景観を極端に害している状況であることから、撤去する必要がある。廃屋を撤去し、富士見峠エリアでポストコロナ時代に沿った形の新事業を構築し、価値を上げ、“新しい尾瀬の魅力”を創出する。



富士見小屋

(6) 共通

現在のサイン・標識の整備状況は、誘導標識・注意標識・案内図標識・解説標識が設置されているが、ほとんどが日本語のみの表記となっている。

登山指導や安心できる滞在環境を構築していくにあたって、基本的な情報を誰もが手軽に入手できるよう、多言語サインの整備が必要となっている。

3カ所の入山口「鳩待峠」、「大清水」、「富士見峠」にサイン・標識を再整備し、インフォメーション機能を強化することで、利用者が快適で誰でも安全に利用することができ、インバウンド受入促進、活性化にもつながる。



鳩待峠のサイン

公衆無線LANが整備されている休憩所や山小屋は、鳩待山荘などに限られている。

尾瀬国立公園内で利用者が多いエリアである「鳩待峠」などにおいては、既存の公衆無線LANの機能を向上させることで、インバウンド利用者や若年層の利便性向上を図ることができる。

トイレの洋式化は進んでいるが、未だ和式のトイレもいくつか存在していることから、利用者の利便性を考え、トイレの洋式化を検討する必要がある。



大清水のトイレ(外観)



大清水の女子トイレ(和式)

2-2 関連計画等における位置づけの整理

片品村や環境省で策定している関連計画における対象地域の位置づけを整理した。

(1) 第4次片品村総合計画後期基本計画(第2期むら・ひと・しごと創生総合戦略)

片品村では、平成28年度に策定した第4次総合計画前期基本計画に基づき、「小さくても輝く尾瀬の郷・かたしなの実現へ～世界を視野に～」を将来像として、村民の価値観やニーズの変化、地球温暖化や国際観光時代における社会状況を反映させた、各施策の推進に努めてきた。

後期基本計画(令和3年3月策定)では、本村の第2次総合戦略の内容を適切に反映させ、両計画を一本化し、持続可能な自治体運営を実現させるためにSDGsの視点を取り入れるなど、新たな行政課題に向けて”誰一人取り残さない社会を実現するため”、これまで以上に村民と一体となってむらづくりを進めていく。

将来像「小さくても輝く尾瀬の郷・かたしなの実現へ～世界を視野に～」の実現に向けて、村民と行政との協働による推進体制を整備し、「尾瀬の郷プロジェクト:3つの戦略」に重点的に取り組む。

取り組みを通して若者の雇用確保と移住・定住化を図り、少子高齢化に歯止めをかけ、将来に渡って子どもから高齢者まで安心して心豊かに暮らせるむらづくりを進める。

尾瀬の郷プロジェクト	内容例
1.文化村プロジェクト	① にぎわいむらづくり(尾瀬の郷エリア・中心地区活性化) ② 食とウォーキングと温泉の健康むらづくり ③ 自然・スポーツツーリズムのむらづくり ④ 美しい花の谷づくり ⑤ 祭りや伝統行事など歴史・文化のむらづくり
2.ふるさと村プロジェクト	① I・Uターン者、若者の暮らし応援 ② 若者の雇用創造 ③ 高齢者の安全・安心生活の支援 ④ 子どもたちの心と身体を育てる教育
3.国際観光村プロジェクト	① 国内・国外への情報発信と誘客 ② 外国人向け観光資源・観光メニューと観光ルートの開発 ③ 外国人観光客向けのものづくりの推進 ④ 国際交流機会と会話・接客研修の充実 ⑤ 海外への農産物・加工品販売

(2) 尾瀬国立公園管理計画書

尾瀬は、日光国立公園尾瀬地域の時代より、マイカー規制、ゴミ持ち帰り運動、排水対策等の自然環境保全対策に先進的に取り組んできたこともあり、今後も日本の国立公園の先駆的な存在として、本公園を支える多様な主体とともに適正な保護及び利用を図っていく必要がある。

【目指すべき姿】

- ・利用者に感動を与える美しい自然景観であり、山地湿原特有の動植物や貴重な高山植物、ブナの原生林等の質の高い自然環境から構成される雄大な湿原景観が、将来に渡り維持されている。
- ・自然景観の保全を基本とした利用が今後も推進され、環境学習の場としての利用、山麓における自然とのふれあい活動の場としての利用等、風景鑑賞のみに留まらない体験・学習型の利用が充実している。

【尾瀬国立公園の管理の基本方針】

- ・自然景観の保全
- ・自然環境の保全
- ・快適かつ適正な利用の推進
- ・幅広い利用の促進
- ・継続的なモニタリングの実施及び情報収集、発信の充実

(3) 国土形成計画(広域地方計画)

新たな全国計画(平成27年8月閣議決定)を踏まえ、全国8ブロックについて、国、地方公共団体、経済団体などで構成する広域地方計画協議会における検討・協議を経て、おおむね10年間の国土づくりの戦略を策定した。

個性豊かな地域が相互に連携することにより、ヒト、モノ、情報などが双方向で活発に行きかう「対流促進型国土」の形成を基本として、「コンパクト＋ネットワーク」により、「稼げる国土」、「住み続けられる国土」の実現を目指す。各地域の独自の個性を活かした、これからの時代にふさわしい国土の均衡ある発展を実現する。

(4) 新・群馬県総合計画

【ビジョン】 群馬から世界に発信する「ニューノーマル」

～ 誰一人取り残さない自立分散型社会の実現 ～

【目指す姿】

年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会

【ビジョン実現に向けた7つの政策の柱】

- ・行政と教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)※の推進
- ・災害レジリエンス No.1の実現
- ・医療提供体制の強化
- ・県民総活躍社会の実現
- ・地域経済循環の形成
- ・官民共創コミュニティの育成
- ・教育イノベーションの推進と「始動人」の活躍

※スウェーデンの大学教授のエリック・ストルターマンが提唱した概念であるとされ、「ICT の浸透が人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させること」です。従来使われてきた「ICT の利活用」との最大の違いは、「ICT の利活用」がすでに確立された産業を前提に、あくまでその産業の効率化や価値向上を実現するものであったのに対し、デジタルトランスフォーメーションにおいては、その産業のビジネスモデル自体を変革していくことにあります。

2-3 地域住民・利用者の意向

第4次片品村総合計画後期基本計画策定時に実施した住民アンケート調査、及び利用者に対するヒアリング調査結果を整理した。

(1) 観光魅力化の取組み

観光の魅力化については、「自然体験や周辺散策観光(42.0%)」が最も高く、次いで「日光～尾瀬観光コースの確立(34.3%)」、「買物観光(25.6%)」、「景観観光(23.1%)」、「郷土食・健康食観光(21.3%)」の順であった。

(2) 国際交流と国際観光への考え

国際交流や外国人旅行者の受け入れでは、「積極的に進めるべき(39.9%)」が、「進めるべきではない(9.9%)」を大きく上回っている。

国際交流・国際観光を「積極的に進めるべき」とした回答者があげた理由は、「日光～尾瀬観光の活性化(53.8%)」が最も高く、次いで「スキー観光客の増加(46.9%)」、「若者の雇用機会の拡大(44.5%)」の順であった。

一方、国際交流・国際観光を「進めるべきではない」とした回答者があげた理由は、「治安が悪くなる(56.9%)」が最も高く、次いで「得する人が限られ、多くの村民に利益が及ばない(38.9%)」、「静かな村でなくなる(37.5%)」の順であった。

(3) 国際交流と国際観光での役割

外国人旅行者の受け入れや国際交流を推進するための個人の役割については、「わからない(50.1%)」が最も高く、次いで「仕事として関わりたい(15.4%)」と「ボランティアとして関わりたい(11.4%)」を合わせた『関わりたい(合計)』が 26.8%となっており、「関わりたくない(15.8%)」を 11.0%上回っている。

仕事やボランティアで国際観光・国際交流に関わりたい人が、どのような場所や機会に関わってみたいかでは、「温泉やスキー場などの宿泊施設(49.2%)」が最も高く、次いで「各種体験指導や山岳・自然観察などのガイド(27.2%)」、「お土産品などの製作や販売関係(25.1%)」の順であった。

(4) 利用者の意見

【鳩待峠】

- ・雨のときの休憩所の拡大や至仏山や山の鼻、アヤメ平に関する案内を明確化してほしい。
- ・昔ながらの山の登山道という印象を持っている。湿原に到着するまでに距離があるので、入口付近に分かりやすい案内サインを設置したほうがよい。

- ・インバウンドの受入れを推進しているのであれば、外国人観光客も理解できる案内サインを整備してもらいたい。他の場所では案内サインに QR コードがついており、母国語で案内しているものもある。
- ・入山方向として湿原(山の鼻)方向に向かう人が多いため、アヤマ平方向に分散させる対策を実施したほうがよい。
- ・バス乗り場が移動したため、空気がきれいになり、静かになった。一方で、賑やかさがなくなった。
- ・鳩待峠の印象は、風が抜ける清々しい登山口である。ベンチはあるがテーブルがないので、ゆったりと休憩ができるよう、テーブルやベンチを配置してほしい。
- ・至仏山が少し見えにくいいため、至仏山がきれいに見えるような展望台があったらよい。
- ・入山前にレンジャーによるレクチャーを受けられるようにしてもらいたい。

【大清水】

- ・大清水から一ノ瀬までの低公害車を積極的に PR したほうがよい。運行期間を延長してもらいたい。
- ・低公害車の運行によって、尾瀬沼まで行きやすくなった。
- ・大清水からの案内サイン等を細かく設置し、親しみやすいコースを設定してほしい。
- ・尾瀬沼に行く通過点という印象がある。鉱山跡などは説明されれば興味深いので、ガイドツアーを設けてはどうか。
- ・ミズバショウが少なくなって以来、寂しい印象がある。ミズバショウの繁茂や登山道の改善を図ってもらいたい。
- ・美しい渓谷はあるが、休憩場所からは見えないことが残念である。渓谷がよく見えるような建物の配置にしてほしい。
- ・旧道を活用したツアーやイベント(トレイルラン、マウンテンバイク大会など)を開催したらどうか。

【富士見峠】

- ・富士見小屋の撤去と新しい山小屋の再建を進めてほしい。水場やテーブル、ベンチなどを整備してほしい。
- ・富士見小屋が廃屋になったため、怖いという印象をもっている。非常にもったいないと感じている。
- ・富士見小屋の廃業が非常に残念である。建物の傷みが進み、いつ倒壊するのかと不安になる。アヤマ平は好きな場所であるため、山小屋の営業を再開してほしい。
- ・コース全体の PR、特に富士見小屋からアヤマ平、鳩待峠の周回コースなどの PR が必要である。
- ・入山口と呼ばれているため、富士見峠まで車(乗り合いタクシーや専用車など)で一般登山者が行けるよう、道の整備(道幅の拡幅、危険箇所へのガードレールの設置、舗装など)を進めてもらいたい。
- ・大清水のように富士見下から富士見峠間で低公害車を運行すると、観光客が増えると思う。

3. 上質化事業メニュー

3-1 目指すべき方向性

前章で整理した現況を踏まえ、対象地域の目指すべき方向性を整理した。

(1) 地域の具体的な課題

- ・インバウンド対応の不足、わかりづらい(不足する)案内標識
- ・意匠やデザインが統一されていない施設や廃屋

(2) 課題解決に向けた目指すべき方向性

①インバウンド対応の促進

尾瀬の貴重な自然を満喫するために外国人観光客の増加が見込まれるとともに、村の総合計画においても「国際観光村プロジェクト」を位置付け、受入れの推進を目指している。

そこで、外国人観光客をはじめとした様々な観光客の満足度、再訪意欲を向上させるために、案内サインの多言語化や公衆無線 LAN の拡充などを図る。

②自然と調和した尾瀬らしい景観の創出

「日本の自然保護運動の原点」とも呼ばれる自然豊かな尾瀬を演出するために、行政や民間事業者などが工夫を凝らしながら休憩施設や山小屋などを整備してきた。しかし、施設の老朽化や昨今の観光客の減少などによる山小屋の運営停止(廃屋化)などが進み、一部では景観を阻害している。

そこで、景観計画などの関連計画などを踏まえつつ、尾瀬らしさを明確にした意匠やデザインを統一した施設を再整備し、自然豊かな景観を創出する。

なお、意匠やデザインの統一にあたっては、施設やその周辺、案内サインなど、地区全体としての目指すべき姿を明確にした指針を、自然公園等施設技術指針や尾瀬国立公園管理計画書に準拠しつつ、関係機関(片品村、群馬県、環境省、民間事業者等)で協議・策定していくことが望まれる。

3-2 上質化事業メニュー

「目指すべき方向性」を達成するための具体的な実施事業を整理した。

(1) 廃屋撤去事業

老朽化している山荘は、景観を阻害しているため、建替えることによりさらなる利用者の促進を図る。



(2) インバウンド対応機能強化事業

①多言語サイン・標識の整備

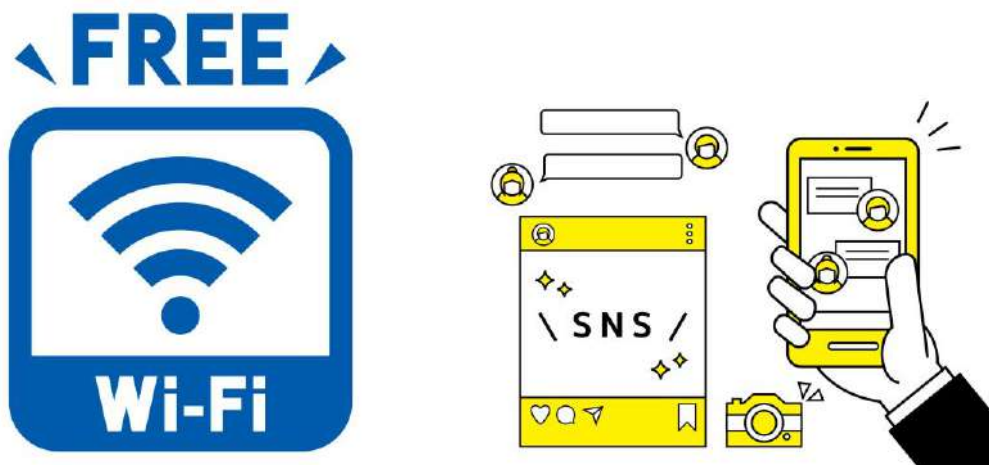
入山口として、最も利用者が多いエリアに多言語サインを設置することで、基本的な情報を誰もが手軽に入手できるようになり、インバウンド受入促進、活性化につながる。



多言語による案内サインの例

②公衆無線 LAN 整備環境

利用者がストレスなく情報収集できるだけでなく、利用者が SNS 発信等をスムーズに使える事で、情報の拡散が期待できる。



(3) 文化的まちなみ改善事業

①外構修景

広場の砂利敷きを周囲の植生に合わせた植物に植栽することで、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらえ、利用者の促進を図る。

②建物外観修景

この場所に来ないと見ることのできない景色が楽しめるような環境(ウッドデッキやパーゴラなど)を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図る。

3-3 上質化事業メニュー（全体）

(1) 尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画の見直し【実施主体:片品村】

社会情勢の変化等を踏まえ、今回策定する尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画を適宜見直す。

3-4 上質化事業メニュー（鳩待峠地区）

（1）廃屋撤去事業（鳩待峠休憩所）（鳩待山荘）【実施主体：民間事業者】

尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。そのため、この地区にある鳩待峠休憩所・鳩待山荘を建替えることにより、若年層やインバウンド利用者の促進を図る。

（2）案内板1基の再整備【実施主体：群馬県】

尾瀬国立公園の入山口として、最も利用者が多いエリアであり、外国人の増加が見込まれている。登山指導や安心できる滞在環境を構築していくにあたって、基本的な情報を誰もが手軽に入手できるようにする。

この場所の老朽化した案内板を再整備し、インフォメーション機能を強化することで、利用者の快適で安全な利用を確保し、インバウンド受入促進、活性化につなげる。

（3）施設等における無料公衆無線 LAN 整備【実施主体：民間事業者】

尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。この地区における施設内の Wi-Fi 環境を整備することで若年層やインバウンド利用者の利便性向上を図る。

（4）外構における植栽整備【実施主体：民間事業者】

尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入山口であるため、施設広場の砂利敷きを周囲の植生に合わせた植物を植栽し、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらうことで利用者の促進を図る。

（5）施設改築における外観整備【実施主体：民間事業者】

鳩待山荘の建替えに伴い、至仏山が眺望できるウッドデッキ等を設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図る。

3-5 上質化事業メニュー（富士見峠地区）

（1）建物の撤去・新たな民間活用の種地として活用【実施主体：民間事業者】

2015年に閉館して以来、富士見峠（アヤメ平）地区の景観を著しく阻害している建物を撤去して、新たな民間活用の種地として活用する。撤去後の跡地利用は、尾瀬富士見峠活用検討委員会において検討し、現在のところ、民間事業者がキャンプ場や休憩所等として活用することを想定する。

富士見峠に建つ富士見小屋は現在、廃屋となり数年が経過し倒壊寸前であり、危険な状態及び景観を極端に害している状況である。そのため、富士見峠エリアにポストコロナ時代に沿った形の事業を構築し、価値を上げ、「新しい尾瀬の魅力」を創出する。

①富士見峠キャンプサイト計画、休憩スポット計画

富士見小屋の解体及び撤去を行い、跡地利用としてキャンプサイト及び休憩スポットを建築することで、鳩待峠～富士見峠、富士見下～富士見峠で、今とは違った登山行程が組め、新しい尾瀬の魅力を創出できる。

②夏季限定イーバイクツーリング、冬季限定スノーキャットツアー

現在の富士見下～富士見峠間(村道約7.5km)の状況は、全区間が悪路で道路整備にはかなりの予算を投じる。本事業の夏期では、悪路を逆手にとり悪路での走行を楽しむイーバイクツーリングを実施することで、富士見峠の新しい魅力を構築できる。

冬期では、安全に冬の尾瀬を楽しめるように、冬山ガイド同行のもと雪上車で富士見峠まで行き、夏期では体感できない非日常な体験をしてもらい、冬の尾瀬ならではの新しい魅力を体感いただくことで、「富士見峠の新しい魅力」、「新しい尾瀬の魅力」を構築できる。

(2) 案内板1基の再整備【実施主体:群馬県】

尾瀬国立公園の入山口として、最も標高が高く展望が抜群であるばかりか、歩いて10分ほどのところには水面に燐ヶ岳が逆さまに映る池塘(富士見田代)や、植生回復の作業地であり自然保護の歴史を学べるアヤマ平がある。

この場所の老朽化した案内板を再整備し、前述の魅力紹介を行い、インバウンド受入促進、活性化につなげる。

3-6 上質化事業メニュー（大清水地区）

(1) 案内板1基の再整備【実施主体:群馬県】

尾瀬国立公園の入山口として最も歴史が古く、歩いて数分のところには、5月連休にミズバショウが開花する大清水湿原もある。また、首都圏から尾瀬沼への最も短時間で到達できるルートの入口である。さらには、根羽沢鉱山跡など、未開発の観光資源が眠っている。

この場所の老朽化した案内板を再整備し、前述の魅力紹介を行い、インバウンド受入促進、活性化につなげる。

卷末資料

尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会 委員名簿

団体名	職名
片品村	村長
群馬県 自然環境課 尾瀬保全推進室	室長
公益財団法人 尾瀬保護財団	事務局長
東京電力リニューアブルパワー株式会社 水力部・水利尾瀬グループ	グループマネージャー
東京パワーテクノロジー株式会社 尾瀬林業事業所	事業所長
一般社団法人 片品村観光協会	専務理事事務局長
環境省片品自然保護官事務所	自然保護官
尾瀬山小屋組合	組合長
物見小屋	ご主人
東京大学 大学院農学生命科学研究科	准教授
事務局	
むらづくり観光課	課長
むらづくり観光課	課長補佐
むらづくり観光課	主任

A 直轄事業

B 都道府県事業

C 市町村事業

市町村事業	番号	公園事業種別	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	事業実施期間(年度)				全体事業費 (百万円)
					R4(2022年)	R5(2023年)	R6(2024年)	R7(2025年)	
		一体的に実施することにより期待される効果							
		備考							
片品村		利用拠点計画		尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画の見直し	■	■	■	■	-
		協議会での検討結果等をふまえ、利用拠点計画を随時更新を進めていく。							

D 民間事業

民間事業	番号	公園事業種別	交付対象	要素となる事業名 (事業個所)	事業内容 (延長・面積等)	事業実施期間(年度)				全体事業費(税込) (百万円)
						R4(2022年)	R5(2023年)	R6(2024年)	R7(2025年)	
		一体的に実施することにより期待される効果								
		備考								
民間事業者		廃屋の撤去	鳩待峠	廃屋撤去事業(鳩待山荘)		■			-	
		尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。そのため、この地区にある鳩待山荘を建替えることにより若年層やインバウンド利用者の促進を図る。								
民間事業者		廃屋の撤去	鳩待峠	廃屋撤去事業(鳩待休憩所)				■	-	
		尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。そのため、この地区にある鳩待休憩所を建替えることにより若年層やインバウンド利用者の促進を図る。								
民間事業者		公衆無線LAN整備環境	鳩待峠	施設等における 無料公衆無線LAN整備			■		-	
		尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。この地区における 施設内のWi-Fi環境を整備することで若年層やインバウンド利用者の利便性向上を図る。								
民間事業者		外構修景	鳩待峠	外構における 植栽整備				■	-	
		尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入口であるため、施設広場の砂利敷きを周囲の植生にあわせた植物を植栽し、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらうことで利用者の促進を図る。								
民間事業者		建築外観修景	鳩待峠	施設改築における外観整備			■		-	
		鳩待山荘の建替えに伴い至仏山が眺望できるウッドデッキ及びバーゴラオーニングを設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで滞在者を含めた利用者の促進を図る。								
民間事業者		廃屋の撤去	富士見峠	建物の撤去 新たな民間活用の種地として活用	■	■			38	
		2015年に閉館して以来、富士見峠(アヤマ平)地区の景観を著しく阻害している建物を撤去して、新たな民間活用の種地として活用する。 撤去後の跡地利用は、尾瀬富士見峠活用検討委員会において検討し、現在のところ民間事業者が、キャンプ場や休憩所等として活用することを想定。 富士見峠に建つ富士見小屋は現在、廃屋となり数年が経過し倒壊寸前危険な状態及び景観を極端に害している状況である。当委員会では富士見峠エリアをポストコロナ時代に沿った形の事業を構築し、価値をあげ「新しい尾瀬の魅力」を創出する。								

事業の実施位置図

【富士見峠地区】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
民間事業者	廃屋の撤去	建物の撤去、新たな民間活用の種地として活用	令和4・5年度
群馬県	多言語サイン・標識の整備	案内板1基の再整備	令和7年度

【鳩待峠地区】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
民間事業者	廃屋の撤去	廃屋撤去事業(鳩待山荘)	令和5年度
	廃屋の撤去	廃屋撤去事業(鳩待休憩所)	令和7年度
	公衆無線LAN整備環境	施設等における無料公衆無線LAN整備	令和6年度
	外構修景	外構における植栽整備	令和7年度
	建築外観修景	施設改築における外観整備	令和6年度
群馬県	多言語サイン・標識の整備	案内板1基の再整備	令和5年度

【大清水地区】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
群馬県	多言語サイン・標識の整備	案内板1基の再整備	令和6年度

【全体】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
片品村	—	尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画の見直し	令和4～7年度

事業の実施位置図

利用拠点計画の進捗状況
(令和5年1月30日時点)

【富士見峠地区】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
民間事業者	廃屋の撤去	建物の撤去、新たな民間活用の種地として活用	令和4・5年度
群馬県	多言語サイン・標識の整備	案内板1基の再整備	令和7年度

令和4年度 富士見小屋の撤去終了

富士見峠

鳩待峠

【鳩待峠地区】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
民間事業者	廃屋の撤去	廃屋撤去事業(鳩待山荘)	令和5年度
	廃屋の撤去	廃屋撤去事業(鳩待休憩所)	令和7年度
	公衆無線LAN整備環境	施設等における無料公衆無線LAN整備	令和6年度
	外構修景	外構における植栽整備	令和7年度
	建築外観修景	施設改築における外観整備	令和6年度
群馬県	多言語サイン・標識の整備	案内板1基の再整備	令和5年度

民間事業者によるトイレ洋式化(令和6年度)を追加予定

【大清水地区】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
群馬県	多言語サイン・標識の整備	案内板1基の再整備	令和6年度

民間事業者によるトイレ洋式化(令和6年度)を追加予定

【全体】

事業者名	要素となる事業	実施内容	実施期間
片品村	—	尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画の見直し	令和4～7年度

計画の見直しを実施予定(令和4～5年度)

ふくしま尾瀬の取組について

(令和4年度)

取組1 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

取組2 ふくしま子ども自然環境学習推進事業

取組3 特殊植物等保全事業

2023年1月

福島県自然保護課

R4年度ふくしま尾瀬の取組について

福島県自然保護課

取組 1 ふくしま尾瀬魅力発信強化事業

福島之宝である尾瀬を大切に保護する一方、多くの人びとに訪れていただきたく、福島県側から尾瀬に入山する一帯及びその地元町村を含めて令和4年度からふくしま尾瀬魅力発信強化事業を展開しています。

体験型のイベントや情報発信を行い、尾瀬を訪れるきっかけ作りをおこなっています。

▲「ふくしま尾瀬」

福島県側にある尾瀬国立公園とその玄関口となる檜枝岐村及び南会津町の自然や文化の体験を目的としたネイチャーツーリズム。

※平成30年～令和3年度まで実施していた「スタートアップふくしま尾瀬事業」の後続事業です。



R4年度
イベント

2022年6月15日～2022年11月30日

尾瀬国立公園の福島県側の玄関口である檜枝岐村と、その周辺の自然・文化などを体験するネイチャーツーリズム「ふくしま尾瀬」。

東北最高峰の燧ヶ岳、ダイナミックな三条ノ滝、空を映す尾瀬沼、湿原に咲く季節の花々など、「ふくしま尾瀬」の豊かな自然は、かねてより“唯一無二”の被写体としても愛され続けてきました。一期一会の出会いを永遠に記録し、その感動をより多くの方々と共有したい…。

「福島県×山と溪谷社」がプロデュースする今シーズンの「ふくしま尾瀬」のメインテーマは“写真”です。

プロカメラマンがレクチャーする「フォトレッキング」や、どなたでも参加できる「フォトコンテスト」など、とっておきのフォトイベントです、

「ふくしま尾瀬」の新たな魅力をぜひ思い出の1ページに加えてみてください。

1 イベントの構成

- オンラインフォトコンテスト
- ツアー2本

2 ふくしま尾瀬フォトコンテスト2022



応募部門 「絶景！ふくしま尾瀬・山岳自然部門」
「また来たくなる！思い出・地域の魅力部門」
各 賞 各部門ともゴールド1、シルバー2、ブロンズ3
特別賞「ふくしま尾瀬」賞1
特別賞「ヤマケイオンライン」賞1
Instagram賞5

応募作品数／総数 631点

(特設サイトへの投稿 236点、Instagramへの投稿 395点)

※尾瀬沼ビジターセンターに令和5年11月まで展示しています。

発表会



ふくしま尾瀬写真フェス2022 松本茜さん 写真講座&フォトコン受賞作品発表会【ふくしま尾瀬】

山と溪谷ch. チャンネル登録数 504万人

YouTubeオンライン配信



山旅案内所



配信の様子

受賞作品



絶景！ゴールド



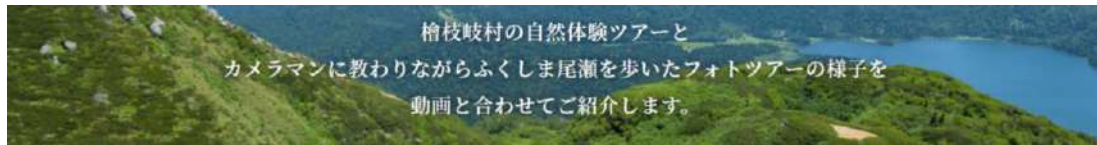
魅力！ゴールド



Instagram賞



3 プロカメラマンがレクチャーするフォトトレッキングツアー



プロカメラマン・松本茜さんと
登る・撮る、燧ヶ岳と尾瀬沼3日間

燧ヶ岳、尾瀬沼の絶景を歩きながら、カメラマンの松本茜さんからプロの撮影技術を教わります。

日程：2022年7月22日(金)～7月24日(日) 2泊3日

募集人数：8名

参加費：2万3000円

講師：松本茜さん（プロカメラマン）

登山ガイド：熊山美和さん、城 健史さん

取扱旅行会社：アルパインツアーサービス株式会社

[ツアー詳細と申込フォーム](#)

尾瀬沼から尾瀬ヶ原、そして燧ヶ岳へ。
尾瀬の名所を巡る写真ツアー



ツアーの様子を
YouTube配信

● 講 師 松本茜氏

● 参加者 一般参加者 9名

(長野・埼玉・神奈川・愛知・東京)

尾瀬ガイド 2名

スタッフ

● 行 程 (2泊3日)

1日目 御池→沼山峠→大江湿原→尾瀬沼

2日目 尾瀬沼→沼尻→尾瀬ヶ原

3日目 尾瀬ヶ原→燧ヶ岳→御池

1日目



集合



ツアーの様子

プレ
写真教室



夜
カメラの
設定教室



2日目



早朝出発



写真教室開始！



夜 写真評論会

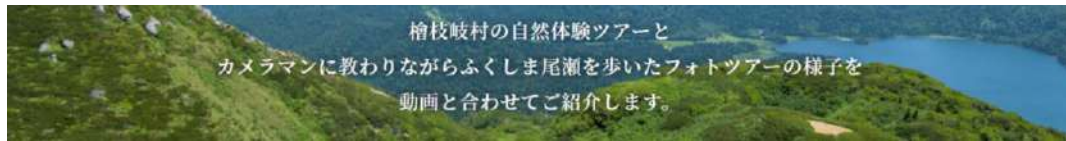
3日目



燧ヶ岳登山！
山頂写真教室



4 登山系YouTuberと歩く自然体験ツアー



登山系YouTuber山下舞弓さんと歩く、
尾瀬沼と檜枝岐村の自然体験2日間

山下舞弓さんと尾瀬沼周辺トレッキングや檜枝岐村の
観光を行なう自然体験ツアーです。

日程：2022年8月20日(土)～8月21日(日) 1泊2日

募集人数：4名

参加費：1万5000円

ゲスト：山下舞弓さん（モデル/登山系YouTuber）

登山ガイド：平野公樹さん

取扱旅行会社：アルパインツアーサービス株式会社

ツアー詳細と申込フォーム

美しい尾瀬沼と風情ある檜枝岐村を巡る旅。
登山系YouTuber山下舞弓さんと歩く、尾瀬の自然体験ツアー



ツアーの様子を
YouTube配信

●講師 山下舞弓氏

●参加者 一般参加者 5名

(千葉・栃木・愛知)

メディア社 4社5名

尾瀬ガイド 1名

スタッフ

●行程 (1泊2日)

1日目 御池→沼山峠→大江湿原→尾瀬沼

2日目 尾瀬沼→沼尻→檜枝岐村散策

各メディア社か
ら記事を配信

1 日目

集合



ツアーの様子

ガイドの案
内により
自然体験



VCで星
空観察会



2 日目

檜枝岐村の歴史・文化を
巡る



5 その他情報発信

○ 「ふくしま尾瀬」 HP



○ SNS配信



取組 2 ふくしま子ども自然環境学習推進事業

1 内容

- 平成23年度から尾瀬での環境学習に取り組む県内の小学生・中学生に対し、環境学習費用（バス代・宿泊代・ガイド料）を助成しています。
- 令和4年度は、助成を継続すると共に令和3年度に作成した教材を活用した教員向けモニターツアーを実施しました。
- 令和5年度も引き続き助成を継続する予定です。



R3年度作成教材



モニターツアーの様子

取組 3 特殊植物保全事業

1 内容

- 尾瀬沼ビジターセンターを活用し、尾瀬の貴重な植生等の保全（植物、哺乳類等の調査）及び、その活動の普及啓発（企画展示及び講演会）を実施しました。
- 尾瀬保護指導委員会を開催し、尾瀬の植生等の課題や今後の調査方針及び普及啓発の方法について検討をしました。
- 令和5年度は、尾瀬の調査を継続的に実施するとともに、普及啓発のため尾瀬沼ビジターセンターを活用し、展示や講演会を実施する予定です。



シカの食害調査



企画展示



講演会

登山口PR活動

実施主体
一般社団法人片品村観光協会（窓口）、尾瀬檜枝岐温泉観光協会、
南会津町観光物産協会館岩観光センター、一般社団法人魚沼市観光協会

1.取組の目的

- ✓ 尾瀬国立公園のリピーター率は約7割と非常に高く、熱烈的なファンが多い。
- ✓ 一方で、利用する登山口やコースには偏りがあることから、尾瀬の多面的魅力を十分に伝えきれていない。
- ✓ 別登山口をPRすることで、尾瀬全体のリピーター確保（目的①）と別登山口への誘導を図る（目的②）。

2.実施内容

- ✓ 多くの入山者で賑わう季節を対象。
- ✓ 登山口では下山者を、道の駅では来訪者を対象にパンフレット等を封入した袋を手渡し。

※活動の効果については、環境省が利用者アンケート調査を実施して効果検証を行う。

《尾瀬登山口PR活動の実施概要》

	第1回	第2回	第3回
時期	ミズバショウシーズン 	尾瀬の日フェア 	紅葉シーズン 
日時	2022年6月4日（土） 11:00～16:00	2022年8月28日（日） 11:00～15:30	2022年10月9日（日） 11:00～16:00
場所	鳩待峠、御池	道の駅尾瀬かたしな	鳩待峠
実施者	11名・7名	3名	10名
対象	下山者	尾瀬の日フェア来場者	下山者
配布数	1720セット・270セット	241セット	746セット
アンケート回収数	213票	—	61票

3.成果

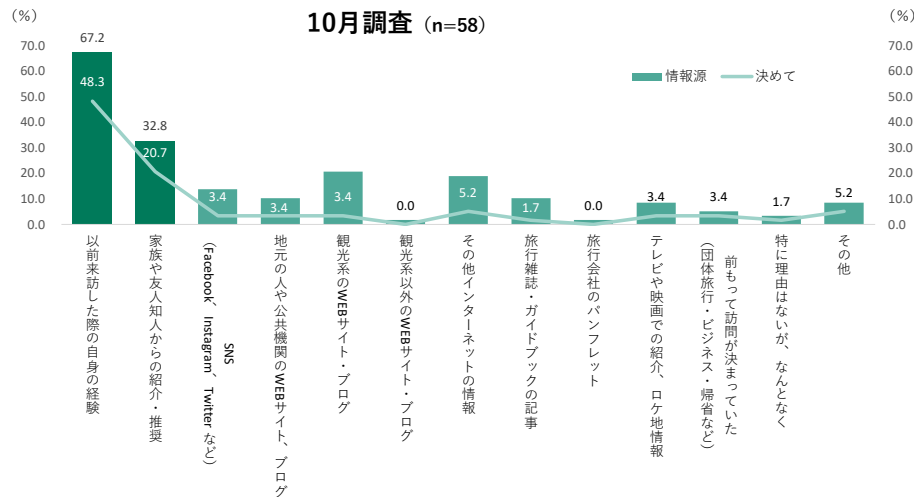
調査結果1 以前来訪した際の自身の経験が情報源として、訪問の決め手になっている。

調査結果2 尾瀬には3県からの登山口があることを、半数以上の方が認知している。

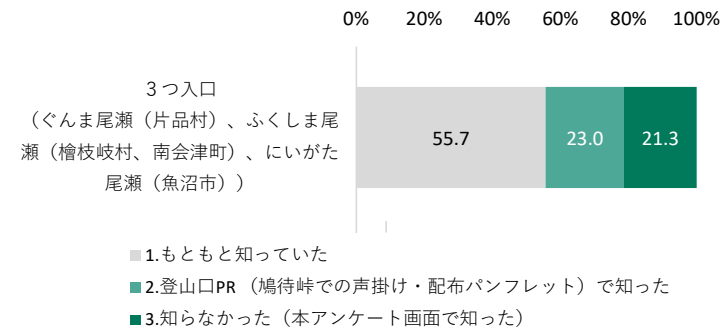
調査結果3 PRを受けて、複数の登山口や各エリアの面白さを感じたのは8割以上。
各エリアを利用したくなった人も7割以上。

➡ 登山口PR活動は、尾瀬に既に来ている人に対して鳩待峠以外の登山口や他のエリア、
いろいろなアクセス方法を知ってもらう機会となり、再訪意向を高めることができた。

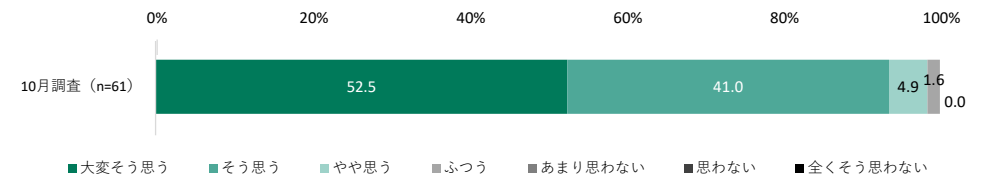
《情報源》[複数回答] 《決め手となった情報源》[単一回答]



《3県からの登山口の認知度》[単一回答] 10月調査 (n=61)



《各エリアの個性豊かな文化や自然等の面白さを感じたか》[単一回答]

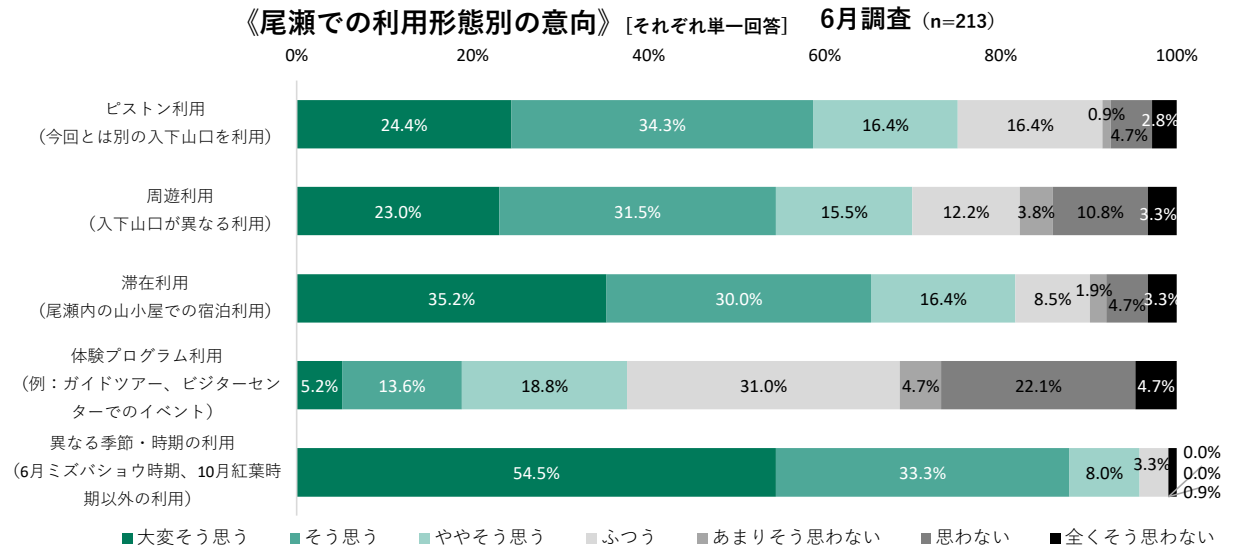
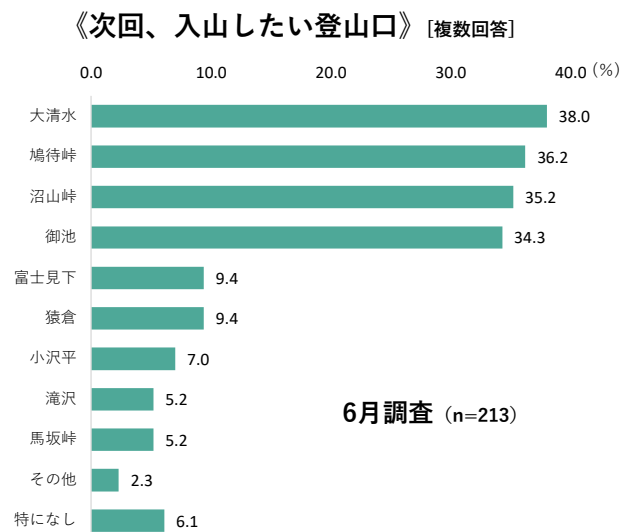


4.課題

調査結果4 今回の登山口PRでは、別登山口への誘導を試みたが、マイカー等でのアクセスのしやすさに左右される状況が明らかになった。

調査結果5 次回、尾瀬でしてみたい利用は、「異なる季節・時期の利用」「滞在利用」「ピストン利用」「周遊利用」「体験プログラム利用」の順。

➡ 別の登山口へ誘導するには、アクセスの手間以上のメリットがあることを伝えていくこと。
リピートを促すには、異なる時期・季節の魅力をさらに訴求していくこと。
周遊プランの提案や、各地域特有の魅力の見せ方についての検討が必要。



5. 登山口PR活動の今後

次年度以降も 4 観光協会によるPR活動は継続予定

- ✓ 今回の合同での活動は、地元 4 観光協会にとっては初めての試みだった。
- ✓ また、担当地域外の登山口の状況を把握し、利用者に別登山口を案内する機会となった。
- ✓ さらに、4 市町村をまたぐ尾瀬全体としての情報発信等を利用者目線で考えていくためのきっかけとなった。
- ✓ 今年度の成果や課題を踏まえ、次年度以降も 4 観光協会によるPR活動は継続予定。

配布物（例）



アンケート依頼チラシ（例）



以下、参考資料

尾瀬登山口PRアンケート調査

目的 : ①尾瀬での効果的なPR方法について検証を行うために実施。

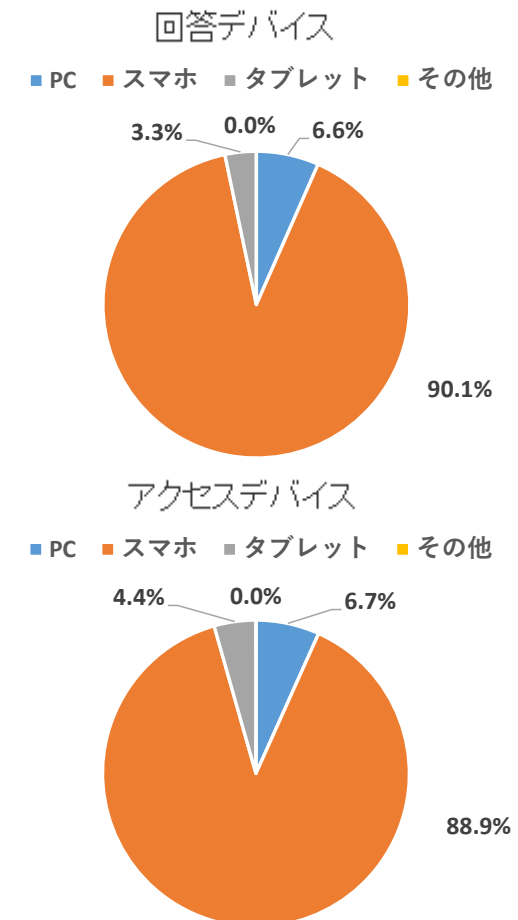
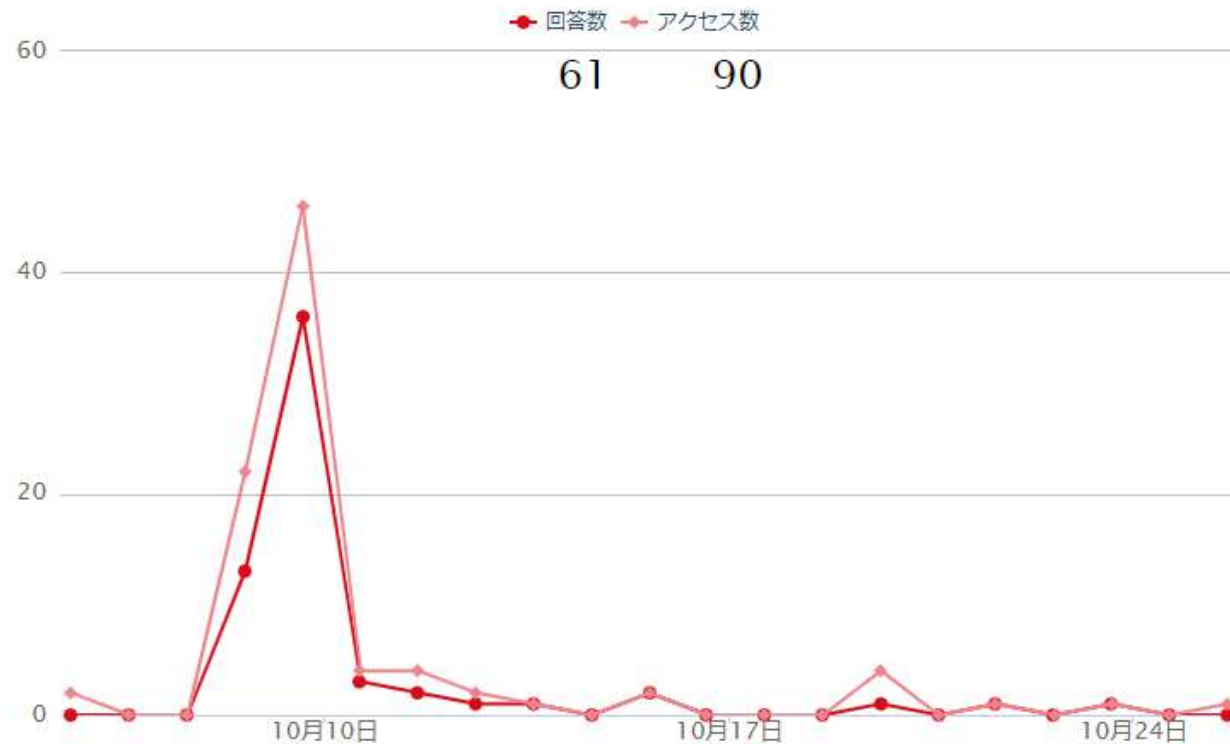
②尾瀬の登山口でのPR活動の検証等を行うために実施。

実施方法 : 鳩待峠登山口でアンケート調査告知チラシを配布。

チラシのQRもしくはURLからWEBアンケート調査画面にアクセスし、利用者が各自回答。

回答期間 : 2022年10月9日（日）～10月24日（月）

回収数 : 61票（配布数746、回収率8.1%）



設問数　：26問（基本属性を除く）

設問内容：以下の通り

Q1 目的　Q2 アクセス　Q3 同行者

Q4 来訪回数　Q5 来訪回数（年間）　Q6 前回の来訪時期

Q7 利用経験（ピストン利用、周遊利用、滞在利用、体験プログラム利用、異なる季節・時期の利用）

Q8 滞在時間　Q9 入山口　Q10 訪問場所

Q11 一人あたりの消費額

Q12 情報源　Q13 決めてとなった情報源　Q14 具体的な情報源

Q15 総合満足度　Q16 紹介意向　Q17 再来訪意向

Q18 各登山口の認知・利用経験

Q19 登山口PRの効果（3つの入口、アクセス方法、複数登山口の認知、各エリアの面白さ）

Q20 次回利用したい場所（ぐんま尾瀬、ふくしま尾瀬、にいがた尾瀬）

Q21 次回利用したい登山口　Q22 次回の目的

Q23 利用・体験意向（ピストン利用、周遊利用、滞在利用、体験プログラム利用、異なる季節・時期の利用）

Q24 他の登山口を利用されない理由、別の登山口を利用したもらうためのアイデア等

Q25 今後の関わり方

Q26 発信したほうが良い魅力、不足していると思われる情報等

Q 性別・年齢・居住地

尾瀬登山口PRアンケート調査へのご協力をお願いします！

尾瀬国立公園の多面的な魅力を伝えるために、地元の4観光協会*を中心に尾瀬登山口にてPR活動を行っています。

*片品村観光協会、尾瀬檜枝岐温泉観光協会、南会津町観光物産協会館岩観光センター、魚沼市観光協会

より良い尾瀬国立公園の実現のために、環境省では、訪問した方に尾瀬での体験や感想などを尋ねるWEBアンケート調査を実施しています。

ぜひご協力いただきますようお願い申し上げます。

大江湿原の三本カラマツ（尾瀬沼）

回答期間
2022年10月9日(日)～10月24日(月)



下山後にご回答ください。裏面もぜひご覧ください。
回答時間は約10分程度です。QRもしくはURLからお進みください。
<https://questant.jp/q/OZE2022-10>

尾瀬へのまたのお越しをお待ちしています！

調査主体 環境省関東地方環境事務所 調査委託先 (公財) 日本交通公社 E-mail: oze@jtb.or.jp

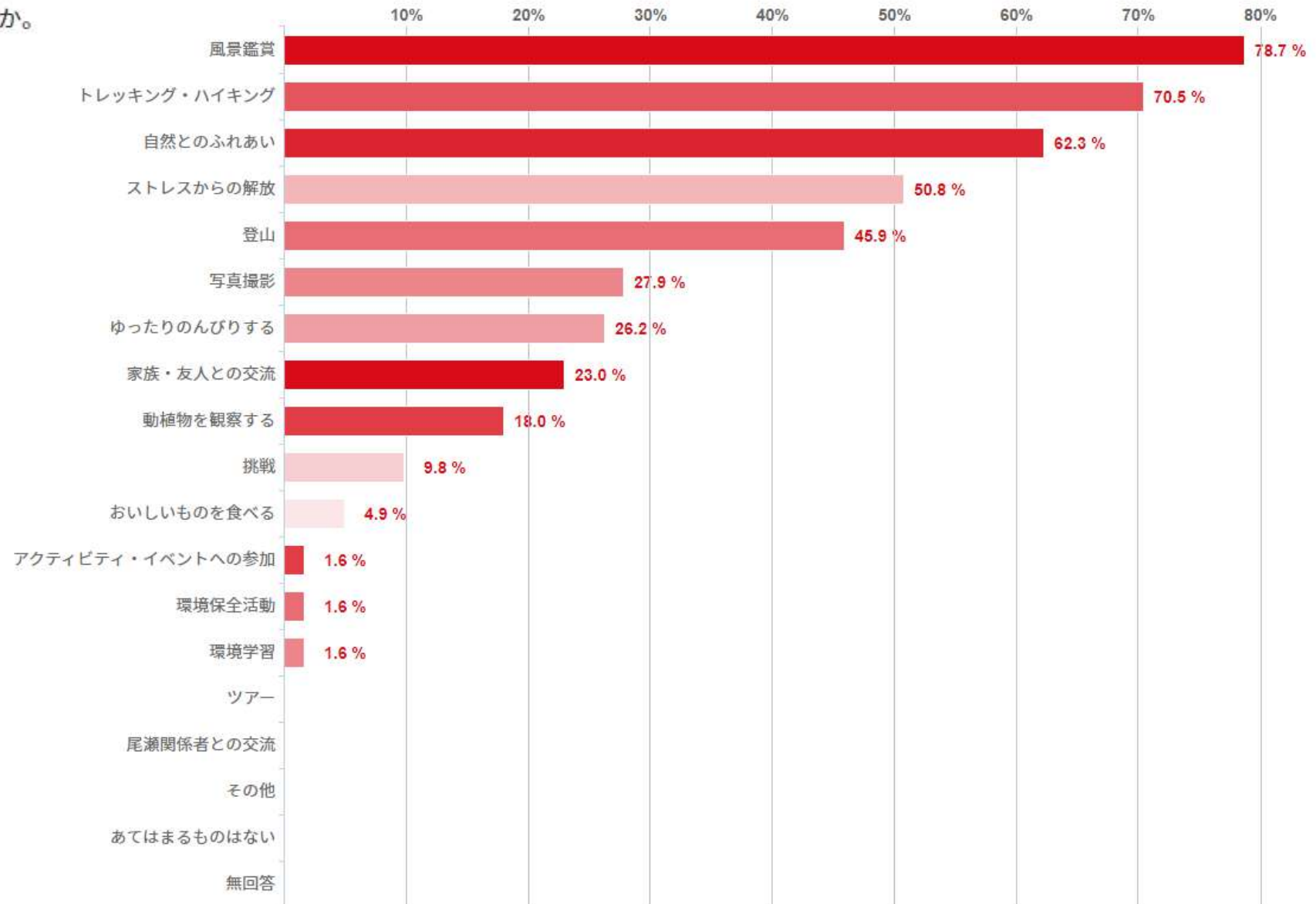


配布チラシ

■今回の尾瀬利用について教えてください。

Q1. 複数回答

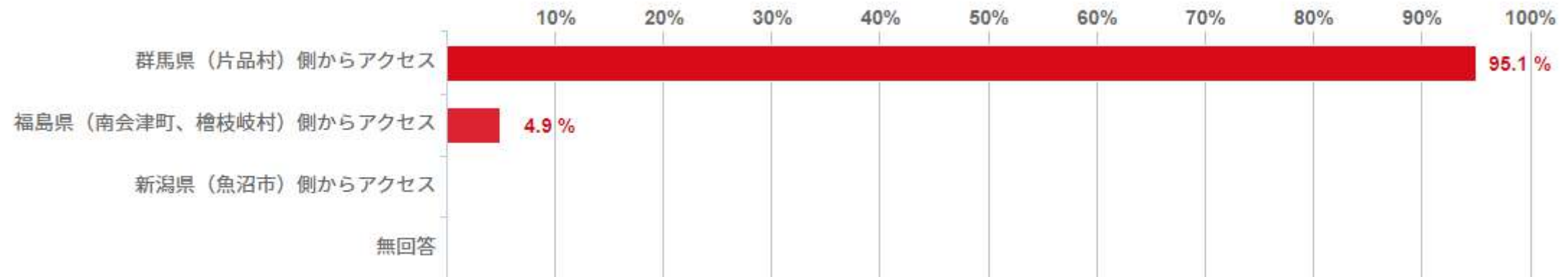
今回の尾瀬登山の目的は何ですか。
(回答数: 61)



Q2. 単一回答

今回は、どこから尾瀬にアクセスされましたか。

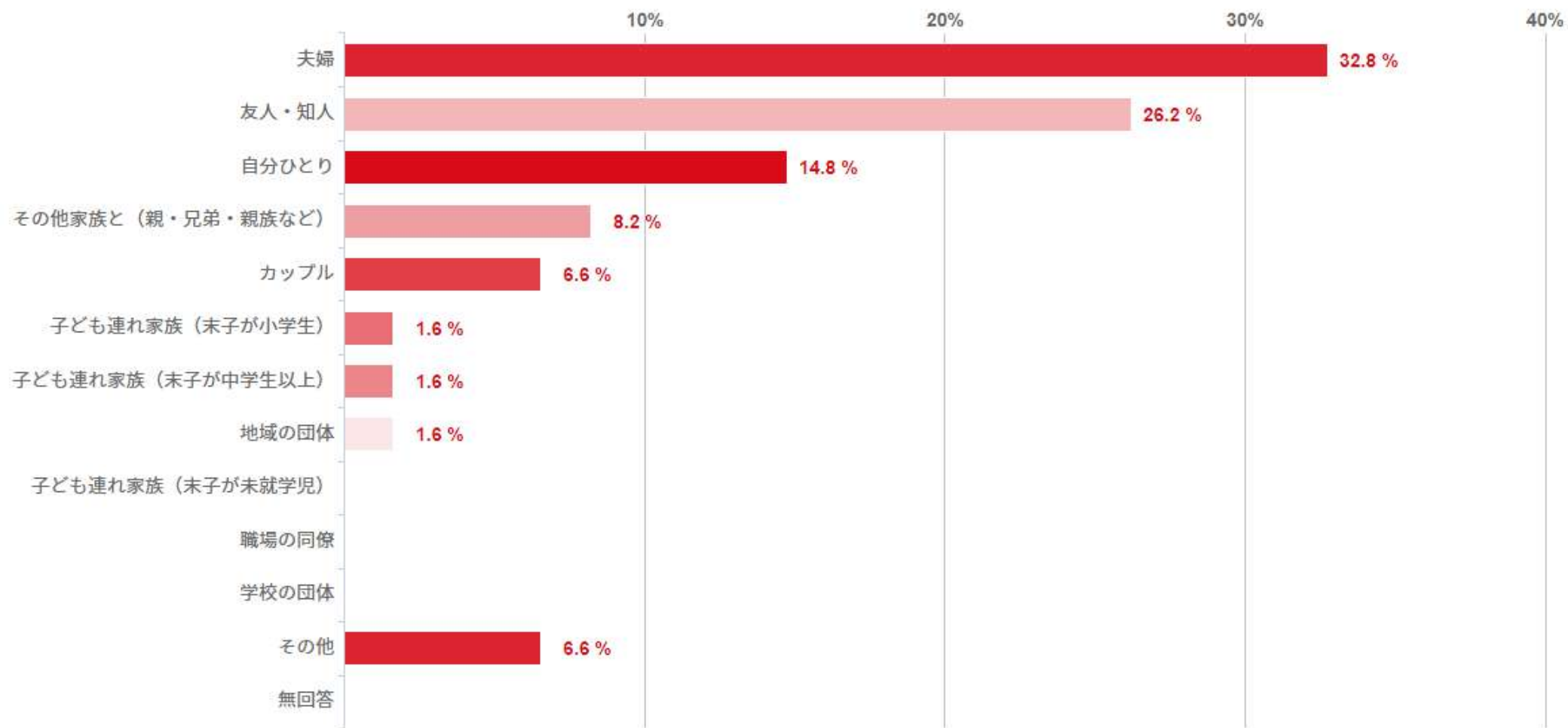
(回答数: 61)



Q3. 単一回答

今回の尾瀬登山の同行者について教えてください。

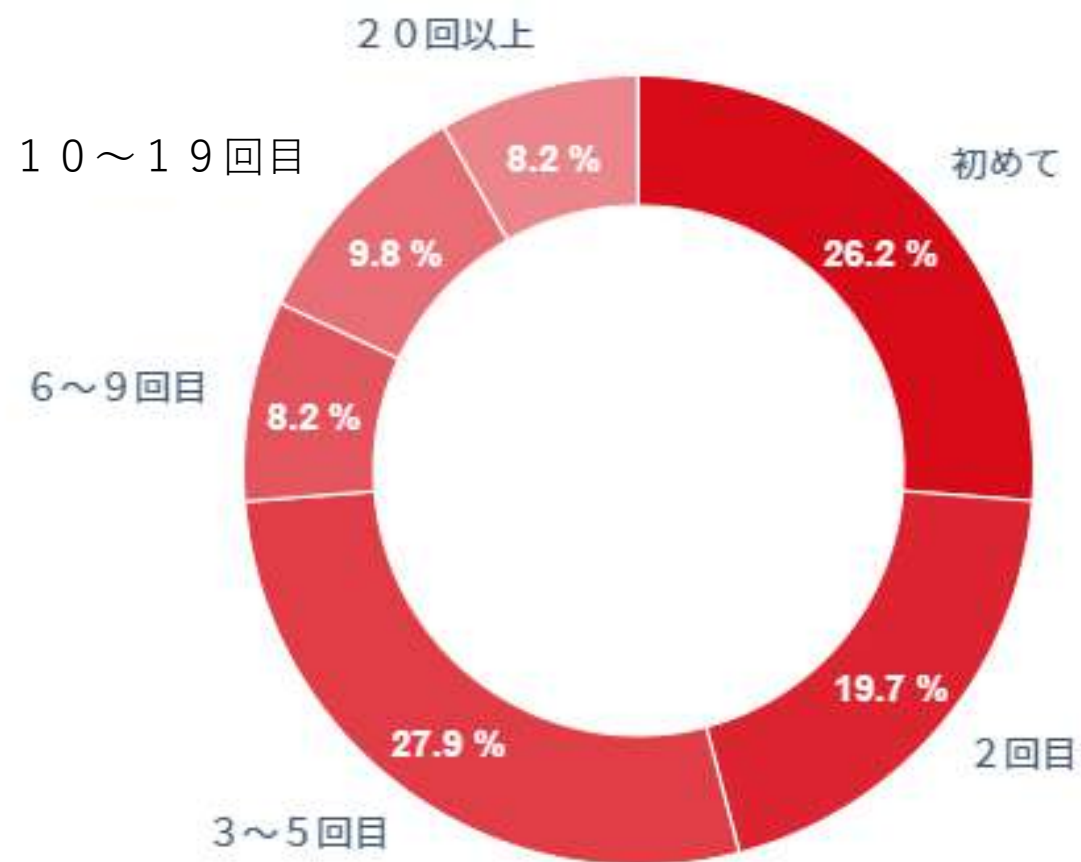
(回答数: 61)



Q4. 単一回答

尾瀬登山は今回が何回目ですか？

(回答数: 61)



Q5. 自由記述

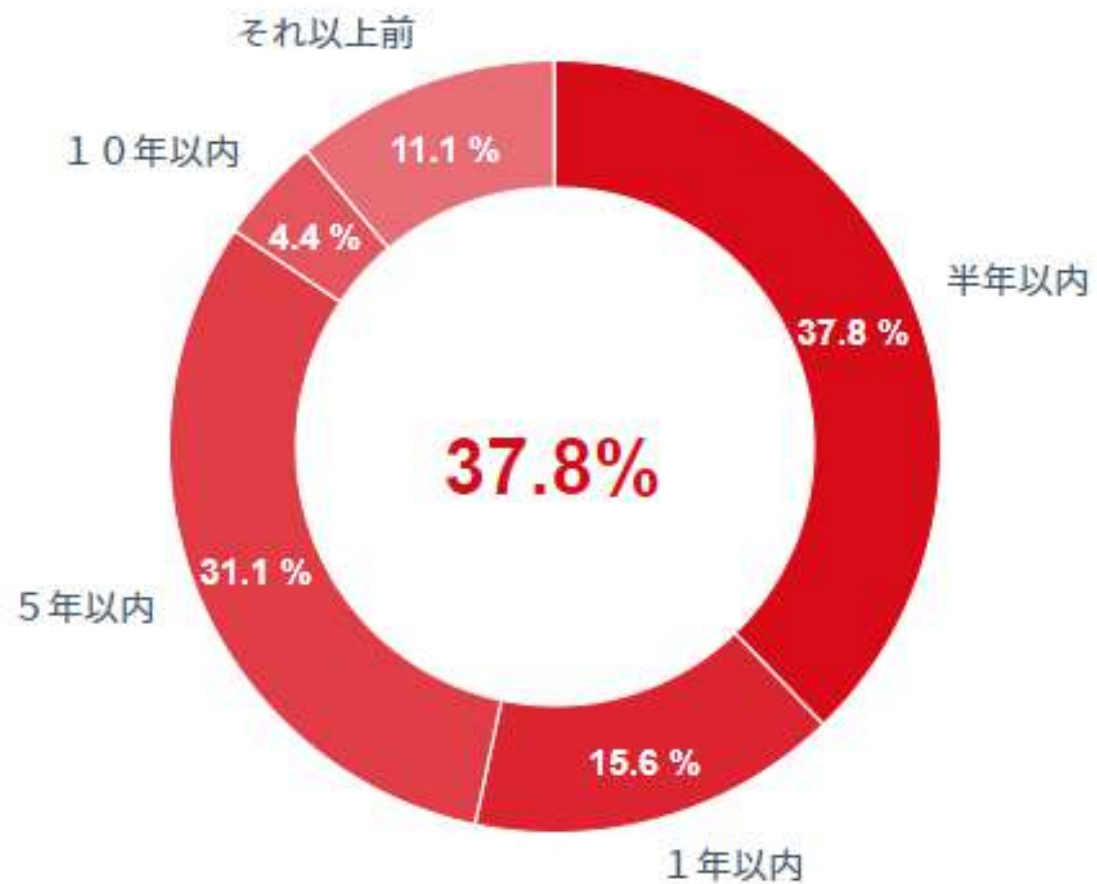
一年間に尾瀬登山を何回されますか。

年平均	回答数	割合
0-2回未満	47	77.0%
2-3回未満	10	16.4%
3-4回未満	0	0.0%
4回以上	4	6.6%
合計	61	100.0%

Q6. 単一回答

前回、尾瀬登山をした時期はいつですか？

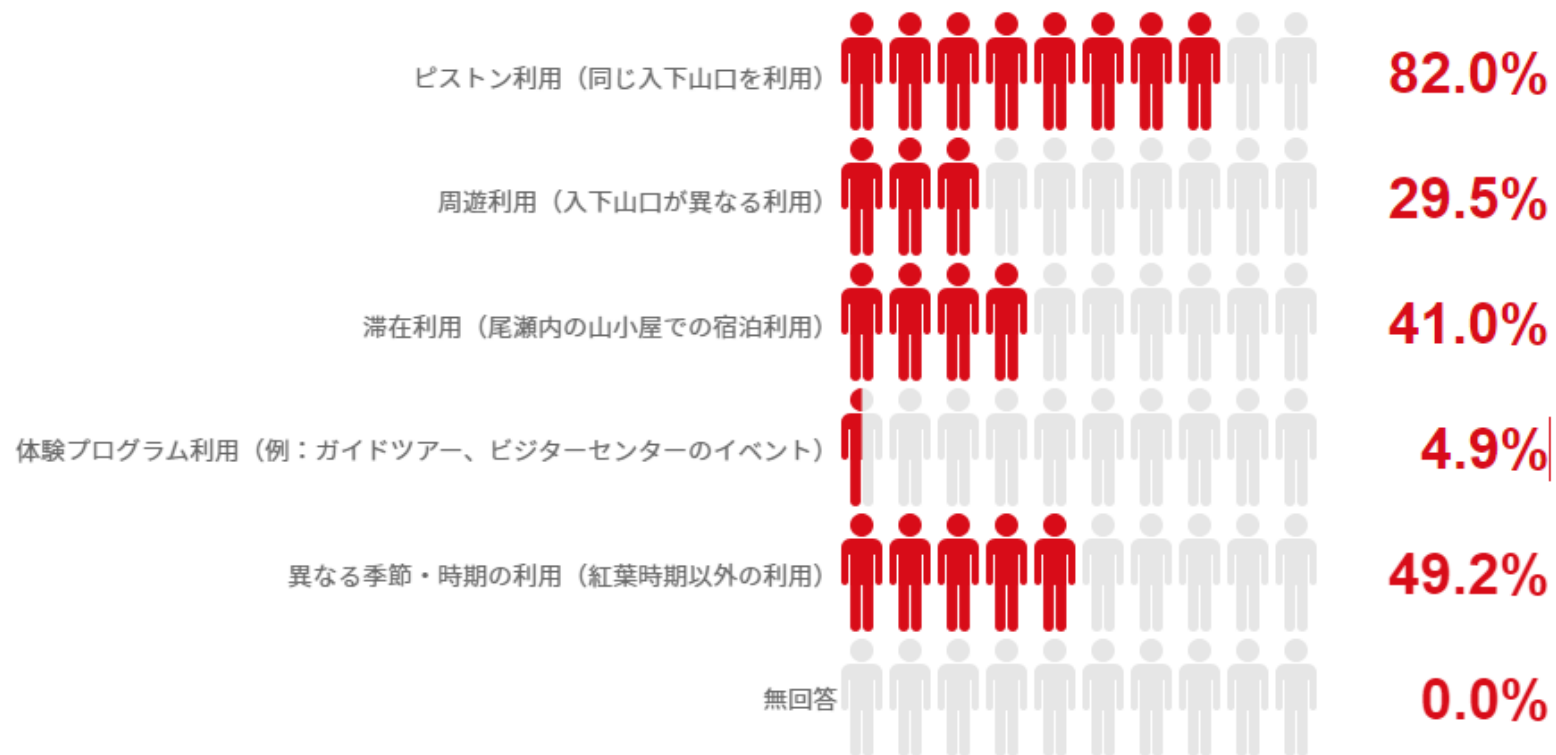
(回答数: 45)



Q7. 複数回答

これまでの尾瀬登山において、以下の利用経験がありますか。

(回答数: 61)



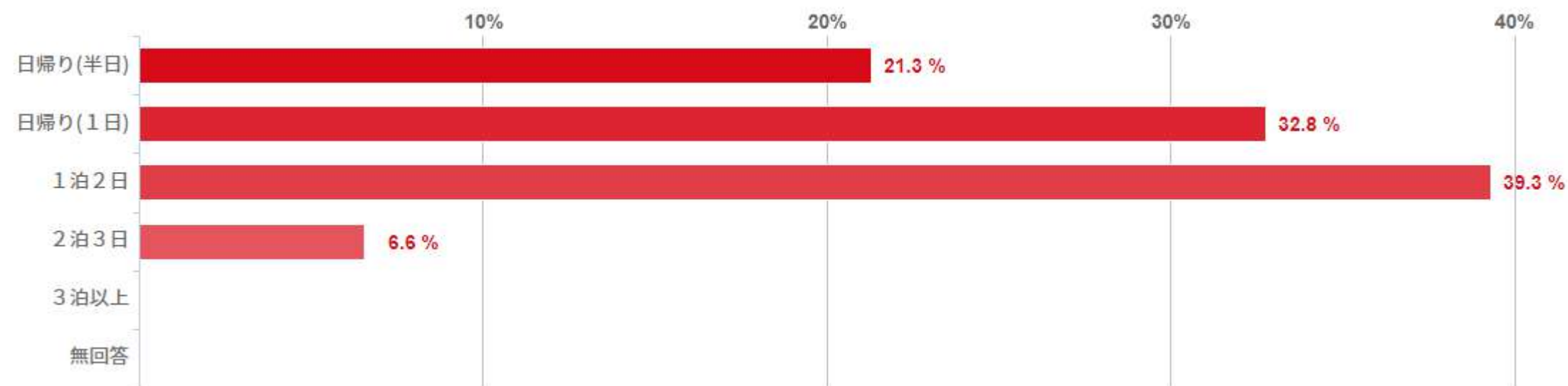
■今回の訪問内容について教えてください。

Q8. 単一回答

今回の尾瀬登山での滞在時間を教えてください。

※旅行全体ではなく、尾瀬登山での滞在についてお教え下さい。

(回答数: 61)

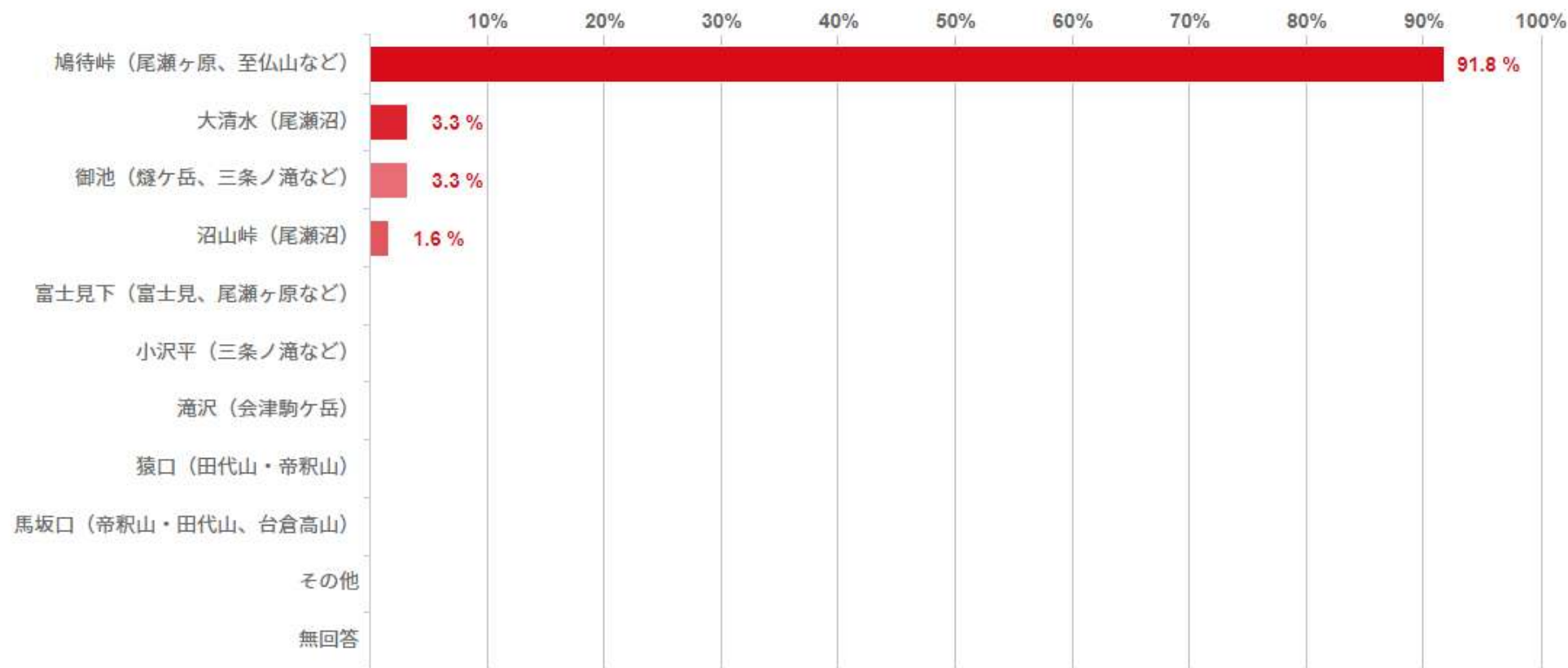


Q9. 単一回答

今回の入山口を教えてください。

※シャトルバスを利用して沼山峠から入山された方は「沼山峠」を選択してください。

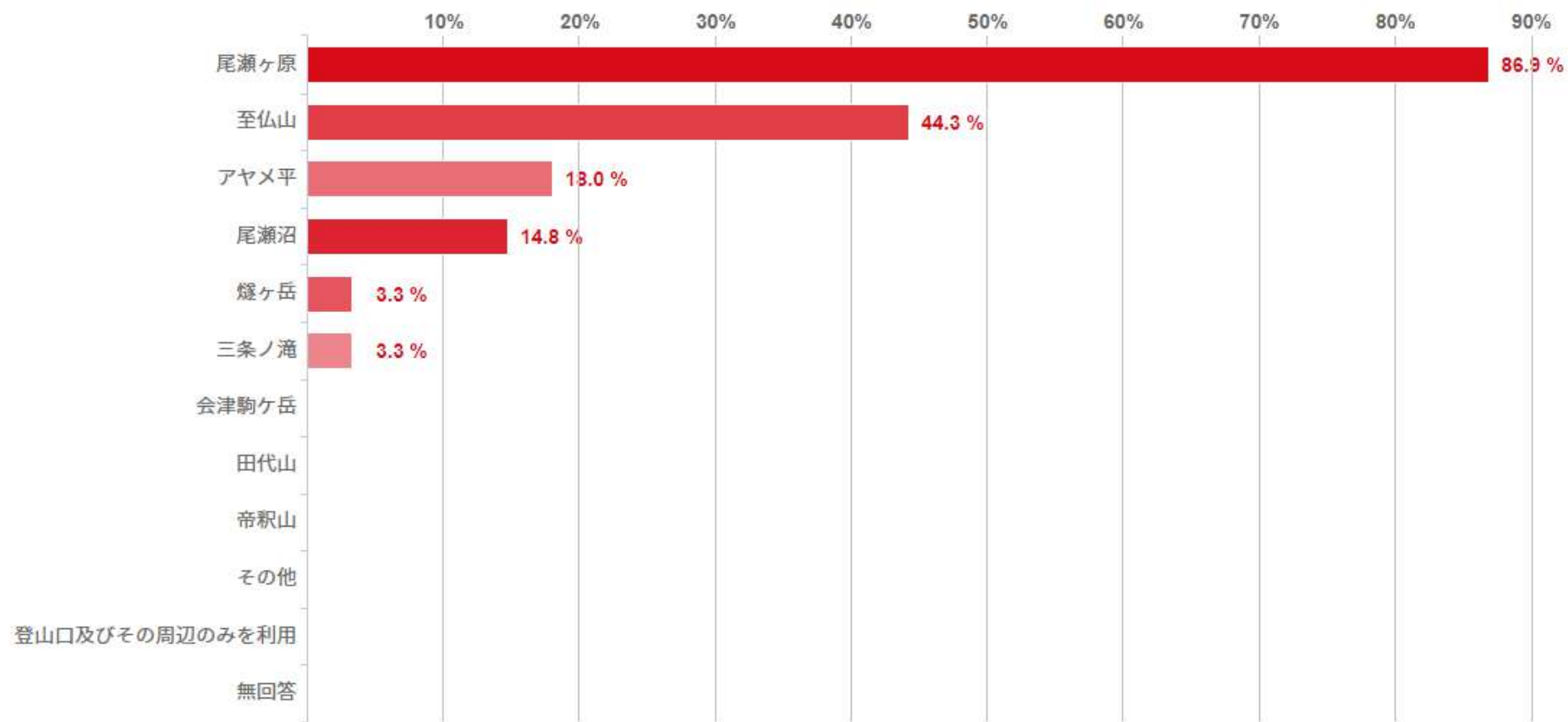
(回答数: 61)



Q10. 複数回答

今回の訪問場所を教えてください。

(回答数: 61)



Q11. 自由記述

今回の尾瀬登山での1人当たりの消費額を教えてください。

※訪問前後で消費したものは含まない（高速道路、道の駅で消費したものなど）。

※ツアーの方で、内訳が分からない場合は「その他」にご記載ください。

※支出していない費目については「0」を記入してください。

今回の尾瀬登山での一人当たりの消費額 全体 (N=60) 10,610円

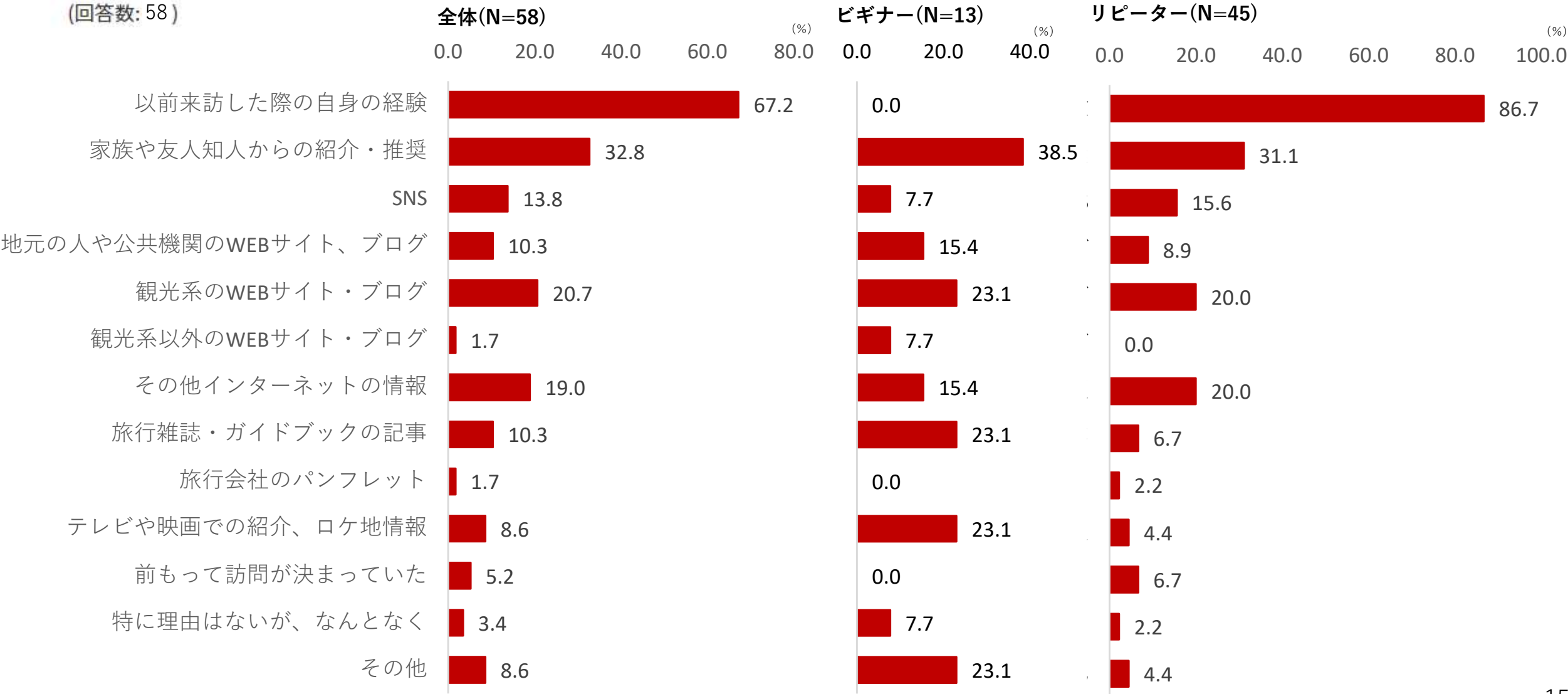
	宿泊費 (お弁当含む)	飲食費 (食堂、ビール、 コーヒー等)	シャトルバス・ 駐車場代	自然体験・ アクティビティ費 (ガイド代含む)	買い物・ お土産代	その他 (施設利用料、 トイレチップ等)
購入者数	27	41	57	1	25	57
購入者単価 (円)	11,131	1,705	3,525	4,000	1,521	407
消費単価	5,009	1,165	3,348	67	634	387

		宿泊費 (お弁当含む)	飲食費 (食堂、ビール、 コーヒー等)	シャトルバス・ 駐車場代	自然体験・ アクティビティ費 (ガイド代含む)	買い物・ お土産代	その他 (施設利用料、 トイレチップ等)	
日帰り (N=33)	5,091円	購入者数	0	18	31	0	12	31
		購入者単価 (円)	0	1,231	3,742	0	1,563	358
		消費単価	0	671	3,515	0	568	336
宿泊 (N=27)	17,355円	購入者数	27	23	26	1	13	26
		購入者単価 (円)	11,131	2,076	3,265	4,000	1,483	465
		消費単価	11,131	1,769	3,144	148	714	448

■今回の尾瀬訪問の情報源・きっかけについて教えてください。

Q12. 複数回答

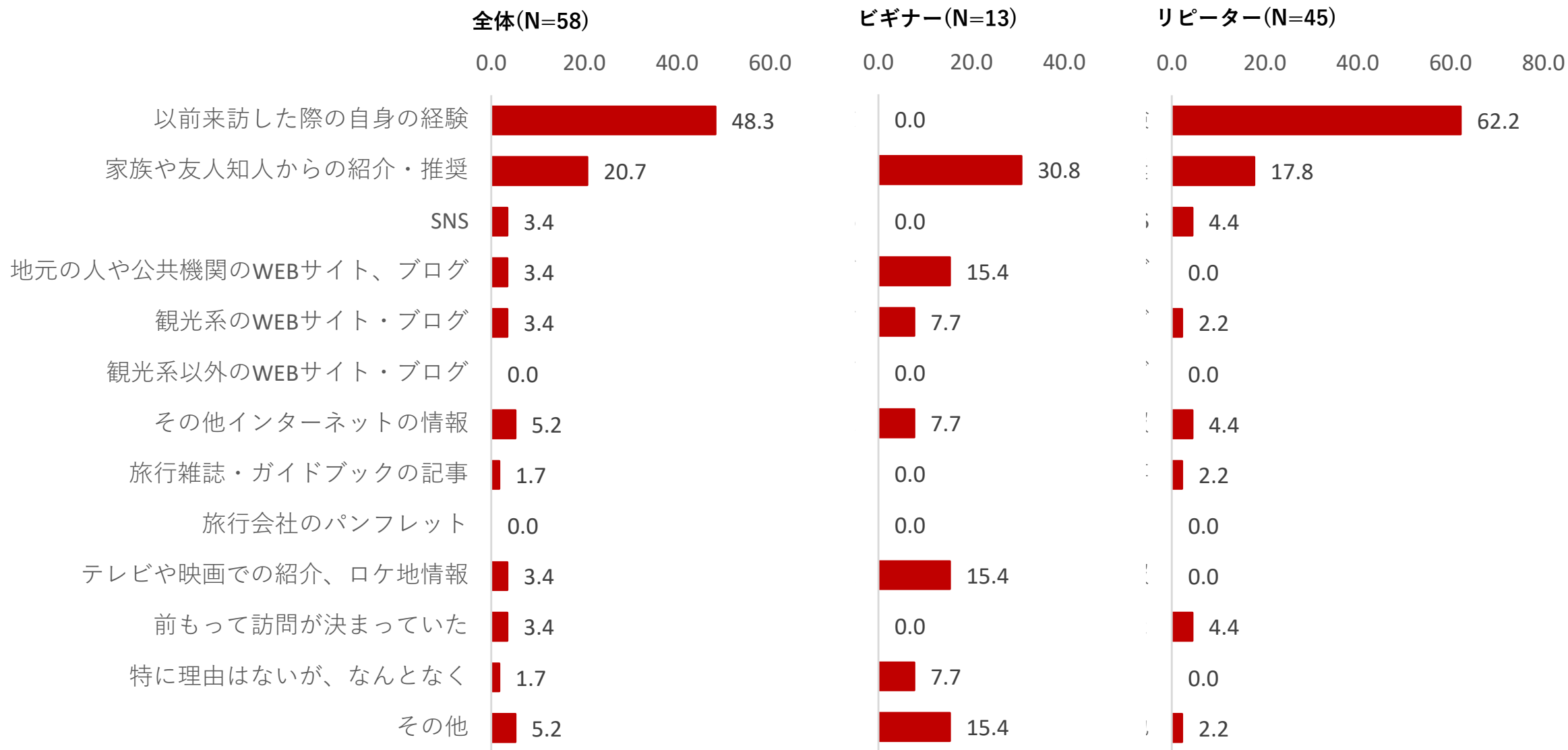
尾瀬を選んだ際の情報源は何ですか？
(回答数: 58)

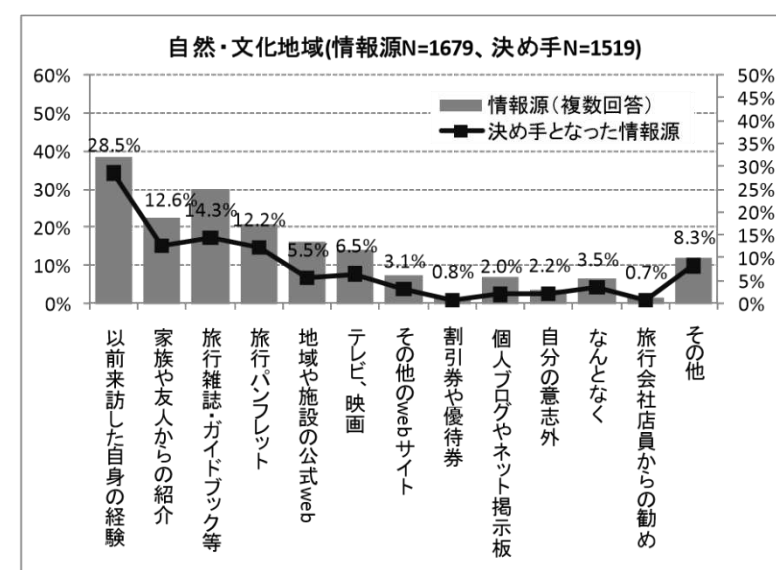
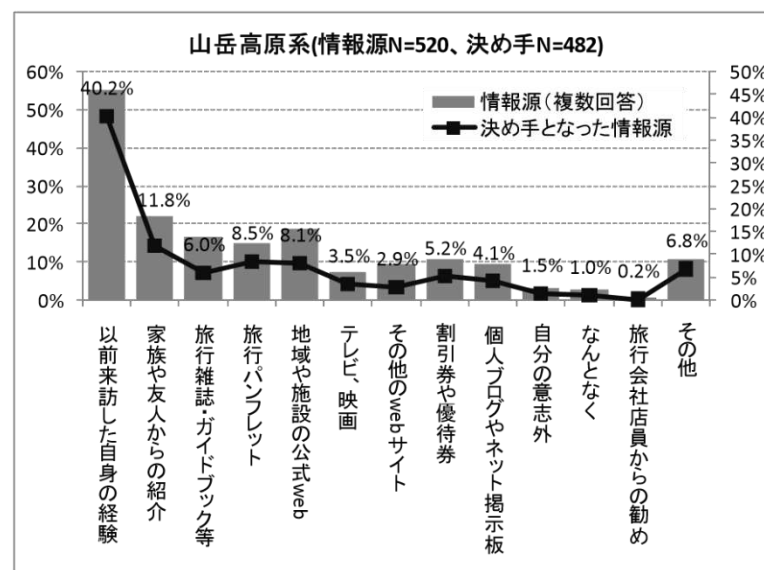
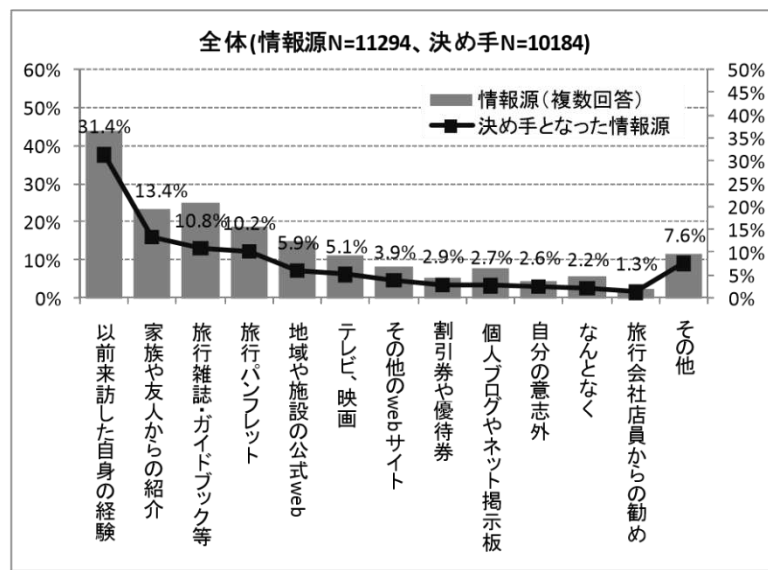


Q13. 単一回答

尾瀬を選んだ際の情報源の中で、選んだ“決め手”となったものを1つだけお選びください。

(回答数:58)





「観光地の魅力向上に向けた評価手法調査事業報告書」

(観光庁観光地域振興部 観光地域振興課、平成22年3月)

Q14. 自由記述

具体的な情報源を教えてください。

SNS（Facebook、Instagram、Twitter など）の場合

媒体名等	回答数
Twitter(登山が趣味の一般人や尾瀬の山小屋、ビジターセンター)	7
Facebook(原の小屋1)	4
Instagram	2
尾瀬保護財団	1
登山天気アプリ	1
温泉小屋	1
尾瀬小屋	1
Yahoo 天気	1
YAMAP	1
かほの登山日記	1

WEBサイト・ブログの場合

媒体名等	回答数
YAMAP	3
ヤマレコ	3
YAMAKEI ONLINE	2
気象庁天気予報	2
Yahoo	1
YouTube	1
関越交通HP	1
山と高原地図	1
小屋HP	1
登山天気	1
東電小屋	1
東武ツアーHP	1
その他(尾瀬と検索して出てくるサイト)	2

旅行雑誌・ガイドブック等の場合

媒体名等	回答数
るるぶ尾瀬	2
尾瀬のパンフレット	1
YAMAP山登りベストコース	1
じゃらん	1

■今回の尾瀬登山の満足度等について教えてください。

Q15. 単一回答

今回の尾瀬登山の総合満足度はどのくらいですか。

Q16. それぞれ単一回答

家族・親戚、友人・知人に尾瀬を紹介したいですか。また、1年以内に、尾瀬を訪問したいですか。

項目		大変満足	満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満	大変不満	合計	点数
総合満足度	回答数	26	27	6	1	1	0	0	61	6.2
	割合	42.6%	44.3%	9.8%	1.6%	1.6%	0.0%	0.0%	100.0%	
項目		大変そう思う	そう思う	ややそう思う	ふつう	あまりそう思わない	思わない	全くそう思わない	合計	点数
紹介意向	回答数	34	24	3	0	0	0	0	61	6.5
	割合	55.7%	39.3%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
再来訪意向 (一年以内)	回答数	32	15	9	2	3	0	0	61	6.2
	割合	52.5%	24.6%	14.8%	3.3%	4.9%	0.0%	0.0%	100.0%	

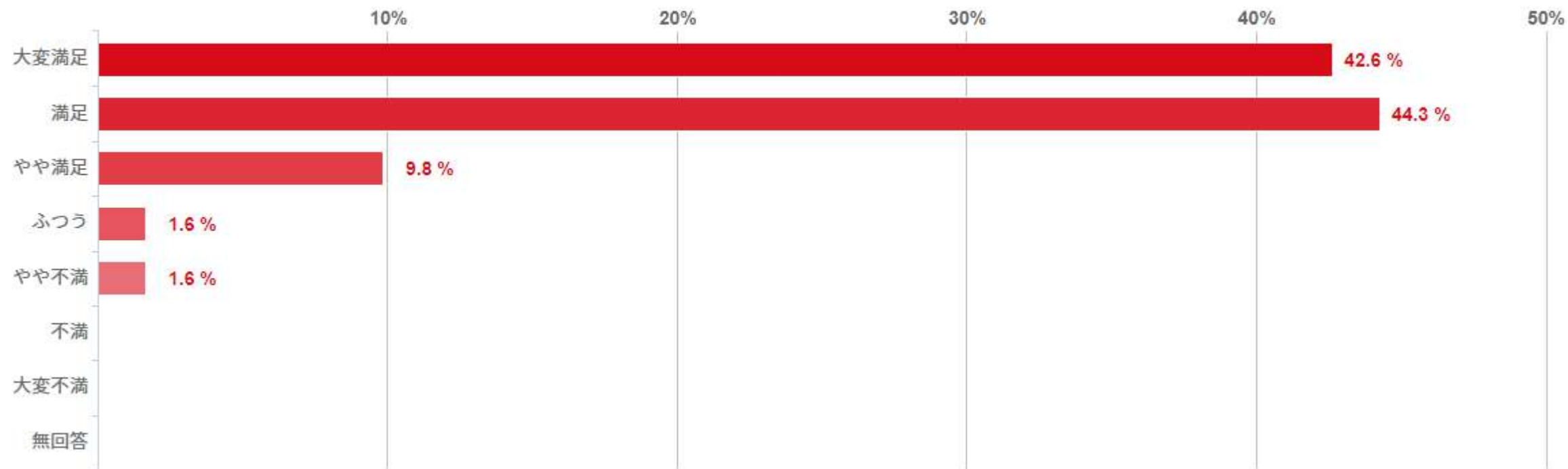
注：点数は、「大変満足」「大変そう思う」を7点、「大変不満」「全くそう思わない」を1点としたときの平均点

■今回の尾瀬登山の満足度等について教えてください。

Q15. 単一回答

今回の尾瀬登山の総合満足度はどのくらいですか。

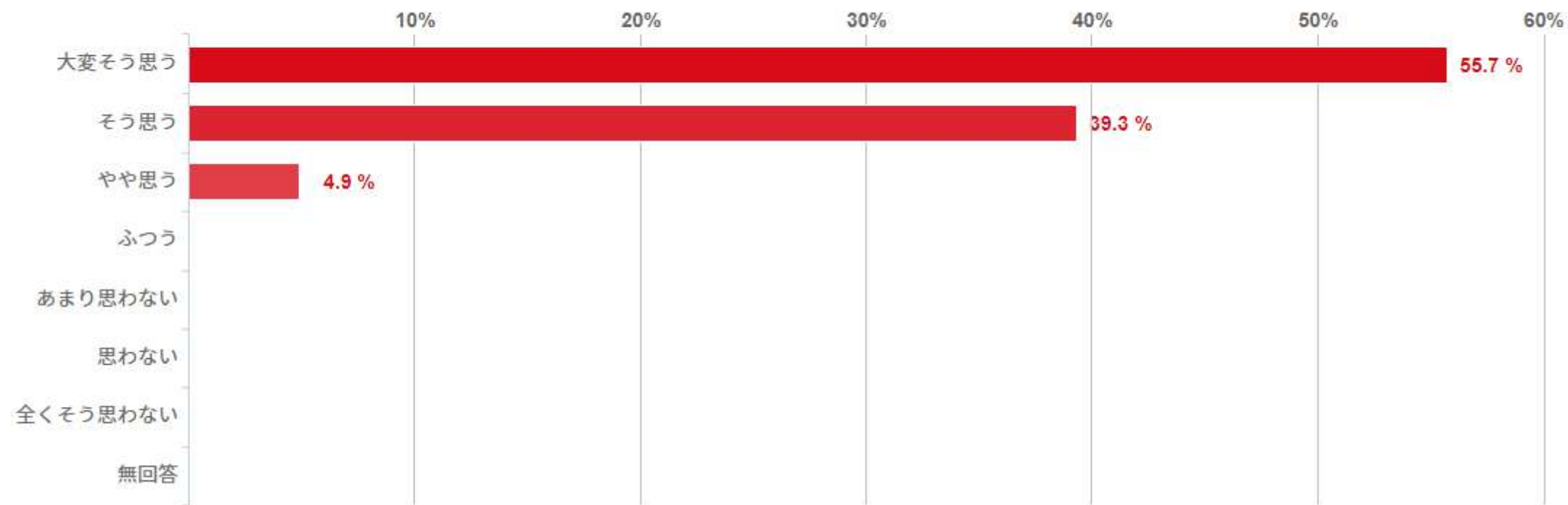
総合満足度 (回答数: 61)



Q16. 単一回答

家族・親戚、友人・知人に尾瀬を紹介したいですか。また、1年以内に、尾瀬を訪問したいですか。

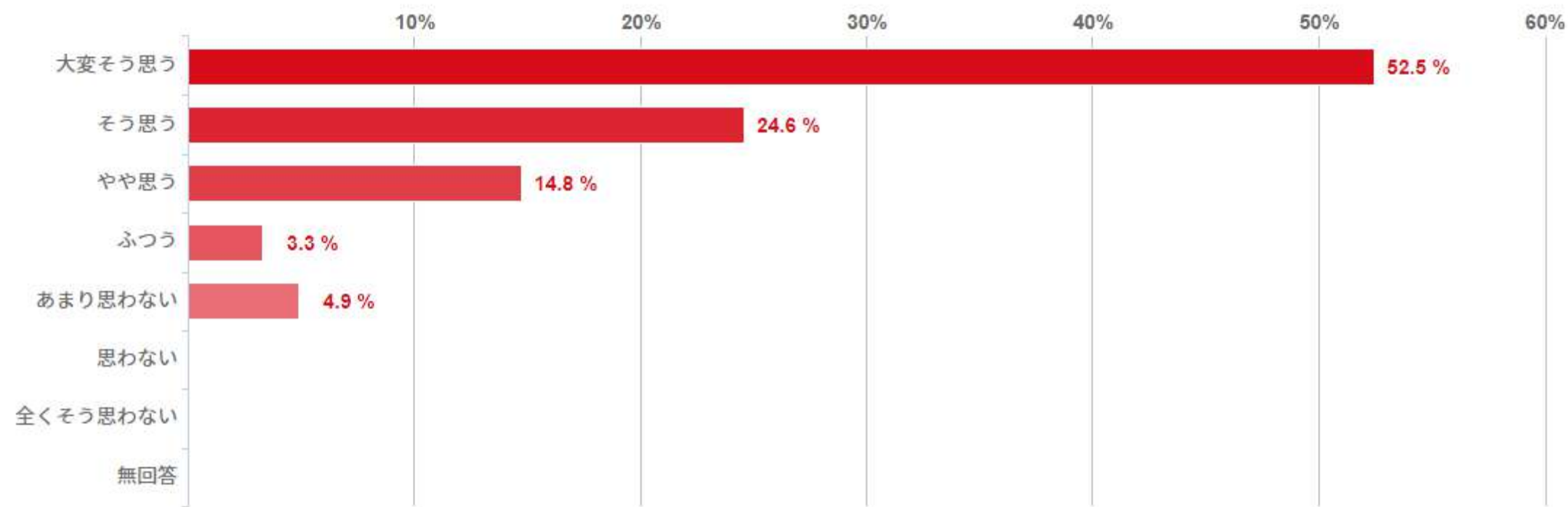
紹介意向 (回答数: 61)



Q16. 単一回答

家族・親戚、友人・知人に尾瀬を紹介したいですか。また、1年以内に、尾瀬を訪問したいですか。

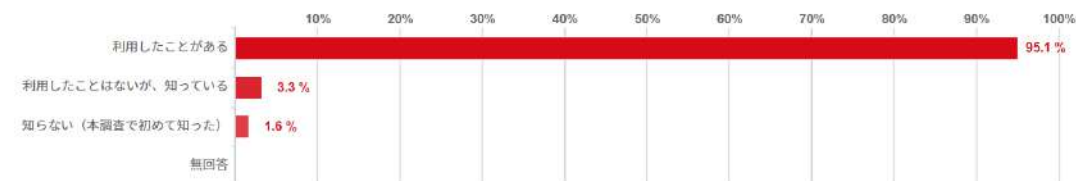
再来訪意向（1年以内）（回答数: 61）



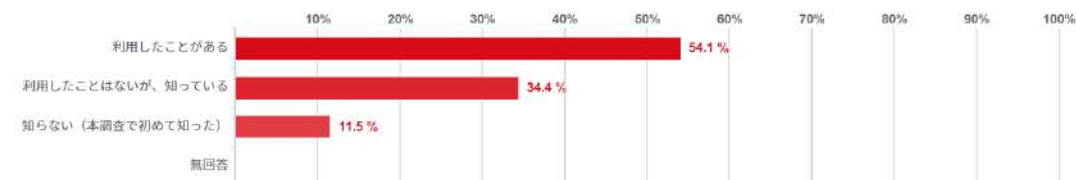
Q17. それぞれ単一回答

以下の尾瀬登山口を知っていますか。また、利用したことがありますか。

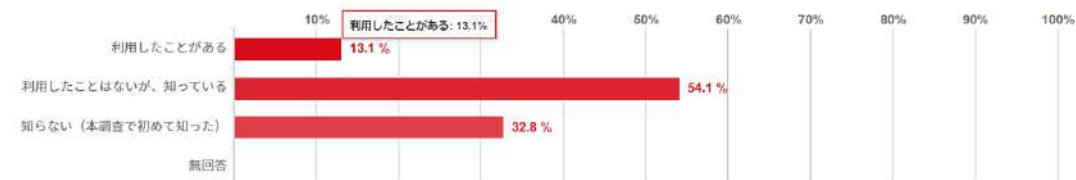
鳩待峠（尾瀬ヶ原、至仏山など）
(回答数: 61)



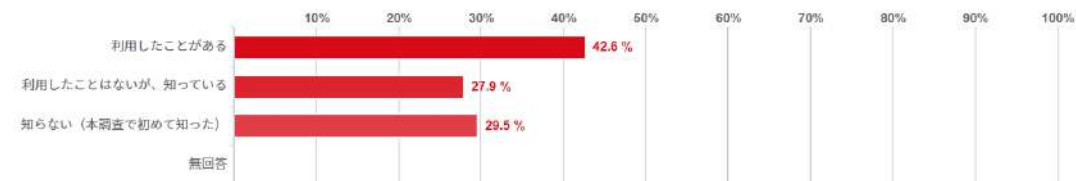
大清水（尾瀬沼）
(回答数: 61)



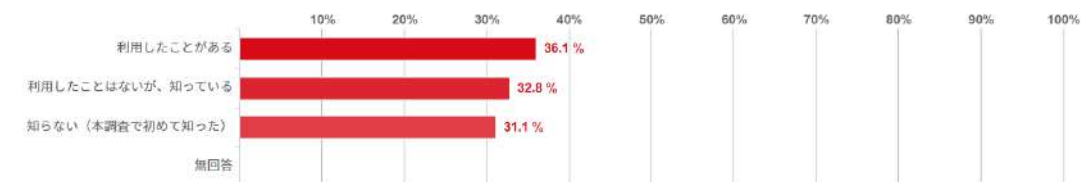
富士見下（富士見、尾瀬ヶ原など）
(回答数: 61)



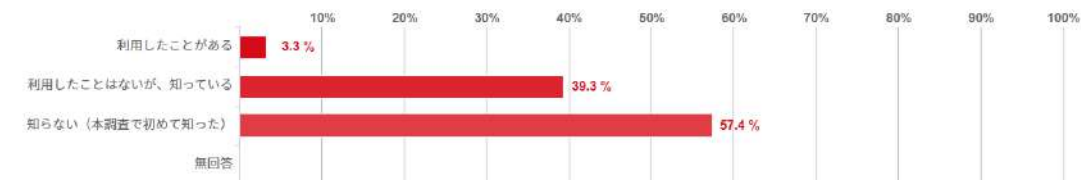
沼山峠（尾瀬沼）
(回答数: 61)



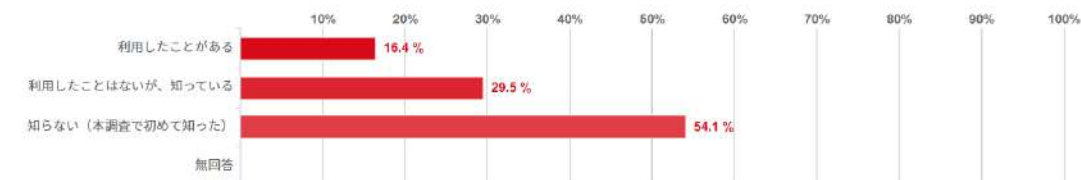
御池（燧ヶ岳、三条ノ滝など）
(回答数: 61)



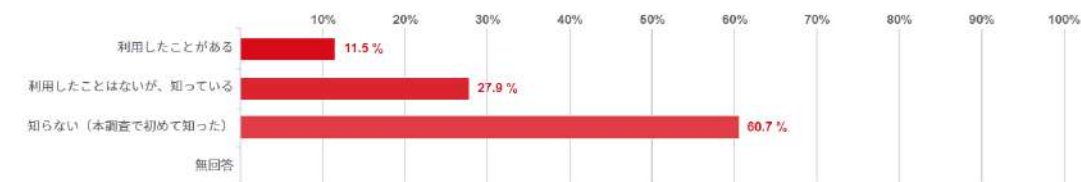
小沢平（三条ノ滝など）
(回答数: 61)



滝沢（会津駒ヶ岳）
(回答数: 61)



猿口（田代山・帝釈山）
(回答数: 61)



馬坂口（帝釈山・田代山、台倉高山）
(回答数: 61)

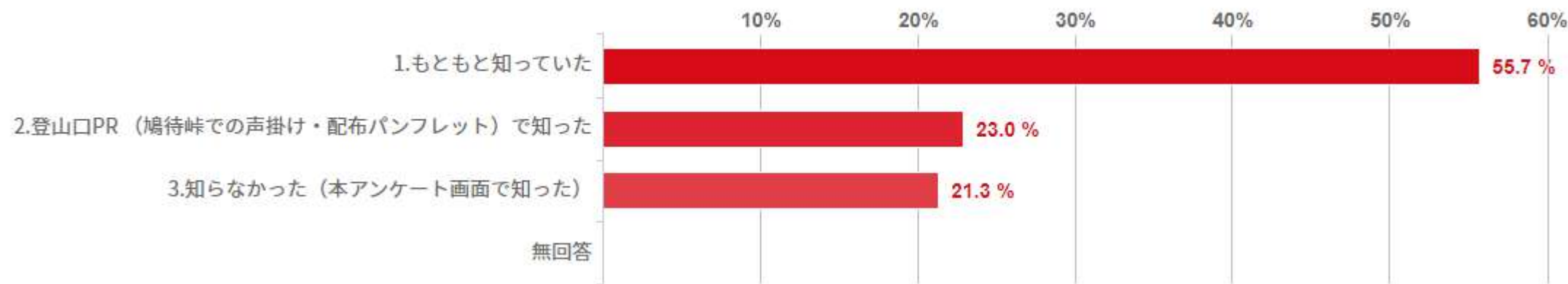


■尾瀬登山口PRに関連してお聞きします。

Q18. 単一回答

今回の登山口PRを受けて、以下の点について教えてください。

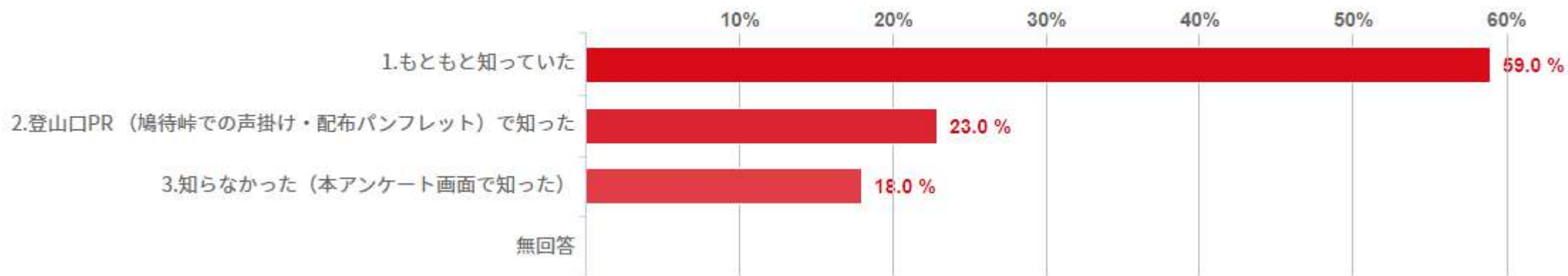
尾瀬は、ぐんま尾瀬（片品村）、ふくしま尾瀬（檜枝岐村、南会津町）、にいがた尾瀬（魚沼市）の3つ入口があることを知ることができましたか。（回答数: 61）



Q18. 単一回答

今回の登山口PRを受けて、以下の点について教えてください。

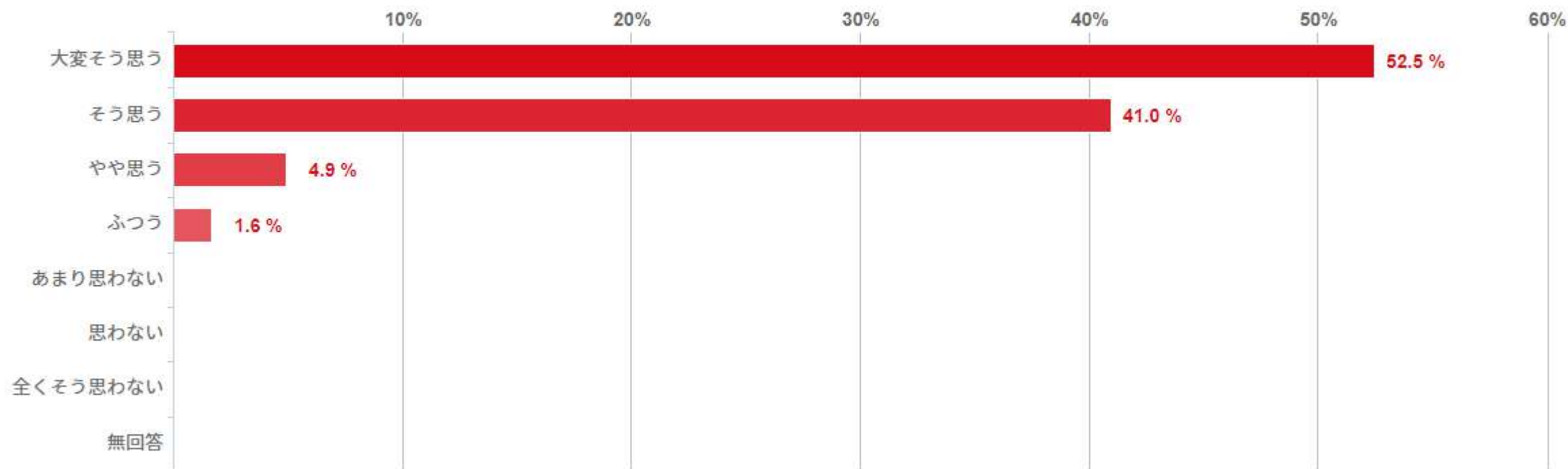
尾瀬には、鉄道やバス、遊覧船など、さまざまなアクセス方法があることを知ることができましたか。 (回答数: 61)



Q19. 単一回答

今回の登山口PRを受けて、以下の点について教えてください。

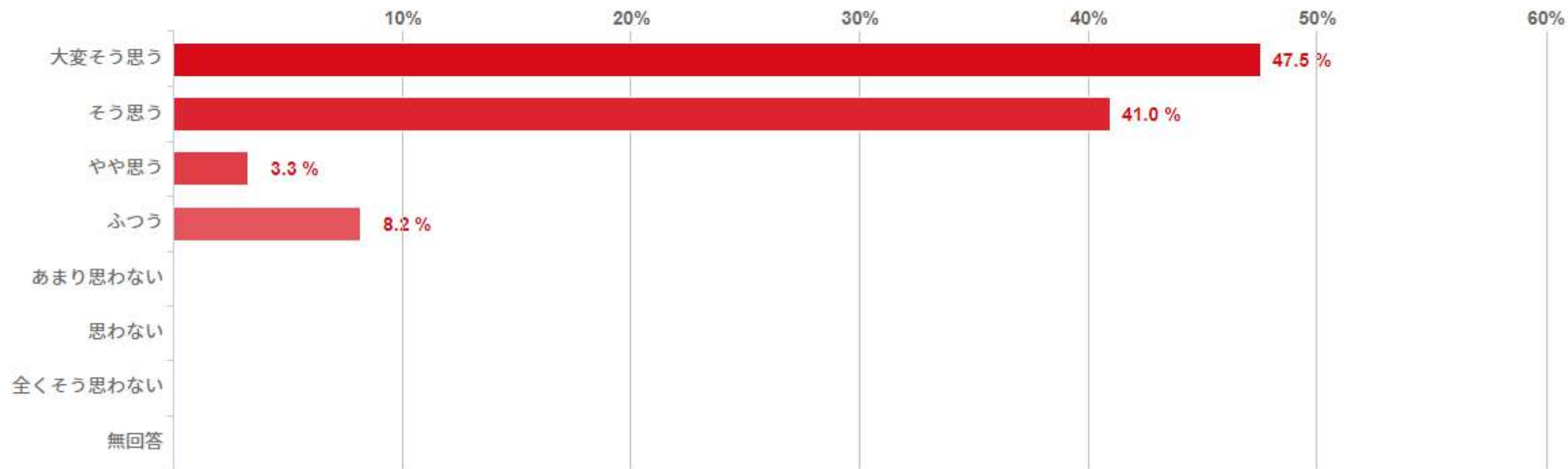
それぞれのエリアに個性豊かな文化や自然等の面白さがあると感じましたか。 (回答数: 61)



Q19. 単一回答

今回の登山口PRを受けて、以下の点について教えてください。

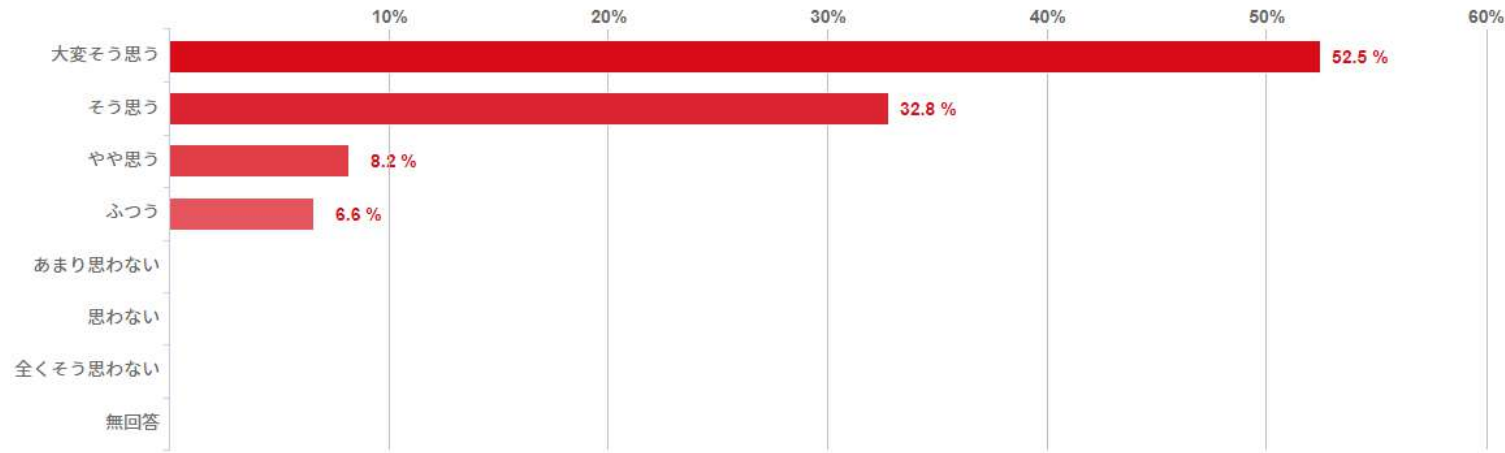
尾瀬には複数の登山口があることを知ることができましたか。 (回答数: 61)



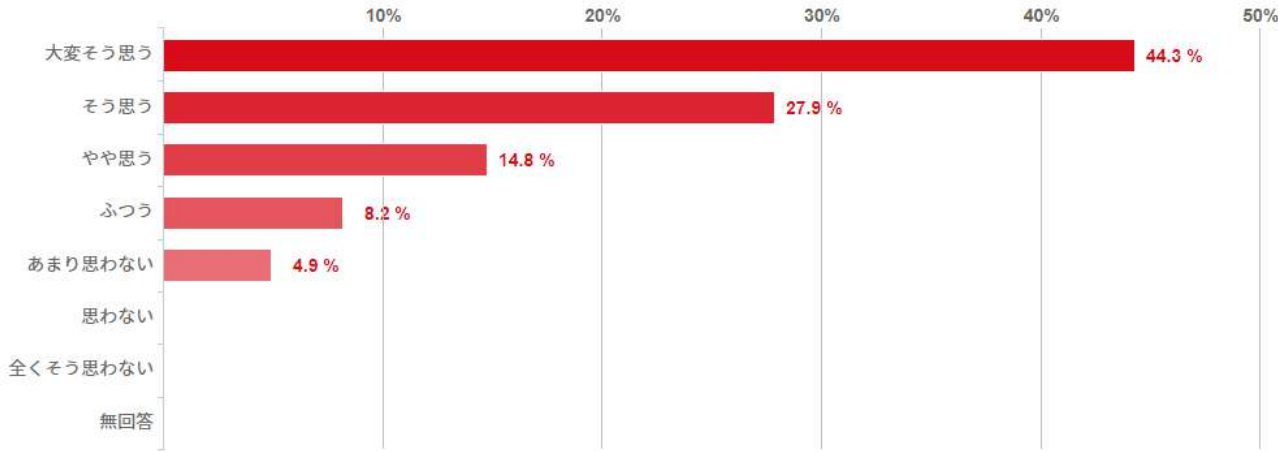
Q20. それぞれ単一回答

今回の登山口PRを受けて、尾瀬の各エリアを利用したくなりましたか。

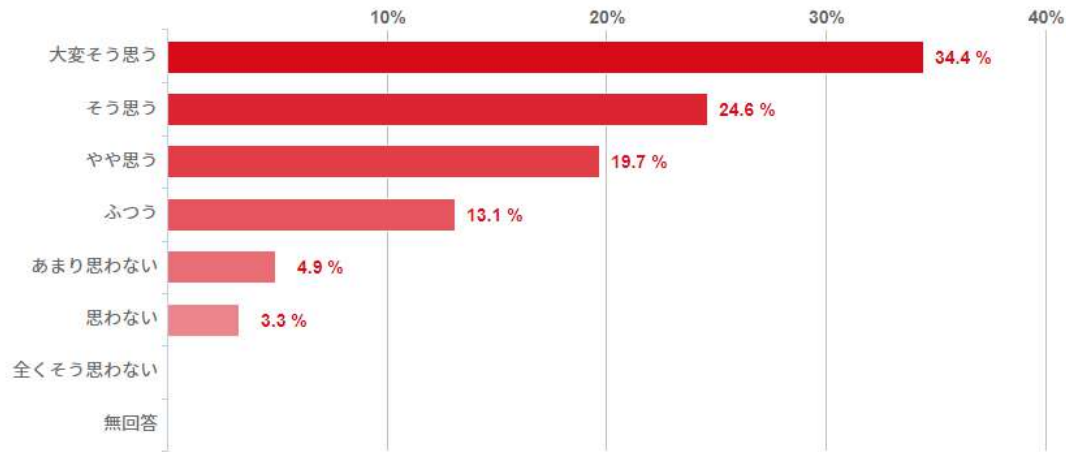
ぐんま尾瀬（片品村）
(回答数: 61)



ふくしま尾瀬（檜枝岐村、南会津町）
(回答数: 61)



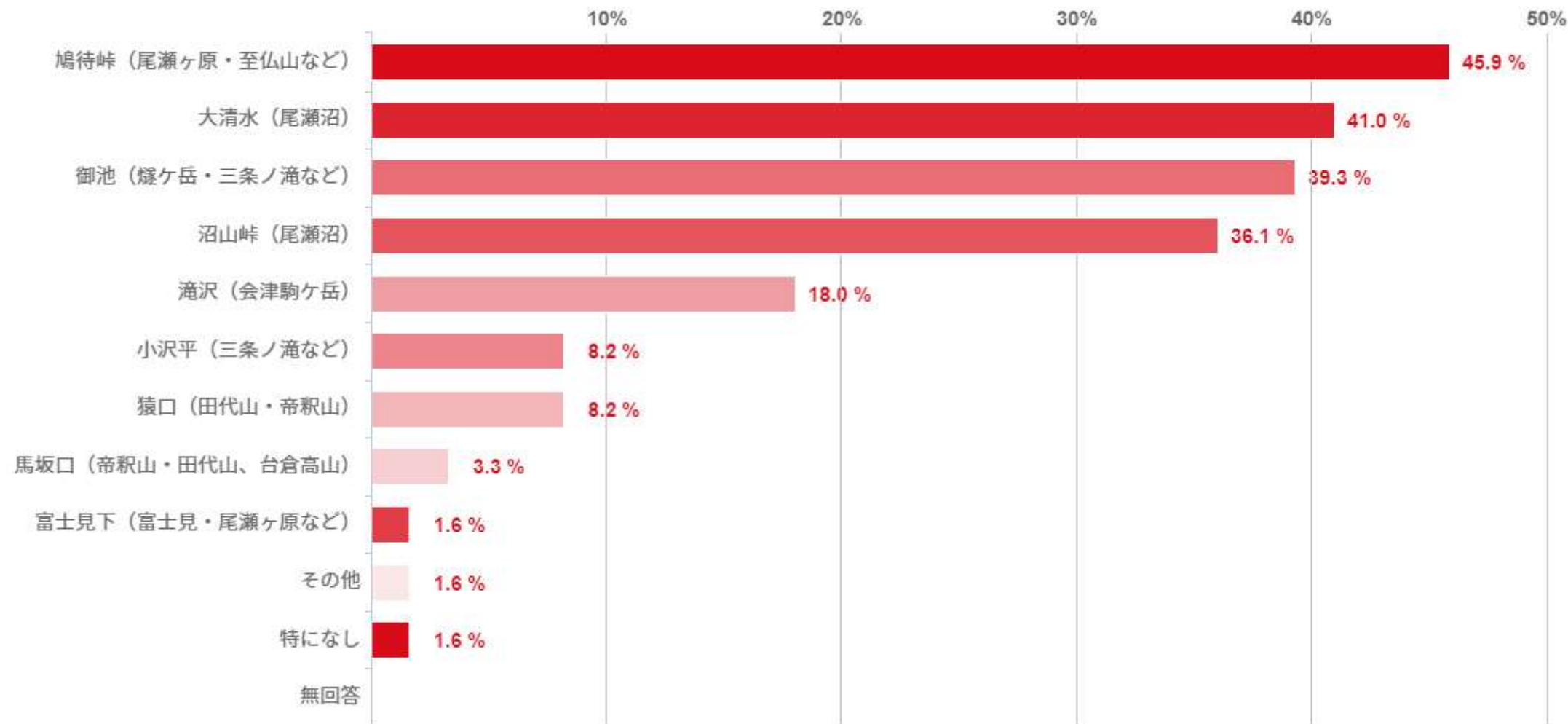
にいがた尾瀬（魚沼市）
(回答数: 61)



Q21. 複数回答

今回の登山口PRを受けて、具体的に次回はどの登山口から入山したいと思いましたか。

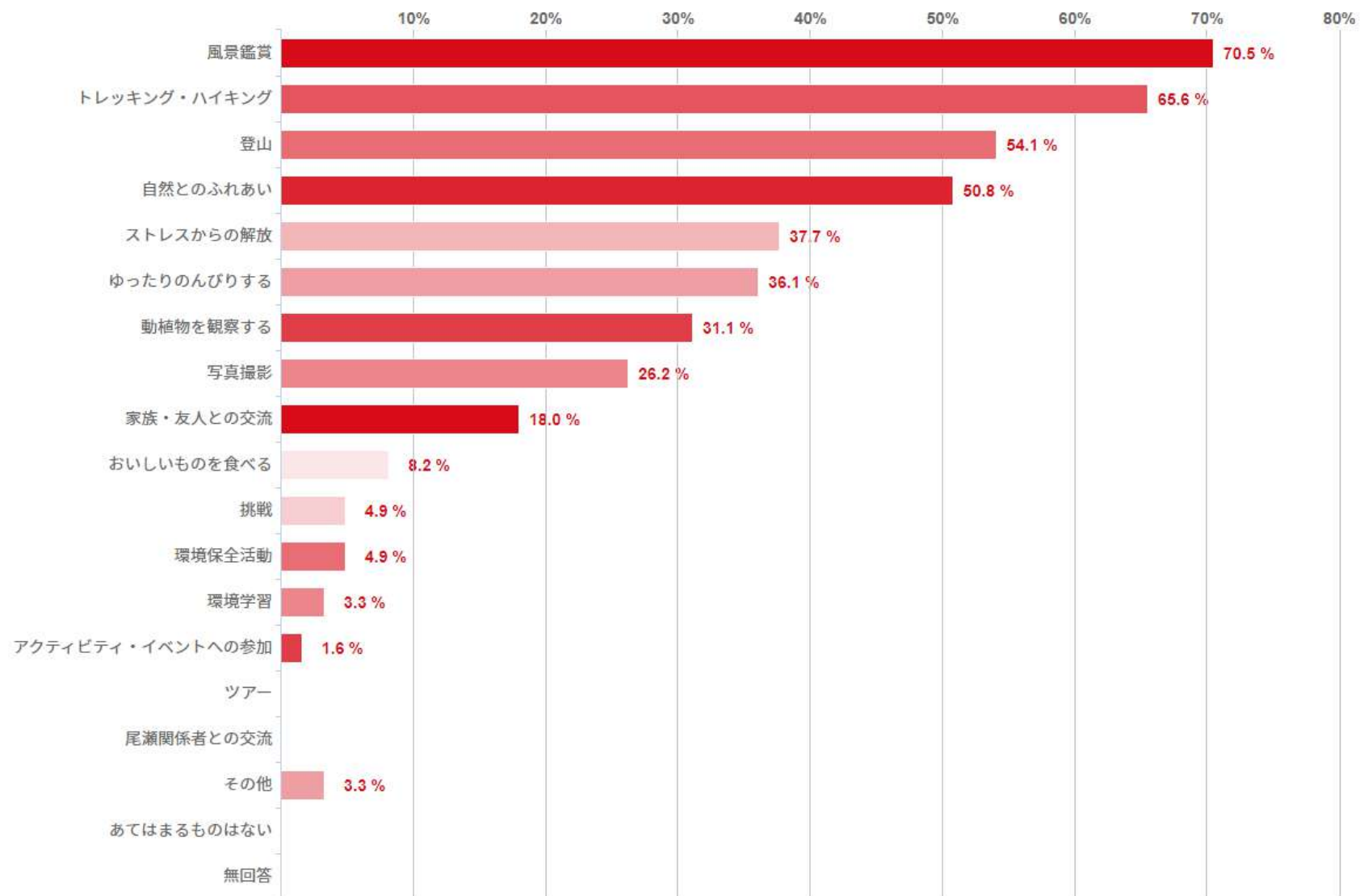
(回答数: 61)



Q22. 複数回答

次回はどのような目的で尾瀬登山をしたいと思いましたか。

(回答数: 61)



Q23. それぞれ単一回答

今回の尾瀬登山口PRを受けて、以下のような利用・体験を試みたくなりましたか。

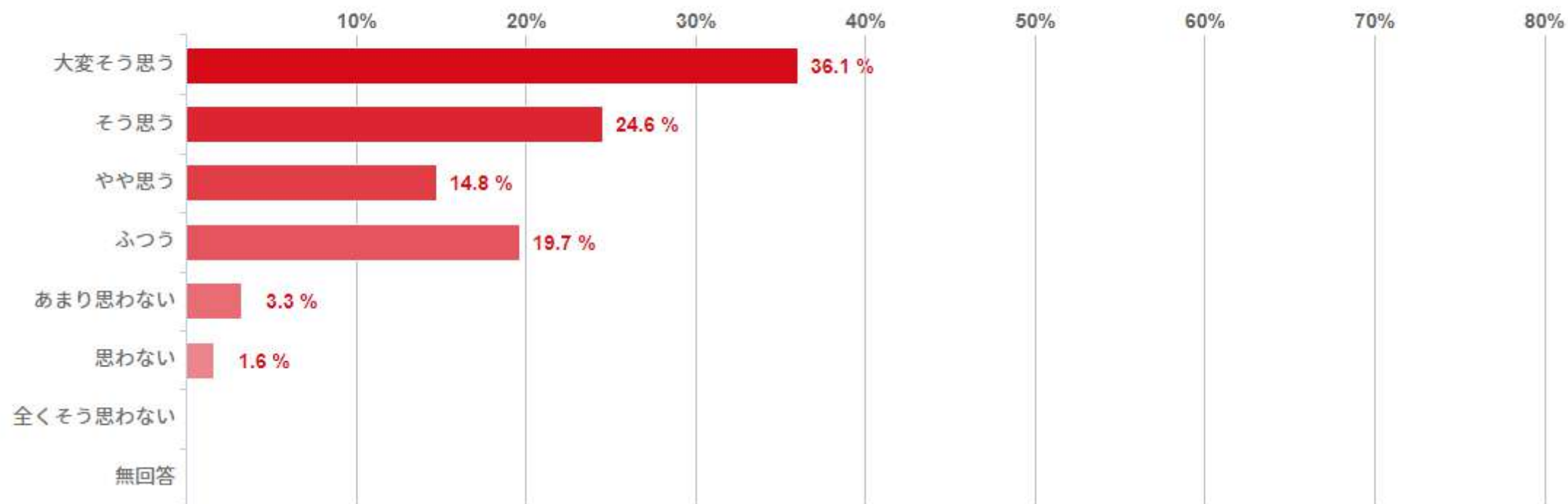
項目		大変そう思う	そう思う	ややそう思う	ふつう	あまりそう思わない	思わない	全くそう思わない	合計
ピストン利用 (今回とは別の入下山口を利用)	回答数	22	15	9	12	2	1	0	61
	割合	36.1%	24.6%	14.8%	19.7%	3.3%	1.6%	0.0%	100.0%
周遊利用 (入下山口が異なる利用)	回答数	26	10	8	6	8	3	0	61
	割合	42.6%	16.4%	13.1%	9.8%	13.1%	4.9%	0.0%	100.0%
滞在利用 (尾瀬内の山小屋での宿泊利用)	回答数	34	13	4	5	5	0	0	61
	割合	55.7%	21.3%	6.6%	8.2%	8.2%	0.0%	0.0%	100.0%
体験プログラム利用 (例：ガイドツアー、ビジターセンターでのイベント)	回答数	4	6	18	14	16	1	2	61
	割合	6.6%	9.8%	29.5%	23.0%	26.2%	1.6%	3.3%	100.0%
異なる季節・時期の利用 (紅葉時期以外の利用)	回答数	46	12	1	2	0	0	0	61
	割合	75.4%	19.7%	1.6%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

Q23. 単一回答

今回の尾瀬登山口PRを受けて、以下のような利用・体験を試してみたいくなりましたか。

ピストン利用（今回とは別の入下山口を利用）

(回答数: 61)

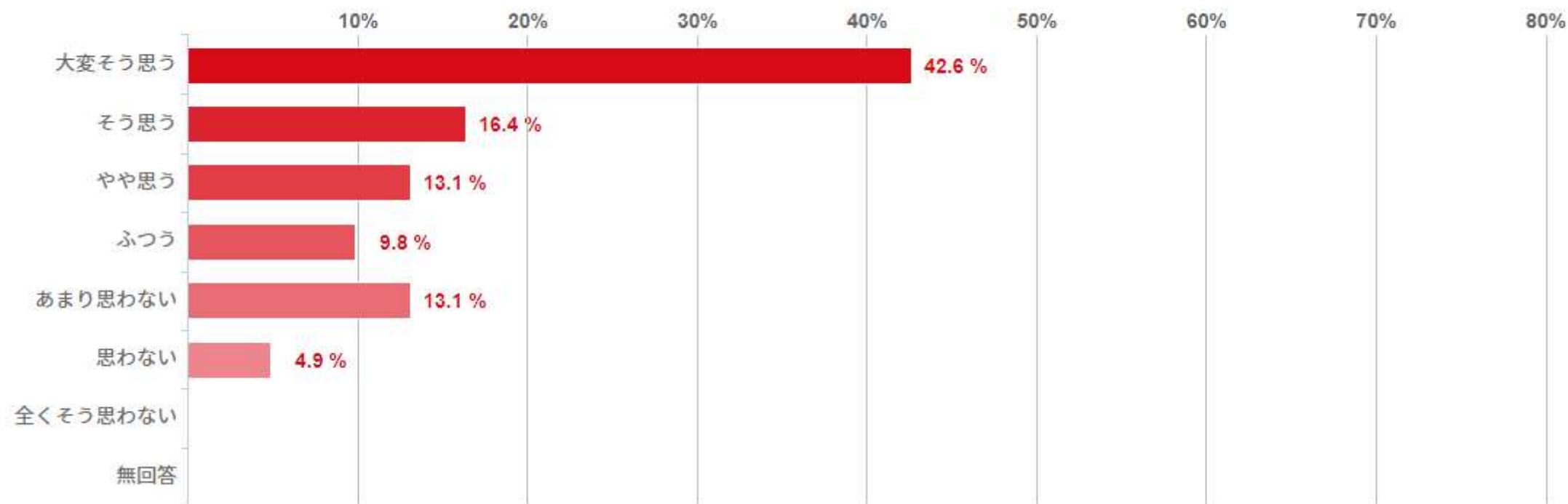


Q23. 単一回答

今回の尾瀬登山口PRを受けて、以下のような利用・体験をしてみたくありませんか。

周遊利用（入下山口が異なる利用）

(回答数: 61)

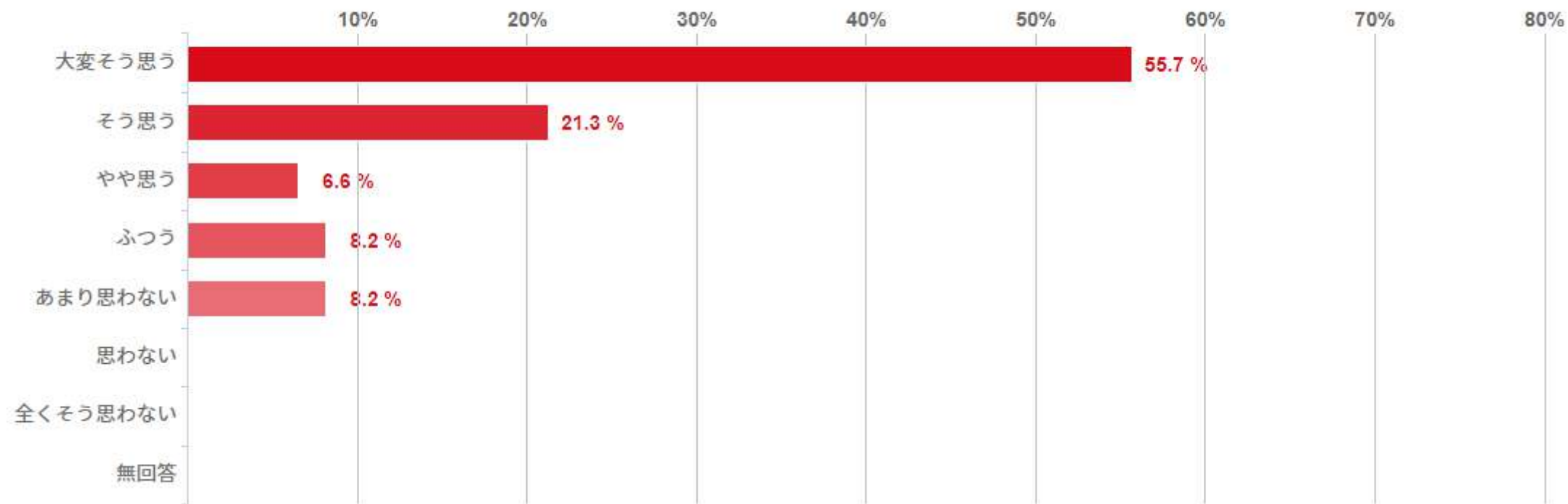


Q23. 単一回答

今回の尾瀬登山口PRを受けて、以下のような利用・体験をしてみたいくなりましたか。

滞在利用（尾瀬内の山小屋での宿泊利用）

(回答数: 61)

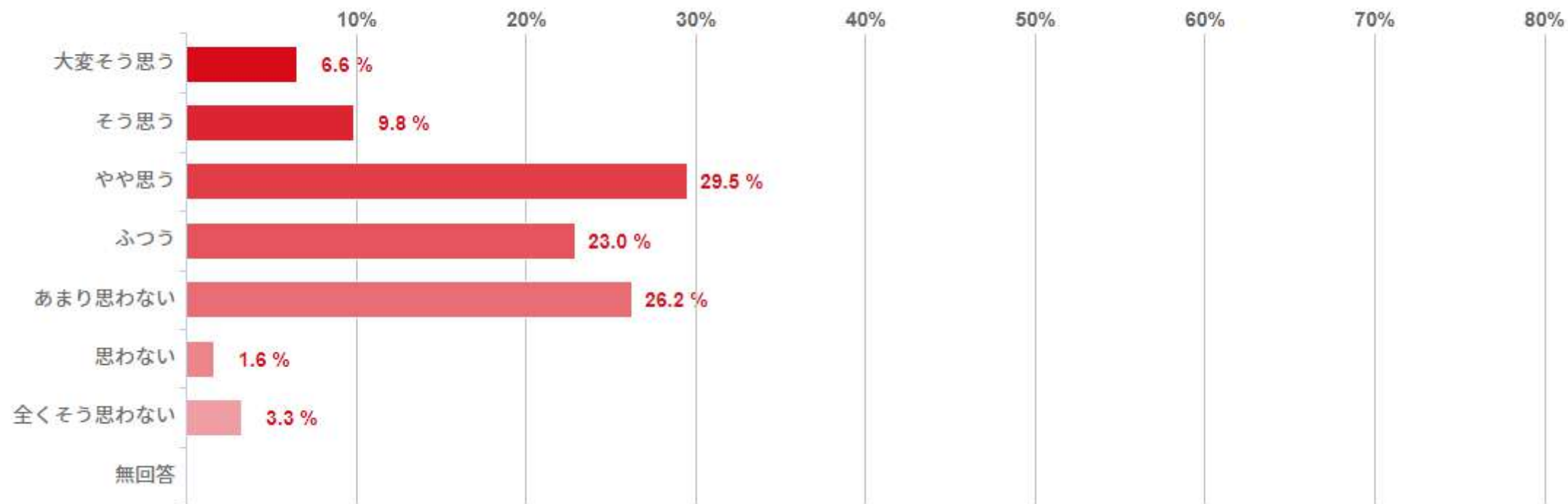


Q23. 単一回答

今回の尾瀬登山口PRを受けて、以下のような利用・体験をしてみたくありませんか。

体験プログラム利用（例：ガイドツアー、ビジターセンターのイベント）

(回答数: 61)

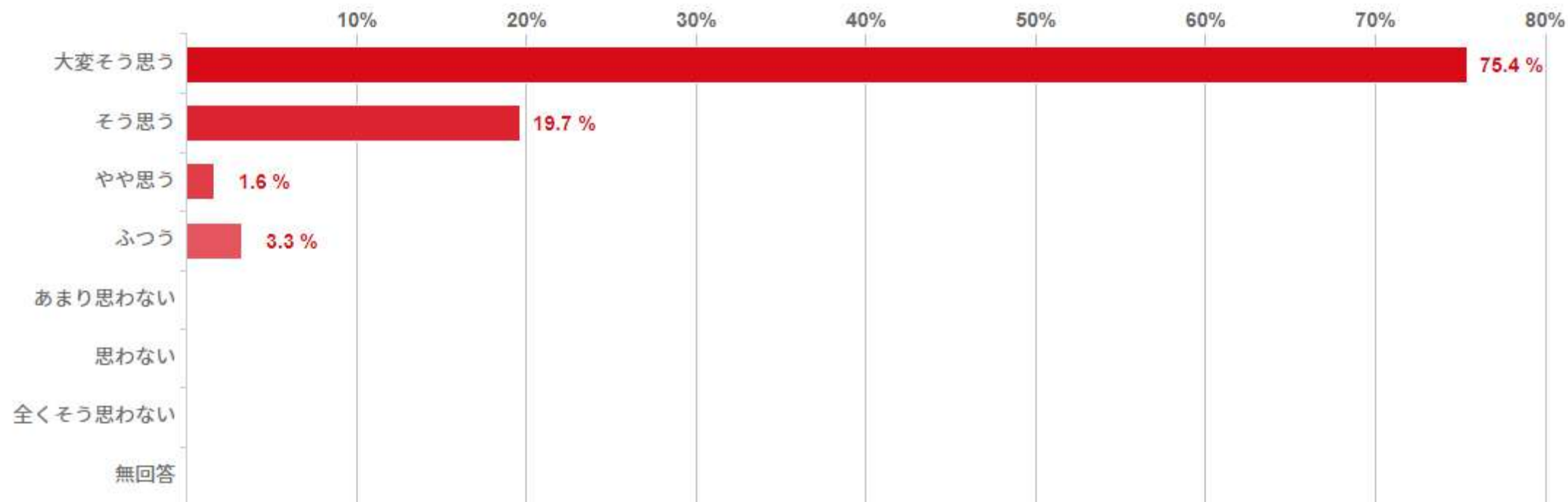


Q23. 単一回答

今回の尾瀬登山口PRを受けて、以下のような利用・体験をしてみたいくなりましたか。

異なる季節・時期の利用（紅葉時期以外の利用）

(回答数: 61)



Q24. 自由記述

（いつも同じ登山口から入山されている場合）なぜ、ほかの登山口を利用されないのか、理由を教えてください。
また、別の登山口を利用していただくためには、どのような点を解決したらよいか、アイデア等がありましたら教えてください。

	都道府県	入山口	自由回答
1	宮城県	鳩待峠	沼山峠側はコンビニが無く不便なので、それが解決されればもっと利用されるようになると思います。檜枝岐は不便です。
2	福島県	鳩待峠	自宅からの交通が車になる為、同じ登山口からの利用になる。例えば御池から鳩町までシャトルバスが出るなど、登山口から登山口へのアクセスがあれば利用したい。
3	新潟県	鳩待峠	自宅からのアクセスが良いから。いつも鳩待峠を利用してます。各登山口のアピール（良いところ）を発信したらどうでしょうか。
4	群馬県	鳩待峠	急な登り降りがあるため。休憩場所を増やすと良い。
5	群馬県	鳩待峠	住んでいるところから車で来て近い登山口がいいため。なかなか難しい。
6	群馬県	鳩待峠	一度行ったことがあると安心。今回のような情報発信があると良い
7	栃木県	鳩待峠	家から遠い
8	埼玉県	鳩待峠	自家用車の利用の為。各登山口を結ぶ交通機関があれば・・
9	埼玉県	鳩待峠	マイカー利用のため、どうしても元の駐車場所に戻る必要があります。そのため、周遊の経路は鳩待峠～大清水等に限定されます。北アルプスで行われているような車の回送サービスが解決策で考えられますが、現実的ではありません。
10	埼玉県	鳩待峠	アクセスの遠さ。週末のバスの便増加や、電車とバスのセット販売など。
11	埼玉県	鳩待峠	自分の住まいからのアクセスが悪いこと。マイカーで時間がかかること。。
12	埼玉県	鳩待峠	東京からの直通高速バスが限られているから
13	埼玉県	鳩待峠	いつも鳩待峠を利用するのは自分の目的にとってベストであるからです。解決するべきことは何もないと思います。現状のままでよいです。来訪者は自分の目的によって利用登山口を決めているので、利用登山口を分散させようとするは無駄な努力と思います。また、今以上に来訪者を増加させようとする事は望みません。
14	埼玉県	御池	都心から交通機関(私は夜行バスか夜行列車&バス)を利用すると、登山口が限られてしまうので。→他の登山口へ行きやすい交通手段があれば、利用したいです。その登山口を利用しないと辿り着けない魅力的な何かがあれば、それ目的で行きます例えば、美味しいご飯やカフェなど。他の山では美味しい食べ物目当てで行くことがよくあるので。
15	神奈川県	鳩待峠	自家用車
16	神奈川県	鳩待峠	自宅からのアクセスが便利なので。
17	神奈川県	鳩待峠	入り口までマイカーで行けると幅が広がる 乗合バスの距離が長くて酔ってしまうのがつらいので、登山口までもマイペースに行きたい。
18	神奈川県	鳩待峠	アクセスの容易さ 南関東から向かうので、鳩待峠・大清水がアクセスしやすい。檜枝岐村から帰ったことがあるが、帰宅まですごく時間がかかったので……
19	神奈川県	鳩待峠	都内からのアクセスがいちばん良いので戸倉を利用した。南魚沼にも興味があるので、尾瀬で遊びつつ魚沼も楽しめる時間の過ごし方をたくさんPRしてほしい
20	神奈川県	大清水	各登山口間に、環境に配慮したかつ、尾瀬カラー、・モチーフなどで統一された画像映え、海外アピールするような無料バスなどをぜひ配置して欲しい。尾瀬周遊に劇的な効果を生むと思う。環境を楽しむだけのフリーライダーが多い今の日本の観光のあり方を尾瀬から変えて行って欲しいです。入山料をとって良いレベルの環境だと思います環境省のみなさまぜひご検討を

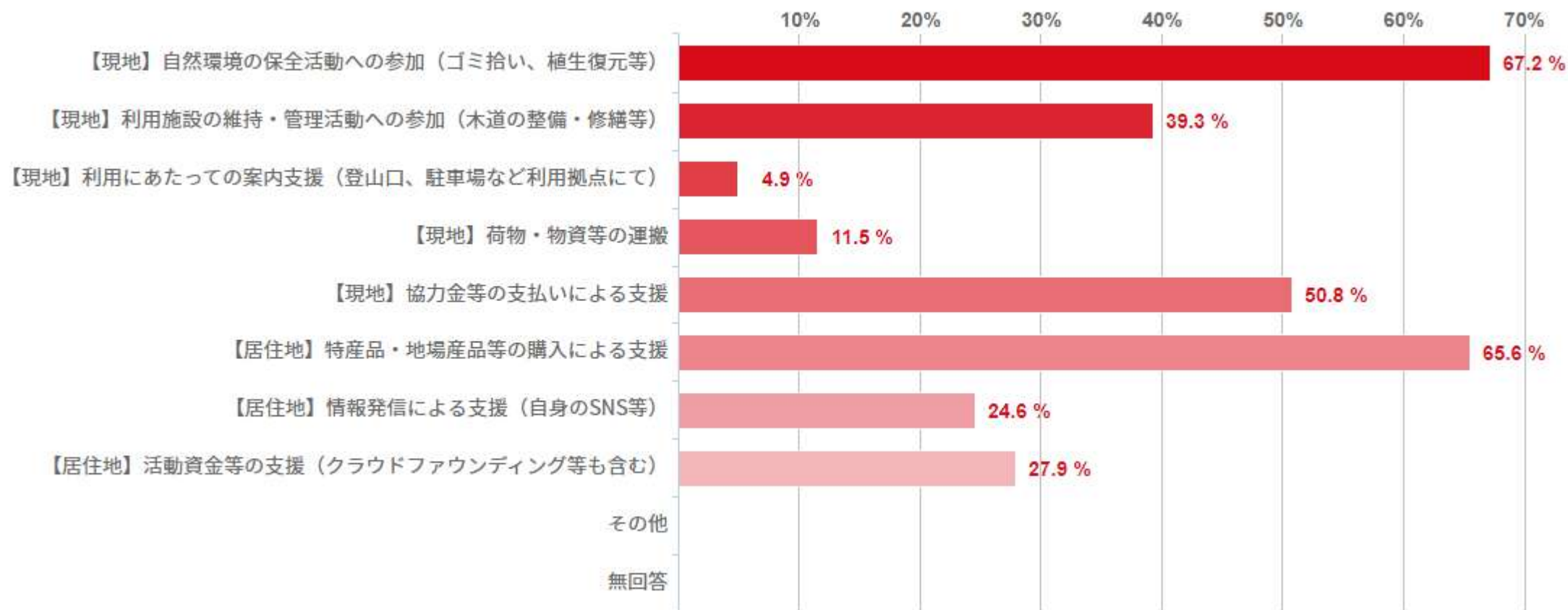
	都道府県	入山口	自由回答
21	千葉県	鳩待峠	車利用(キャンピングカー) のため、回送は大変です。今回は鳩待峠からですが、檜枝岐からが好きでそこに行くために今市で大好きな生湯葉を買ってから入ります。他のコースの推奨もありますが、途中のおいしいものをアピールするのも、手段です。檜枝岐でキャンプした時、釣り堀でイワナを買って焼き魚をしたことなどもアイデアです。
22	千葉県	鳩待峠	千葉から未明出発でも尾瀬戸倉まで3時間はかかるため、仕事ある中の限られた時間では、最短の鳩待峠ルートになってしまう。
23	千葉県	鳩待峠	都内からの交通便。
24	東京都	鳩待峠	(理由)アクセスがしやすいから
25	東京都	鳩待峠	常連の宿があるから
26	東京都	鳩待峠	マイカーで行くため、違う登山口だと車に戻るのが大変なため。
27	東京都	鳩待峠	アクセスの問題
28	東京都	鳩待峠	自宅から近い登山口を利用することが多かった。今回パンフレットなどを見て、尾瀬がこんなに広いのだということ、違う登山口からみた尾瀬はまた違った魅力があることを知りました。ひとつの登山口からだけでは辿り着けない場所もあり、違う登山口を使ってみたいと思いました。初心者だけでも楽しめるコースを広めていただけると挑戦してみようかなときっかけになると思います。20.30代の登山者を呼び込むとしたら、宿泊施設の話題性かと思います。
29	東京都	鳩待峠	すごくいいところですが、アクセスがよくなればいいと思います。
30	東京都	鳩待峠	交通アクセスの利便性のアピール。奥只見からのさらなる新潟側の観光アピールなどであると良い。関東圏からの利用は福島側か群馬側が都合良いので。御池側の山小屋が良さそうで気にはなっていたがコロナで閉鎖したりしていたので、復活したら大々的なアピールをお願いしたい。
31	東京都	鳩待峠	利便性
32	山梨県	鳩待峠	車が混雑するから 帰り道の渋滞があるから 駐車場の利便性(広さ&安い)や、道路の整備かなあ〜？

■最後に今後の尾瀬との関わりなどについて教えてください。

Q25. 複数回答

尾瀬の自然環境の保全と持続可能な利用のために、あなたが協力してみたいと思うものをお選びください。

(回答数: 61)



Q26. 自由記述

尾瀬がより良い国立公園となるために、発信したほうが良い魅力や、不足していると思われる情報等、改善すべき点がありましたらご記入ください。

自由回答

- 1 若者は尾瀬という地名を知らない人が多いので、知ってもらう活動をすべきである。
- 2 下山後の温泉情報。宿泊施設の一括した予約状況。
- 3 時折、あまりにも軽装な人がいるので、こういった人達への現地での声掛けが必要だと思います。
- 4 木道が滑りやすいことの案内、個人でできる対応策。
- 5 十分に発信されていると思います。
- 6 入山料の徴収を検討しても良いのでは？
自然の素晴らしさやマナーなどを楽しみながら参加できる参加型のアクティビティやイベント(沢山あるとは思いますが)をSNSで沢山情報発信してほしい。海外の方が多かったので、外国語などで。
アルプスの山小屋が集まって都心でPRイベント？みたいなのをしていたことがあります、そういうのを尾瀬チームでやってほしい。気軽に立ち寄って癒されたい。笑
- 7 富士山のように、登山口に任意で支援金を支払い、おまけで毎年違うバッチャや木や皮のキーホルダー(可愛い)など貰えると毎年行きたくなるかも。個人的には支援金ではなく僅かな金額でも支払うようにした方が良いと思う。登山道の整備や植物の保護、山小屋の維持など多くの金額が必要だと思うので。
ある山小屋で様々なアーティストが長期滞在して、アート作品を発信していたのが魅力的でした。他の山小屋でのミニコンサートも良かった。自然の中での音楽は最高です。以上です。だから関係ないこと書いてすみません…
- 8 木道の整備
- 9 木道が滑りやすく少し危険(鳩待峠→山の鼻→尾瀬ヶ原)
- 10 新たに入山料の設定 バイオトイレの充実
初めて訪れた時はアクセスがとてもわかりづらかった。尾瀬って何県にあるんだっけ？？という感じでした。一度訪れ数県にまたがるスケールの大きさを理解できました。発信は中年以上向けにはTVでこの前NHKでやっていたような各登山口からのアクセスを折り込む特番のもっと濃い版を作っていただきたい。尾瀬のインスタフォロー数を増やす工夫も必要な気がします！
- 11 大変な事ですが、一番は、木道の整備&補修 次に、至仏山の「斜めに傾いた階段」の 整備&補修・小屋やバス停で、協力金を募る ・クラウドファンディングで募る ・継続的に補修が可能な3県での 協力体制を整える
- 12 マナー
- 14 今のシステムでかなりしっかり確立している時思います。入山数抑制のため、また木道、山小屋の保守のため、入山料の徴収などの施策に賛同します。
トイレチップを払う人をほとんど見かけませんでした。多くの手をかけて私たち登山者や観光客が便利に快適に利用できていることをもっと知ってから来て欲しいと思いました。もっと利用者に意識を持ってもらえることが何かできないかと思いました。
- 15 良すぎてなにも言う事はないです。
山小屋と連携して、宿泊予約時に、入山時の各種ルールやマナー、情報、天気などの情報が一つのメールで確認できる
- 17 と便利だと思います。また、トイレ利用は都度100円をいれるのではなく、スキーのリフト乗車バスのように、事前に徴収する仕組みを作ってほしい。

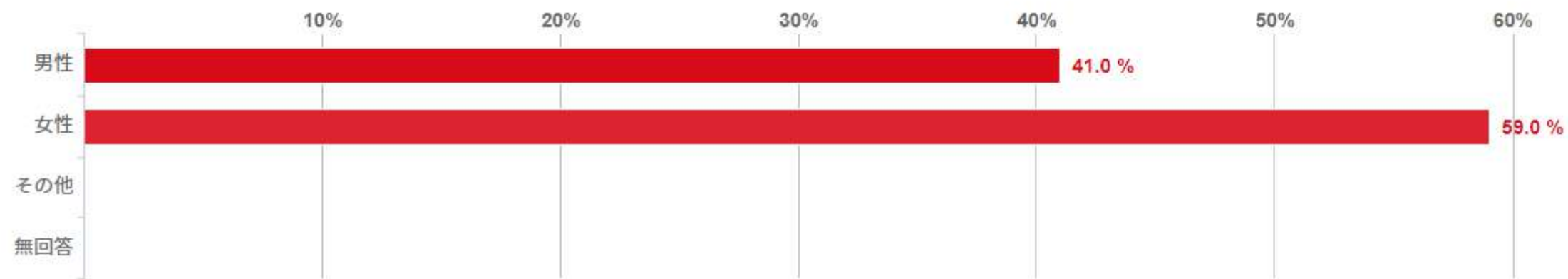
自由回答

- 18 休憩所とトイレ場所を増やして欲しい 又トイレは料金を払わないと利用できないようにトイレのドアにロッカーの鍵のようなものを取り付けた方が良い。
- 19 バス・タクシーの往復券を売ってほしい
- 20 戸倉駐車場のガイドマップが欲しい。行けばわかると思うが調べても駐車場周辺の情報がビジュアルにまとまった資料が出てこなかったため。駐車場側に日帰り入浴施設があるなど、まとめた情報があると良いと感じた
- 21 花豆ソフトがすごく美味しかったので、若い人のSNS投稿を条件に割引とか小さいソフトクリームプレゼントとかしてみたらどうでしょうか。
- 22 荒れている箇所、注意箇所など登山道の状態の発信
- 23 パンフレット等たくさん出て(特に福島県側) いますが、もっと整理してはと思います。
- 24 今のままがいい
- 25 今以上に魅力等の情報発信をする必要はないです。より良い国立公園にするためには、むしろ情報発信を控え、入山制限をしたほうが良いです。
登山コースの厳しさは初心者といえどもレベルに違いがあるかと思うので、写真などでコースの一部が見られたら、準備ができると思います。リアルタイムでの定点カメラの配信などもあれば活用したいと思いました。普通の靴や服で着ていた方もいたので。
- 26 尾瀬は情報発信をよくしていると思いますが、ゴミの持ち帰り、きれいなトイレを使えるありがたさ、トイレチップのお願いについては、どれだけ発信しても充分とはならない気がします
- 27 ヒールの靴で歩いている人がいたので、どんな装備が必要か、具体的に示したほうが良いと思います。
木道を歩いている時に私達は初心者で何もわからなかったので後ろから早い人が来た時にどうしたらいいのかわからなかった。止まって抜かしてもらうのがいいのか反対側に避けて行かせるのか分からないので何か看板やパンフに書いてあるといいなあと思います。
- 28 トイレマナーなどの周知 積極的な山小屋利用のアピールやアクセス情報、熊情報や天気など、集約サイトの充実を図っても良いかもしれません。 予約管理も各所で違うので、情報が分散しているのでたどり着けるようになど (各山小屋情報を集約してる大元サイトの管理をちゃんとする等)
- 30 木道整備が以前よりは良くなっている。トイレの数が少ないのが難点。
- 31 ネットが全然使えなくて、それが山小屋でゆっくりとした時間を過ごすのによかった。ネット断ちして、しぜんにかこまれて人間らしい時間を過ごせることは、知らなかった新しい魅力だと思う
- 32 四季折々の自然の美しさ、魅力 入山者の感想
- 33 良い点は、水力発電による自然エネルギー、心身共にリフレッシュ出来ること、家族で来やすいこと 改善すべきは、木道でのスリップ、怪我防止のゴムカバー設置をもっと
- 34 木道の整備
国立公園のことを知らない訪問者が多いように思われる。落ち葉を持っている子どもがいるし、石鹸使えるならシャンプー持ってくればよかったと言っている宿泊者もいる。トイレのお金を払わない人も多い。真面目な人ほど施設や山小屋からの注意を忠実に守るが、性格の違いで守らない人もいるので、注意ばかりしても魅力がなくなるし、日常生活と同じで難しく、自発的に尾瀬の環境をよくしていく心を持つようにできないかと考えてしまう。
- 35

Q27. 単一回答

性別

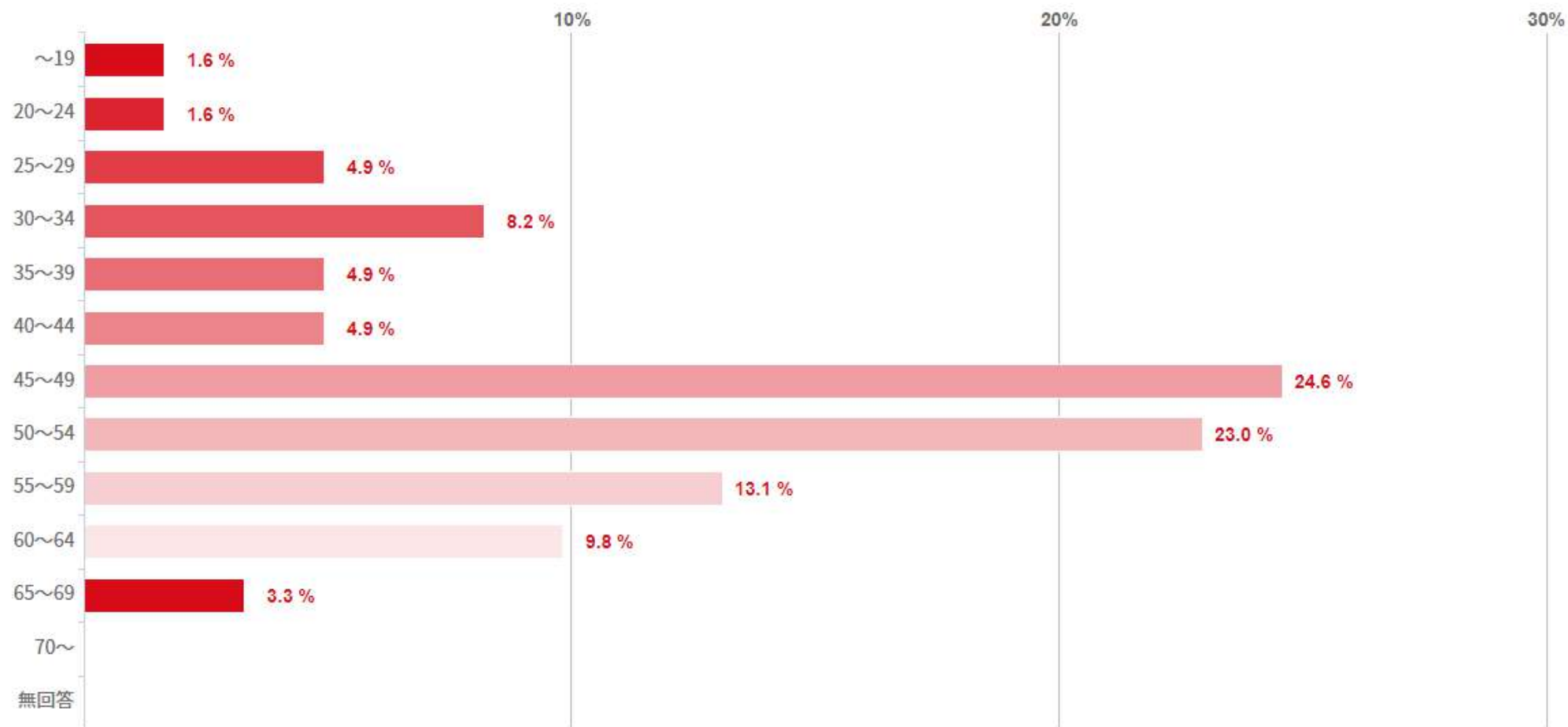
(回答数: 61)



Q. 単一回答

年齢

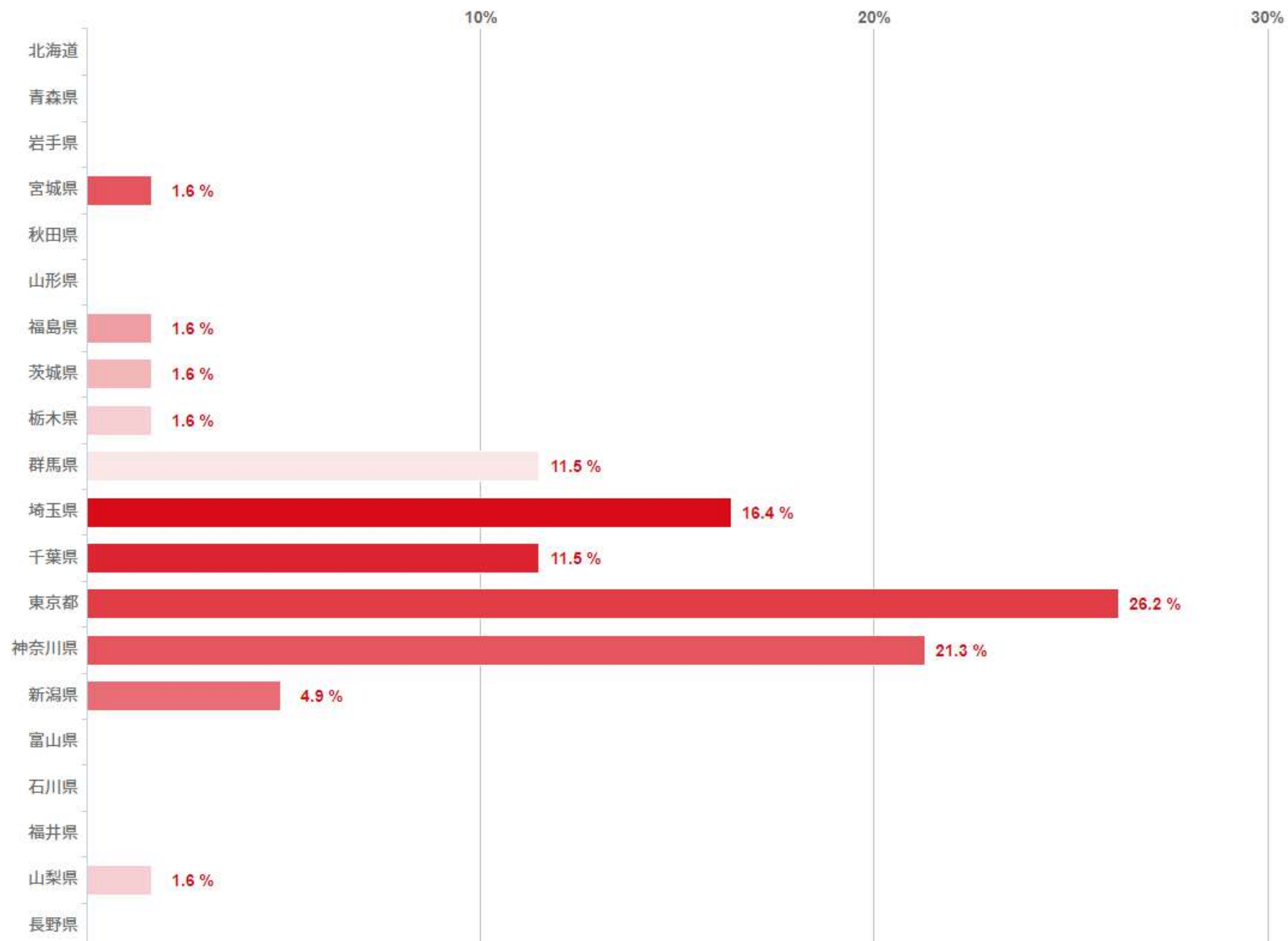
(回答数: 61)



Q. 単一回答

都道府県

(回答数: 61)



尾瀬関連事業報告（新潟県魚沼市）

【事業名】 尾瀬ネイチャーガイド養成講座

【事業主体】 新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会の三者からなる
「魚沼から行く尾瀬」誘客推進協議会

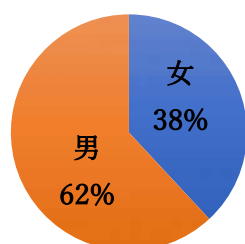
【関係機関】 奥只見郷ネイチャーガイド（尾瀬ガイド協会新潟支部）
※養成講座時の講師を依頼

【目的】 尾瀬⇄魚沼ルート利用者に対するガイド業務が継続的に行われるよう、後継者
確保を目的に尾瀬ネイチャーガイドの養成を実施。

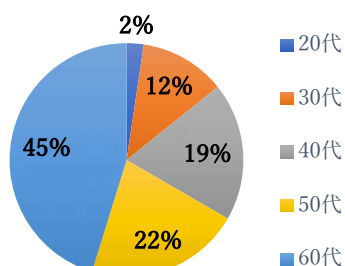
【養成講座内容】 全10回（座学9回、現地研修会1回）＋補講1回（翌年試験前のフォロー）
基本公式テキストに沿いながら筆記だけでなく、実技試験も想定した
現地研修を実施。現地研修は、過去受講者でその年実技試験受験予定者も
合同で実施。

養成講座 実施年度	現地研修会	募集人数	受講者	筆記試験			実技試験			ガイド 登録者	養成率
				受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率		
2017	1泊2日	無制限	9	4	4	100%	4	4	100%	4	44%
2018	1泊2日	無制限	5	3	3	100%	2	2	100%	2	40%
2019	1泊2日	無制限	7	2	2	100%	2	2	100%	2	29%
2020	日帰り ※コロナ	6	8	4	4	100%	4	3	75%	2	25%
2021	1泊2日	6	8	3	3	100%	3	2	67%	(調整中)	—
2022	日帰り ※台風	8	5		(	2023年度実施	)				
				42	16	16	—	15	13	—	10

受講者性別

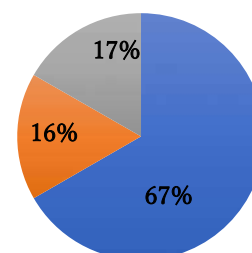


受講者年齢層



受講しようと思った理由

■ガイドに興味があった ■尾瀬が好きだから ■その他



もともと尾瀬に興味がある方や、山に興味がある方からの参加が例年多いが、中には尾瀬に行ったことがない方からも申込もあり。講座を通して尾瀬への興味、理解を深めていただけている反面、実際にリアルな内容を知ったことで、受験のハードルが上がるという方も多い傾向にある。

また、コロナ過では、仕事の関係から県外にある試験場に行くことができず受験を見送られた方も数名見受けられた。講座自体もオンラインの要望があり、筆記試験も会場を群馬、新潟、福島での開催や、オンライン開催になると受験者増も期待できるのではないか。

尾瀬関連事業報告（新潟県魚沼市）

【その他の事業】

本推進協議会では、2009 年に『魚沼から行く尾瀬』環境学習プログラムが作成され、2010 年には魚沼市内の小中学校を対象に尾瀬環境学習が開始。その後市外の学校の体験学習の受入、費用助成を実施。

学校数の減少等に伴い、助成は廃止したが学習プログラム（教材）の無料配布、ガイド向けの現地研修会などは継続して現在も実施している。

学校利用推移（過去 5 年）

参加校所在地	事業名	2018 H30実績		2019 H31(R1)実績		2020 令和2年度実績		2021 令和3年度実績		2022 令和4年度実績	
		学校数	生徒 児童数	学校数	生徒 児童数	学校数	生徒 児童数	学校数	生徒 児童数	学校数	生徒 児童数
魚沼市	魚沼尾瀬学校 ※H22～24は中学校含む	9	254	9	297	9	249	9	250	8	219
県内 魚沼市以外	「魚沼から行く尾瀬」 環境学習推進事業	1	12	0	0	1	7	1	6	—	—
県外	魚沼移動教室	20	1,310	19	1,295	—	—	—	—	—	—
	計	30	1,576	28	1,592	10	256	10	256	8	219



登山系YouTuberとの連携について

新・尾瀬ビジョン「みんなの尾瀬」視点4. 情報の効果的・効率的な発信

概要

- ・ YouTubeチャンネル「かほの登山日記」（登録者数25.9万人）で人気の登山系YouTuber・かほさんに動画制作を委託し、尾瀬燧ヶ岳・至仏山の魅力を発信

目的

- ・ 若者の尾瀬認知度向上、登山としての尾瀬の魅力訴求、尾瀬登山のマナーなどの普及啓発

内容

- ・ 1泊2日で燧ヶ岳・至仏山を縦走 燧ヶ岳：7/26公開 至仏山：7/30公開
- ・ 中間地点の尾瀬ヶ原・見晴地区に宿泊 7/28公開（かほさん自主制作）

効果

- ・ 3本合計で約32万回視聴（1/17時点） 内訳：燧ヶ岳約10万、至仏山約10万、山小屋約12万
- ・ 「行ってみたい！」「参考になった」など好意的なコメント多数

